

西尾市

男女共同参画に関する市民意識調査

【調査結果報告書】

平成 25 年3月

西 尾 市



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	3
II	調査結果の総括	5
1	市民意識調査の結果総括	6
(1)	回答者の属性について	6
(2)	男女の地位に関する意識について	6
(3)	職業・職場環境について	7
(4)	家庭・地域生活について	8
(5)	配偶者や恋人からの暴力について	10
(6)	男女共同参画全般について	10
III	市民意識調査 調査結果	13
1	回答者の属性について	14
(1)	回答者の状況	14
(2)	婚姻・家族の状況	16
2	男女の地位に関する意識について	21
(1)	男女の地位の平等感	21
(2)	女性の参画について	39
3	職業・職場環境について	41
(1)	女性の働き方について	41
(2)	仕事と家庭生活を両立するための制度について	43
(3)	職場における男女不平等の状況	53
4	家庭・地域生活について	55
(1)	結婚、離婚などに関する考え方について	55
(2)	仕事と家庭生活との両立について	63
(3)	介護について	67
(4)	地域活動について	68
5	配偶者や恋人からの暴力について	74
(1)	配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口を知っているか	74
(2)	配偶者や恋人からの暴力の経験の有無	78
(3)	配偶者や恋人からの暴力を受けた際の相談の状況	83

6	男女共同参画全般について .....	87
	(1) 「男女共同参画」という言葉を知っていたか .....	87
	(2) 男女共同参画の推進状況 .....	88
	(3) 男女共同参画社会に関する言葉で見たり聞いたりしたことがあるもの .....	89
	(4) 男女共同参画社会実現のために必要な取組み .....	91
IV	その他・自由回答 .....	97
1	その他回答 .....	98
	(1) 女性の参画について .....	98
	(2) 女性の働き方について .....	98
	(3) 仕事と家庭生活を両立するための制度の利用状況 .....	99
	(4) 職場における男女不平等の状況 .....	100
	(5) 配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口を知っているか .....	100
	(6) 配偶者や恋人からの暴力を受けた際の相談の状況 .....	100
	(7) 男女共同参画社会実現のために必要な取組み .....	101
2	自由回答 .....	102
V	調査票 .....	109

# I 調査の概要

# 1 調査の目的

---

本調査は、「第2次西尾市男女共同参画プラン」を策定するにあたり、西尾市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、計画づくりや施策の立案に活用することを目的として実施しました。

## 2 調査の実施概要

---

### ●調査対象者

平成24年10月現在、西尾市に居住している18歳以上75歳未満の市民2,000人（年齢、性別を考慮し、住民基本台帳から無作為に抽出）

### ●調査期間

平成24年10月1日から10月15日まで

### ●調査方法

調査票による本人記入方式

郵送による配布、郵送による回収（ハガキによる督促1回）

### ●調査項目

- ①回答者の属性について
- ②男女の地位に関する意識について
- ③職業・職場環境について
- ④家庭・地域生活について
- ⑤配偶者や恋人からの暴力について
- ⑥男女共同参画全般について

### ●回収結果

区分	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
市民意識調査	2,000	1,056	1,056	52.8%

## 3 報告書の見方

---

### ●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。なお、クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

また、男女共同参画の意識をみるために特に重要な4項目（男女の地位の平等感、女性が職業を持つことについての考え、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識、男女共同参画という言葉の認知度）において、地区別のクロス集計結果を記載しています。

### ●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

### ●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

### ●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

### ●比較分析について

比較分析において使用した調査名は次のとおりです。

- ・愛知県平成20年度実施「男女共同参画意識に関する調査」
- ・内閣府平成24年度実施「男女共同参画社会に関する世論調査」

#### 有効回収数

対象調査	全体	女性	男性
愛知県平成20年度実施	2,124	1,153	971
内閣府平成24年度実施	3,033	1,601	1,432





## Ⅱ 調査結果の総括

# 1 市民意識調査の結果総括

---

## (1) 回答者の属性について

今回の市民意識調査は男性に比べ女性の回答数が多く、回答者の男女比は「女性」が 57.8%、「男性」が 41.3%となっています。

回答者の年齢の分布を実際の西尾市の 18 歳以上 75 歳未満の年齢別人口と比較すると、20 代、30 代の回答が少なく、60 代での回答が多くなっています。

回答者の職業は、女性では「家事専業」「パート・アルバイト」、男性では「会社員・公務員」がそれぞれ多くなっています。回答者の既婚の割合は 67.1%であり、そのうち、夫婦の働き方が「共働き」の割合が 52.9%、「片働き」（夫または妻のどちらか一方が家計を支えている夫婦の形態）の割合が 26.2%となっています。

## (2) 男女の地位に関する意識について

**○「学校教育の場」は男女が平等であると感じられているが、その他の分野では男性が優遇されていると感じられている。**

8つの分野において男女の地位が平等になっていると思うかの設問では、「平等である」の割合が最も高い分野は「学校教育の場」となっています。また、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの）の割合が高い分野は「社会通念・慣習・しきたりなど」となっています。『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの）は、すべての分野で 10%未満となっており、「学校教育の場」以外の 7つの分野で、『男性優遇』の割合が最も高くなっています。

また、すべての分野で、女性は男性よりも『男性優遇』と感じる割合が高くなっており、男女で意識が異なっています。

「家庭生活」「職場」といった、市民の生活に身近な分野でも『男性優遇』の割合がそれぞれ 50.2%、53.0%となっており、特に「家庭生活」では全国調査よりも『男性優遇』の割合が 7.0ポイント高くなっています。

**○回答者のうち約7割は、何らかの職業・役職に女性が增える方がよいと感じている。**

女性が增える方がよいと思う職業や役職についての設問では、「弁護士、医師などの専門職」「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」の割合が高くなっています。また、全体のうち 69.5%（全体から「特にない」「わからない」「不明・無回答」を除いた割合）は、何らかの職業・役職に女性が增える方がよいと感じています。

### <結果の総括と今後の課題>

男女の地位の平等感において、ほとんどの分野で『男性優遇』が「平等」や『女性優遇』を上回っており、市民は様々な場面で、男女平等になっていないと感じていることがわかります。市の施策としては、特に「家庭生活」「職場」「地域活動の場」といった、市民の生活に身近な分野で男女平等の実感が高まるよう、啓発や情報提供、環境整備を進めていく必要があります。

また、様々な分野への女性の参画促進が求められていることから、これまで以上に女性の発想や能力を活用できるよう、方針決定過程や、女性が少ない分野への女性の参画を促進していくことが必要です。

## (3) 職業・職場環境について

### ○年齢、性別に関わらず、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」という女性の働き方が支持されている。

女性が職業を持つことについてどう思うかの設問では、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」とする割合が45.9%と、最も高くなっています。全国調査では「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」という働き方が最も支持されており、傾向が異なっています。しかし、西尾市でも10代、20代では「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が最も高くなっています。

### ○育児休業制度、子の看護休暇制度、介護休業制度、介護休暇制度のうち、育児休業制度が最も市民に浸透している。

### ○各種休業・休暇を取得できなかった理由として、最も回答が多いものは「職場に休める雰囲気がないから」。

各種休業・休暇制度を知っているかの設問では、育児休業制度は「内容を知っている」が44.1%、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が47.0%となっており、市民に浸透しています。しかし、その他の制度（子の看護休暇制度、介護休業制度、介護休暇制度）はいずれも「知らない」の割合が最も高くなっており、制度が浸透していない状況となっています。

各制度の利用状況をみると、働いている女性の10.9%、働いている男性の1.2%が育児休業を「取ったことがある」と回答しています。「取りたかったが、取ったことはない」という、希望しているにも関わらず利用できなかった割合が最も高い制度は子の看護休暇制度となっています。

また、各種休業・休暇を「取りたかったが、取ったことはない」理由については、「職場に休める雰囲気がないから」が55.6%と最も高くなっています。男性では女性に比べて「経済的に苦しくなるから」「自分の仕事には代わりの人がいないから」といった回答が多くなっており、経済面の問題や職場での責任の重さなどが、各制度の利用を阻む要因となっています。

### ○働いている人の約半数が、職場に何らかの男女不平等があると感じている。

職場で、性別によって不平等な取り扱いがあるかの設問では、「特に男女で不平等な取り扱いはない」が36.7%となっていますが、全体のうち49.9%（全体から「特に男女で不平等な取り扱いはない」「不明・無回答」を除いた割合）が、何らかの不平等があると感じています。不平等の内

容は、女性では「賃金・昇給に差がある」、男性では「性別によって配置されない職種がある」「残業の時間に差がある」の割合が、それぞれ高くなっています。

#### <結果の総括と今後の課題>

西尾市では、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」という女性の働き方が支持されているため、子育て後の女性の就労を支援する取組みに力を入れるとともに、企業の理解を促していく必要があります。

育児休業は市民に浸透してきており、取得する人もみられるようになってきました。しかし、その他の休業・休暇は内容を知らない人も多く、取得も進んでいない状況であるため、市民がライフスタイルに応じた多様な働き方を選択できるようにするためにも、制度の周知を進めていくことが重要です。

また、現在働いている人の約半数が、職場に何らかの男女不平等があると感じています。職場において、性別にかかわらず能力に応じた適正な処遇がなされるようにするとともに、固定的な性別役割分担意識に捉われない働き方について啓発していくことが必要です。

## (4) 家庭・地域生活について

### ○ 固定的な性別役割分担に賛成する割合が、反対する割合よりも高い。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という、固定的な性別役割分担に対する考え方については『賛成派』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの）が『反対派』（「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの）を上回っています。

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」「結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい」「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」といった、結婚観についての設問では、すべてにおいて愛知県調査と比べて『賛成派』の割合が低くなっています。

また、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい」という考えに対しては、20代、30代で『賛成派』の割合が高く、個人の意見を尊重する傾向がみられます。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについては、年齢が上がるにつれて『賛成派』の割合が高くなっていますが、20代で29.6%、30代で38.4%が『賛成派』となっており、年齢に関わらず、固定的な性別役割分担を支持する意識が残っていることがうかがえます。

なお、家庭や結婚、離婚などに対する考え方については、いずれの設問でも「どちらともいえない、わからない」の割合が高くなっており、個人の価値観が多様化していることなどが背景にあると考えられます。

### ○ 平日の家事時間は、女性で「1時間～3時間未満」、男性で「まったく関わっていない」が最も多い。共働きであっても、女性の家事時間は男性より長くなっている。

平日に家事や育児・介護などに携わる平均的な時間についての設問では、女性で「1時間～3時間未満」、男性で「まったく関わっていない」の割合がそれぞれ最も高くなっており、差がみら

れます。夫婦の働き方別でも、共働き、片働きに関わらず、女性の家事や育児・介護などに携わる時間は男性よりも長くなっており、女性の負担が大きくなっていることがうかがえます。

### ○生活の中で優先できていないものは、女性で「個人の生活」、男性で「家庭生活」「個人の生活」。

生活の中で実際に優先しているものと、理想として優先したいものについての設問では、希望していても優先できていないものは、女性で「個人の生活」、男性で「家庭生活」「個人の生活」となっています。特に男性は、64.9%が実際に優先しているものは「仕事」と回答しており、仕事に偏重した生活バランスになり、家庭を優先できていない状況にあることがわかります。

### ○女性は「介護施設」、男性は「配偶者・パートナー」を介護者として希望しており、意識に差がみられる。

介護が必要になった場合に希望する介護者についての設問では、女性は「介護施設などで」、男性は「家庭で、配偶者・パートナーに」の割合がそれぞれ高くなっています。また、女性では「家庭で、娘に」とする割合が10.7%みられ、介護の担い手として女性の負担が大きくなることが懸念されます。

### ○社会的な活動に参加するための障害として最も回答が多いものは「仕事で忙しい」。

地域の活動に参加した経験についての設問では、20代で最も『参加経験がある』（「現在参加している」と「かつて参加していたが現在はしていない」を合わせたもの）割合が低くなり、30代以上では30%前後が「現在参加している」と回答しています。『参加経験がある』活動では、女性で「PTAや子ども会」、男性で「町内会や自治会」の割合がそれぞれ高くなっており、活動の種類にも男女差がみられます。社会的な活動に参加しようと思うとき、障害になるものについての設問では、男女ともに「仕事で忙しい」「時間帯が合わない」の割合が高くなっており、特に男性では「仕事で忙しい」が50%を超えています。

#### <結果の総括と今後の課題>

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担に関する市民の意識をみると、『賛成派』が『反対派』を上回っています。女性や男性の人生の選択を狭めてしまうことがないように、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発を進めていく必要があります。

家事や育児・介護に携わる時間では、就労状況に関わらず、女性が男性に比べて非常に長くなっています。また、生活のバランスにおいても、男性は仕事を優先しており、家庭生活が優先できていない状況がみられます。さらに、地域活動においても、活動の障害として男性で「仕事が忙しい」とする回答が多くなっていることから、仕事に偏重する男性の生活スタイルが、家庭や地域、個人の活動を優先しにくい状況にしていると考えられます。男性が家庭や地域、個人の時間を確保できるよう、働き方の改革などを進めていく必要があります。

また、介護では、女性は介護施設などの社会的サービスの利用を求め、男性は配偶者からの介護を求める傾向がみられます。介護保険によるサービスの充実を図るとともに、望ましい高齢期の介護の在り方について、それぞれの家庭において話し合うことなどが必要です。

## (5) 配偶者や恋人からの暴力について

### ○半数以上が、配偶者や恋人からの暴力について相談できる何らかの窓口を知っている。

配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口についての設問では、「知っている」割合は54.9%となっており、愛知県調査と比較して「知っている」割合が高くなっています。知っている相談窓口は、「警察署」の他、市民に身近な「西尾市の相談窓口」の割合が高くなっています。

### ○配偶者や恋人からの暴力の被害経験がある人の割合は、身体的暴力で13.0%、精神的暴力で22.3%。いずれの暴力の種類においても、男性よりも女性で被害経験者の割合が高い。

配偶者や恋人からの暴力の経験についての設問では、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力の5つの暴力のうち、『被害経験があった』（「何度もあった」「1～2度あった」を合わせたもの）割合が最も高いものは精神的暴力であり、女性で24.6%、男性で18.8%となっています。また、身体的暴力は、女性の16.2%が『被害経験があった』と回答しています。外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするといった社会的暴力では、『被害経験があった』割合が10代で15.8%と、他の年代に比べ高くなっています。

また、暴力を受けた際の対応としては、「誰にも相談しなかった」割合が女性で39.7%、男性で59.0%と高くなっており、被害が潜在化していることが考えられます。相談しなかった理由としては「相談するほどのことではないと思った」が最も多く、被害を受けた認識が薄いことがうかがえます。

#### <結果の総括と今後の課題>

配偶者や恋人からの暴力の経験がある人が、身体的暴力で13.0%、精神的暴力で22.3%と、決して少ない値ではありません。暴力を受けた際に誰にも相談しない人がみられることから、相談窓口の周知を進めるとともに、より一層相談しやすい体制を整備し、被害が潜在化しないようにしていくことが必要です。また、どのようなことが暴力にあたるのかという認識も個人によって違いがあると思われるため、暴力の種類などについても周知を進めることが重要です。

## (6) 男女共同参画全般について

### ○「男女共同参画」という言葉について、意味を知っている、または聞いたことがある割合は52.1%で約半数。

男女共同参画という言葉について、「言葉の意味を知っていた」または「意味は知らないが、聞いたことがあった」割合は52.1%となっています。10代、20代では他の年代に比べて「言葉の意味を知っていた」割合が高くなっています。

この10年くらいの間に男女共同参画が進んだと思うかの設問では、男女共同参画という言葉の意味まで知っている人では68.3%が「かなり進んだと思う」または「やや進んだと思う」と回答しており、「あまり進んでいないと思う」または「まったく進んでいないと思う」とする22.8%

を上回っています。

男女共同参画社会に関する用語で見たり聞いたりしたものをたずねたところ、「ドメスティック・バイオレンス」「男女雇用機会均等法」は60%を超えていますが、それ以外は20%未満となっています。

**○市民には積極的な家事や育児・介護への参加が、企業には育児休業等を取得しやすい職場環境づくりと女性の再就職の推進が、行政には福祉サービスの充実が求められている。**

男女共同参画社会を実現するため、市民、企業、行政がそれぞれどのようなことに力を入れていくべきかと思うかの設問では、市民の役割としては、「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」の割合が最も高く、男性の家庭生活への参画促進などが求められています。

また、企業の役割では「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」の割合が高く、職場の意識改革や女性の就労促進などが求められています。

行政の役割では、「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」の割合が最も高くなく、仕事と家庭生活の両立を支援するための環境整備などが求められています。

**<結果の総括と今後の課題>**

「男女共同参画」という言葉を意味まで知っている人の割合は21.2%となっています。用語の正しい理解は男女共同参画の基本理念の理解にもつながるため、その正しい意味、内容を市民に周知していく必要があります。

男女共同参画推進のための市民、企業、行政の役割では、市民には、家事や育児・介護への参加が、企業には、仕事と家庭生活を両立するための職場環境づくりや女性の就労促進が求められており、行政には、それらの取組みを後押しするための意識啓発や情報提供と、男女共同参画社会を下支えするための各種福祉サービスの充実を図っていくことが求められています。





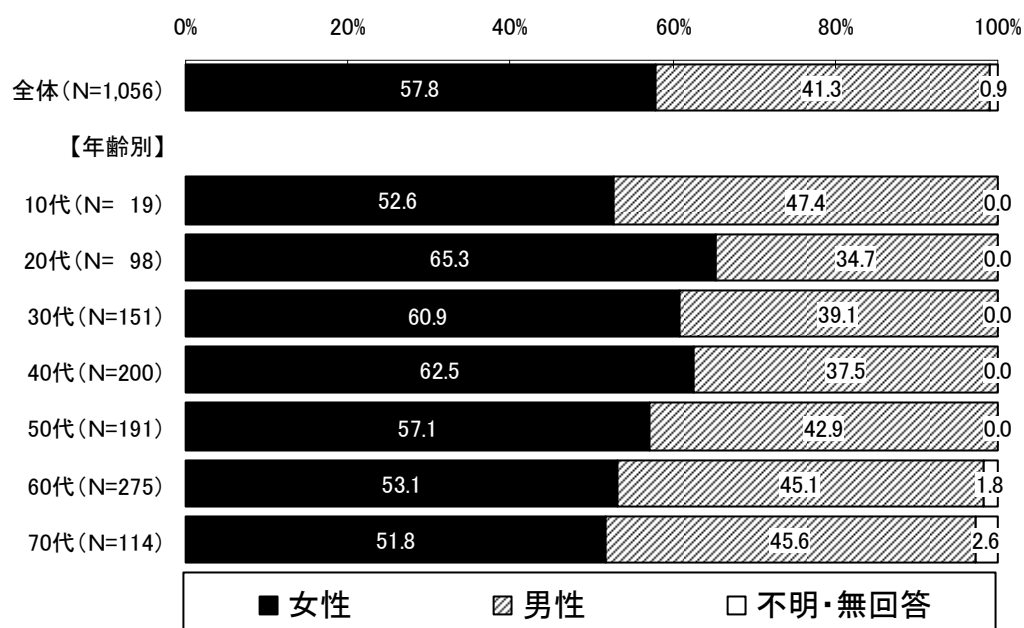
## Ⅲ 市民意識調査 調査結果

# 1 回答者の属性について

## (1) 回答者の状況

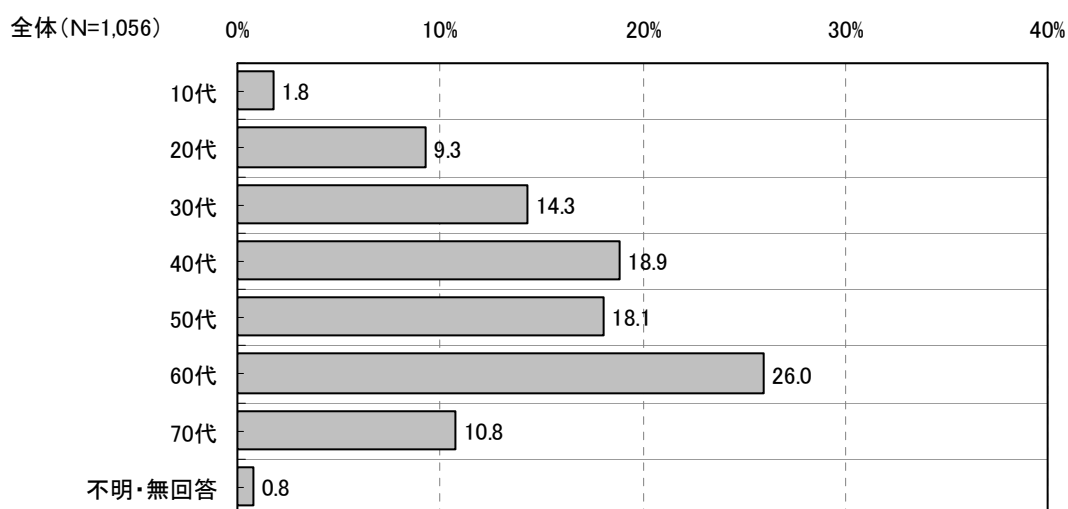
### 問1 性別 (○は1つだけ)

全体では「女性」が57.8%、「男性」が41.3%となっています。



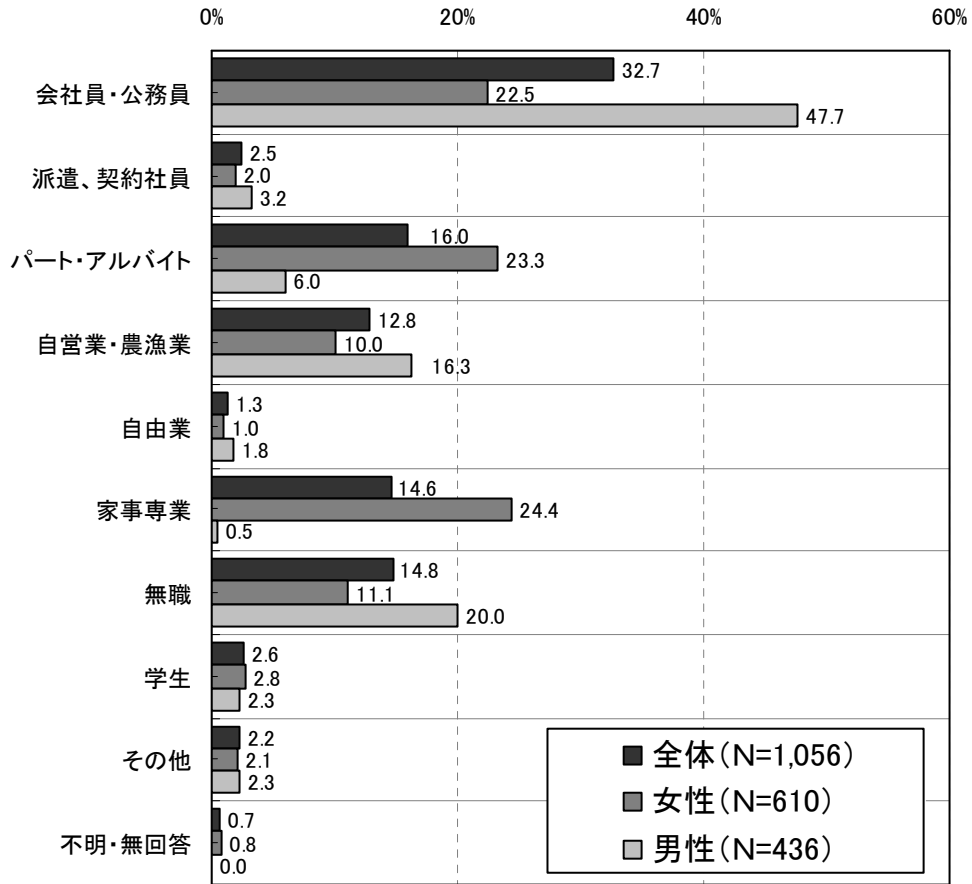
### 問2 年齢 (○は1つだけ)

「60代」が26.0%と最も高く、次いで「40代」が18.9%、「50代」が18.1%となっています。



問3 職業（○は1つだけ）

全体では「会社員・公務員」が32.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が16.0%、「無職」が14.8%、「家事専業」が14.6%となっています。



■ 年齢別クロス集計(職業)

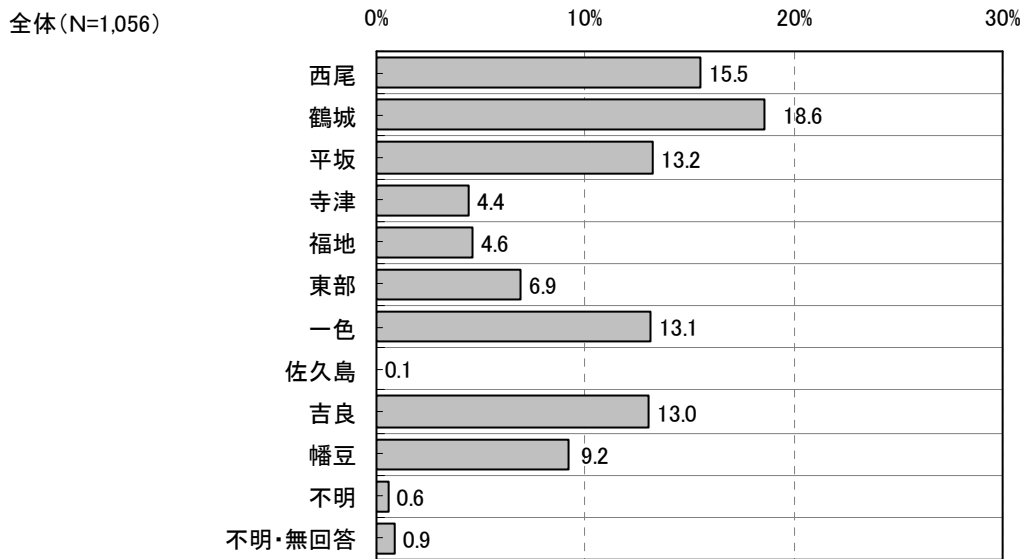
単位: %

	会社員・公務員	派遣、契約社員	パート・アルバイト	自営業・農漁業	自由業	家事専業	無職	学生	その他	不明・無回答
【年齢別】										
10代 (N=19)	10.5	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	78.9	0.0	0.0
20代 (N=98)	60.2	5.1	7.1	3.1	1.0	2.0	9.2	11.2	1.0	0.0
30代 (N=151)	44.4	3.3	18.5	7.3	1.3	15.9	4.0	0.0	5.3	0.0
40代 (N=200)	46.0	2.0	20.0	11.5	1.5	12.5	3.0	0.5	2.5	0.5
50代 (N=191)	37.7	2.6	19.4	17.8	1.0	13.6	5.2	0.0	2.6	0.0
60代 (N=275)	17.5	2.5	17.5	14.9	1.8	19.3	25.5	0.0	1.1	0.0
70代 (N=114)	3.5	0.0	6.1	19.3	0.9	20.2	47.4	0.0	0.9	1.8

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

問4 お住まいの中学校区（○は1つだけ）

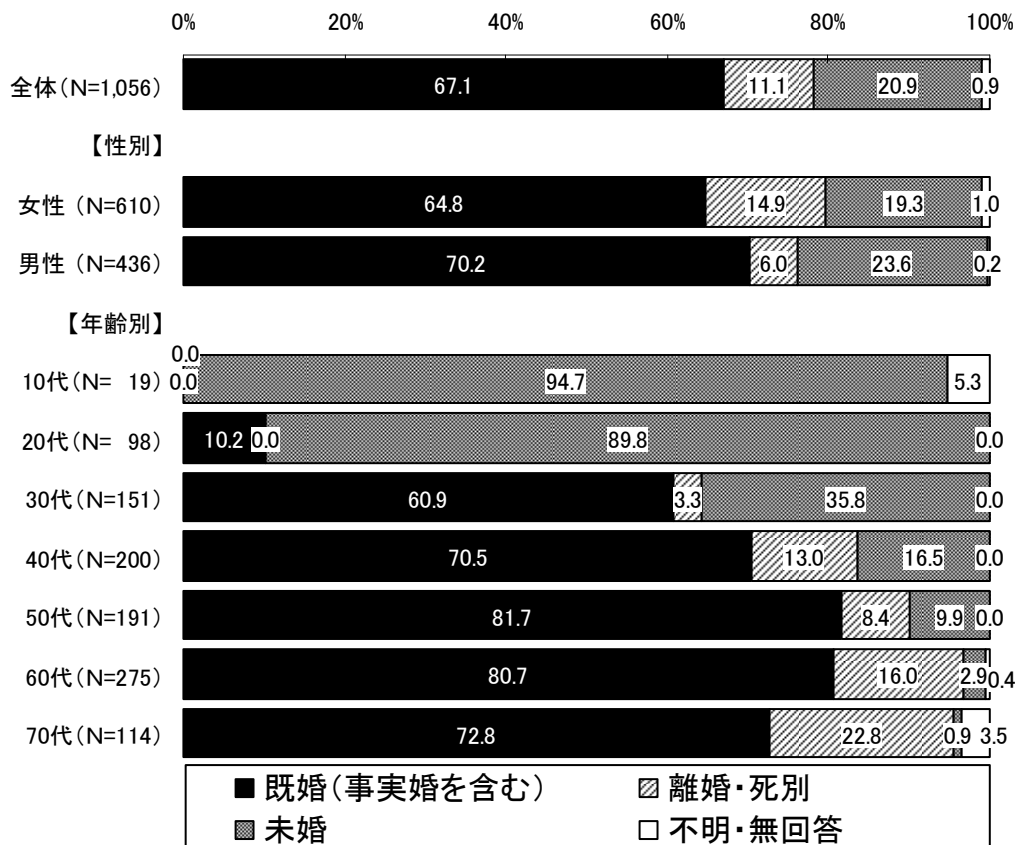
「鶴城」が18.6%と最も高く、次いで「西尾」が15.5%となっています。



(2) 婚姻・家族の状況

問5 婚姻状況（○は1つだけ）

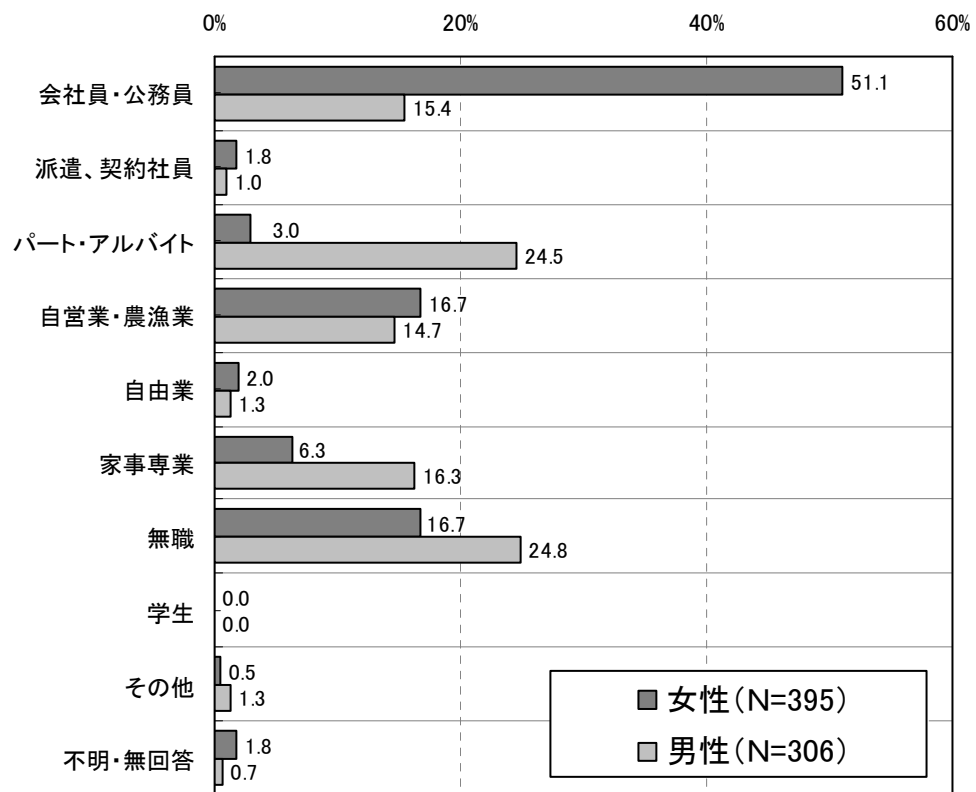
全体では「既婚」が67.1%と最も高く、次いで「未婚」が20.9%となっています。



<問5で「1既婚(事実婚を含む)」と回答した方のみ>

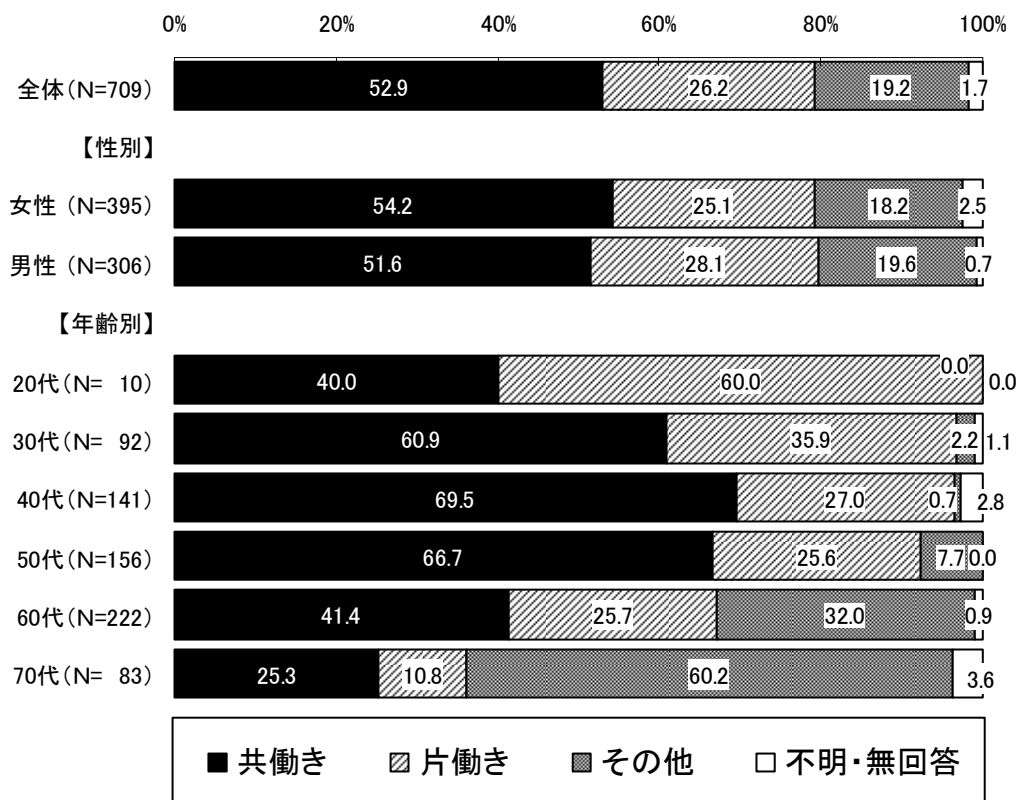
問6 配偶者・パートナーの職業(○は1つだけ)

女性では「会社員・公務員」が51.1%と最も高く、男性では「無職」が24.8%、「パート・アルバイト」が24.5%となっています。



## ■ 片働き・共働きの状況

全体では「共働き」が52.9%、「片働き」が26.2%となっています。



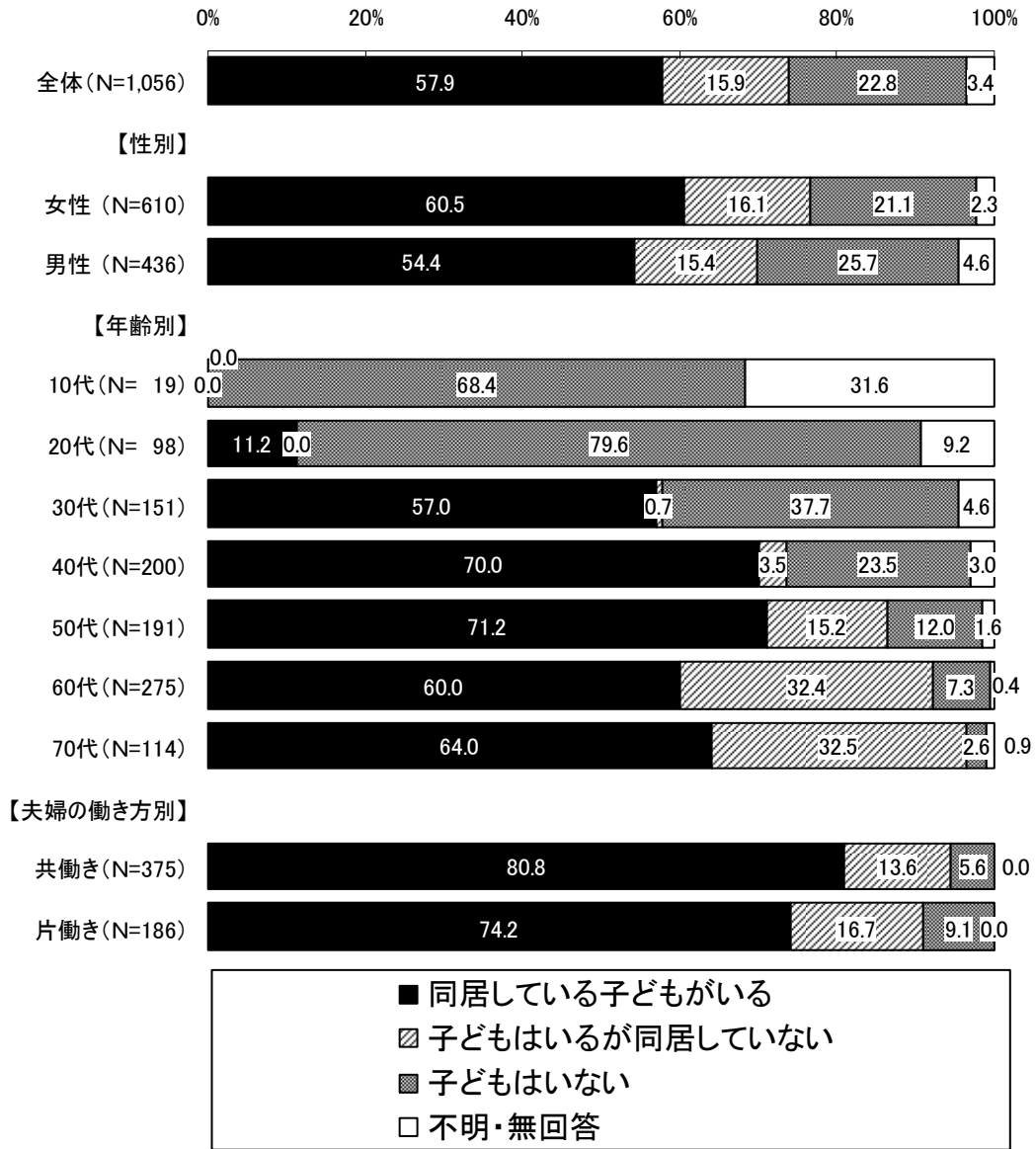
※共働き…回答者本人と配偶者・パートナーが、ともに「会社員・公務員」「派遣、契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・農漁業」「自由業」のいずれかを選んでいる場合。

片働き…回答者本人と配偶者・パートナーの一方が「会社員・公務員」「派遣、契約社員」「パート・アルバイト」「自営業・農漁業」「自由業」のいずれかを選んでいる場合、もう一方が「家事専業」「無職」「学生」のいずれかを選んでいる場合。

その他…回答者本人と配偶者・パートナーがともに無職の場合や、どちらかが未記入だった場合。

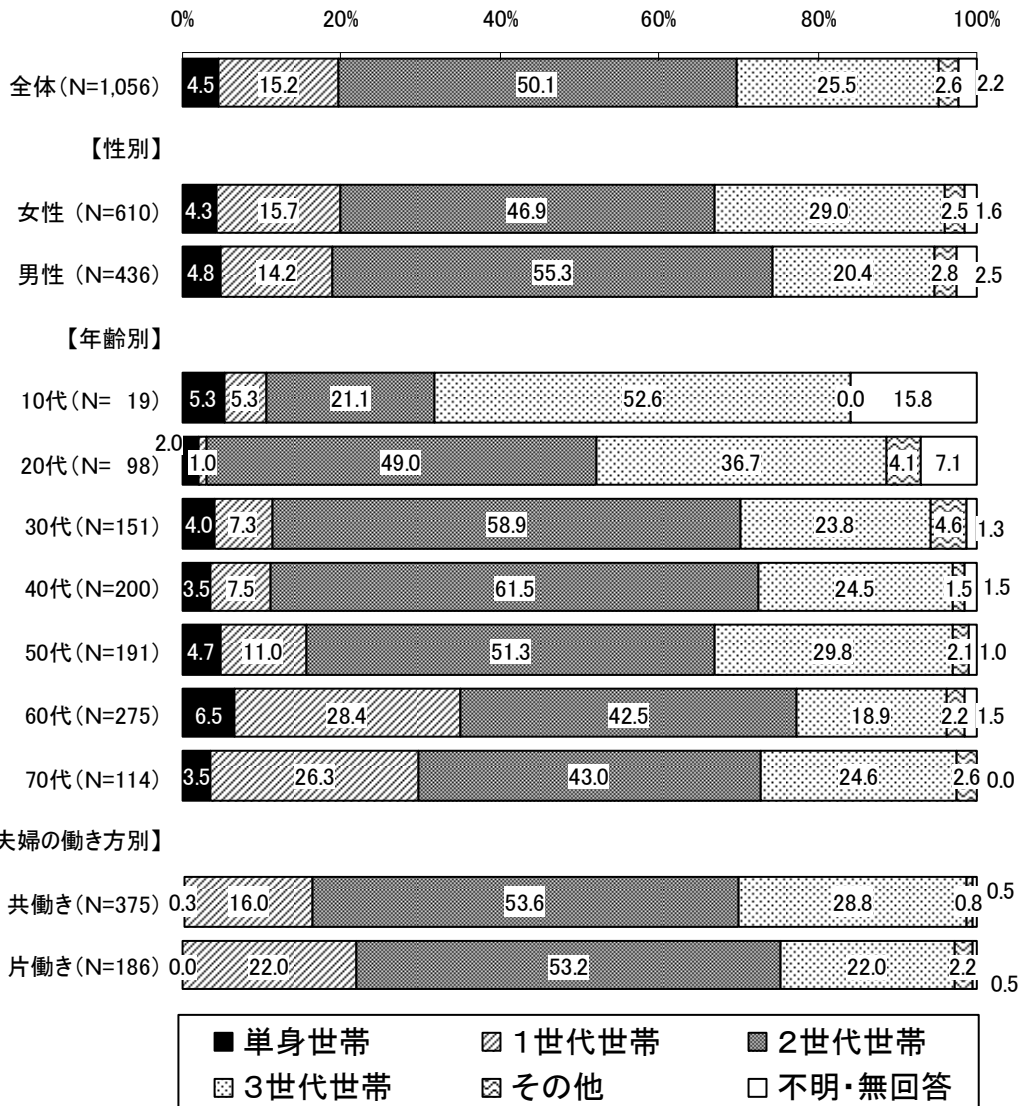
問7 子どもの有無（○は1つだけ）

全体では「同居している子どもがいる」が57.9%と最も高く、次いで「子どもはいない」が22.8%となっています。



問8 家族構成（○は1つだけ）

全体では「2世代世帯」が50.1%と最も高く、次いで「3世代世帯」が25.5%となっています。





## 2 男女の地位に関する意識について

### (1) 男女の地位の平等感

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

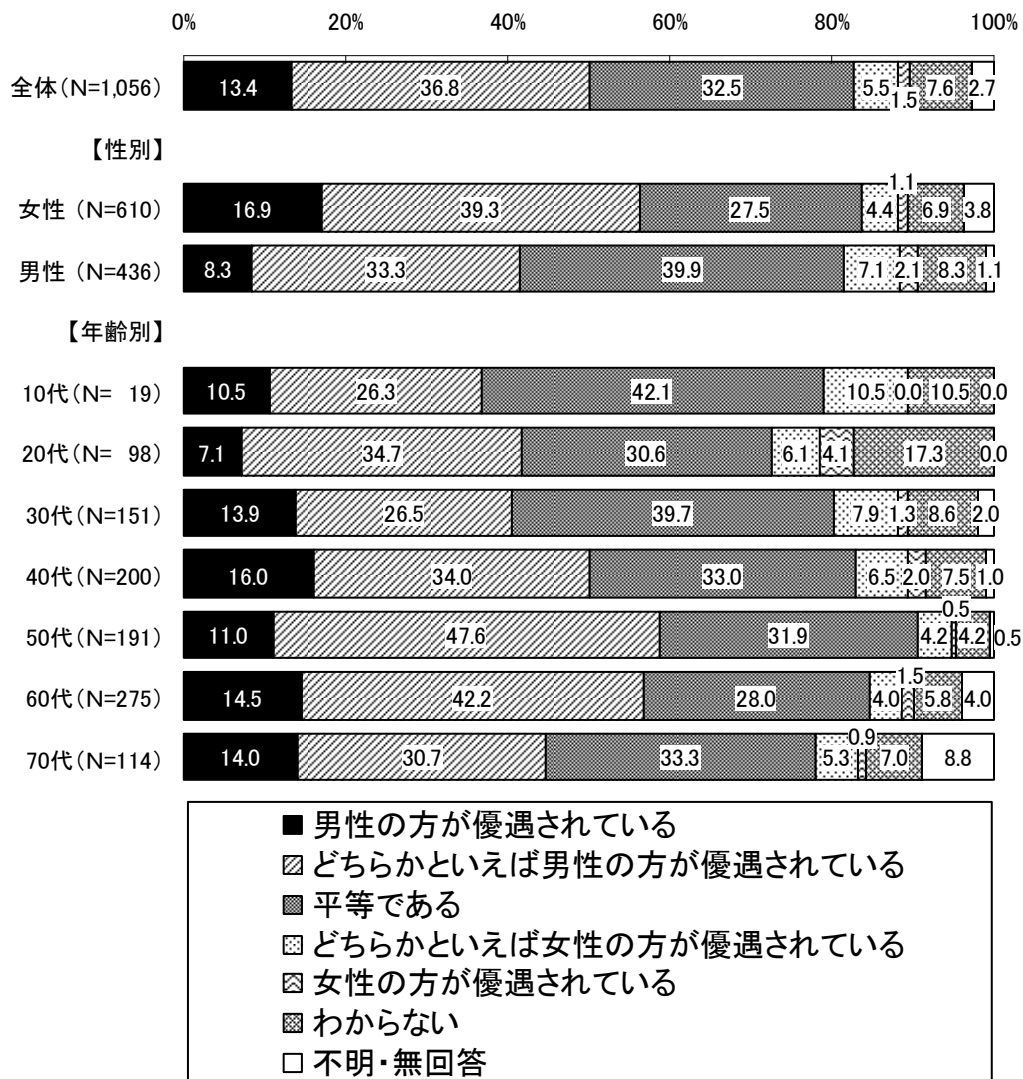
- 『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの
- 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせたもの

#### ① 分野別の男女の地位の平等感

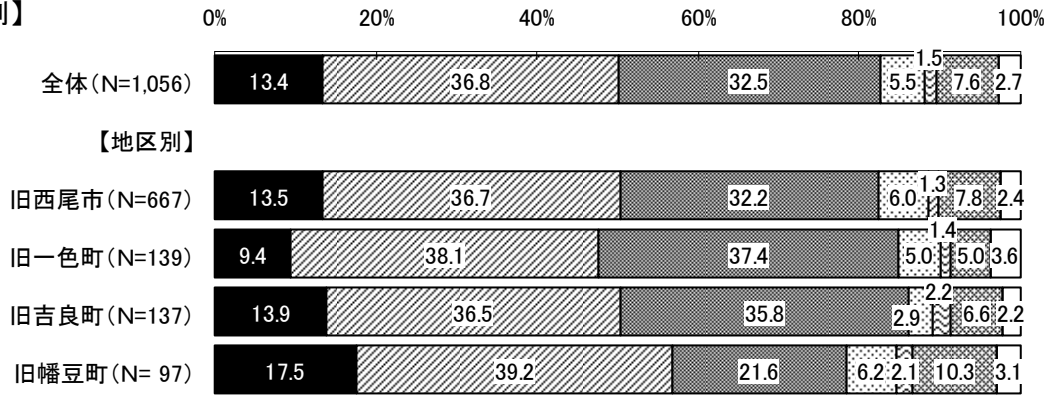
問9 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(A～Hのそれぞれについて、○は1つずつ)

#### A 家庭生活(単数回答)

全体では『男性優遇』が50.2%、「平等である」が32.5%、『女性優遇』が7.0%となっています。



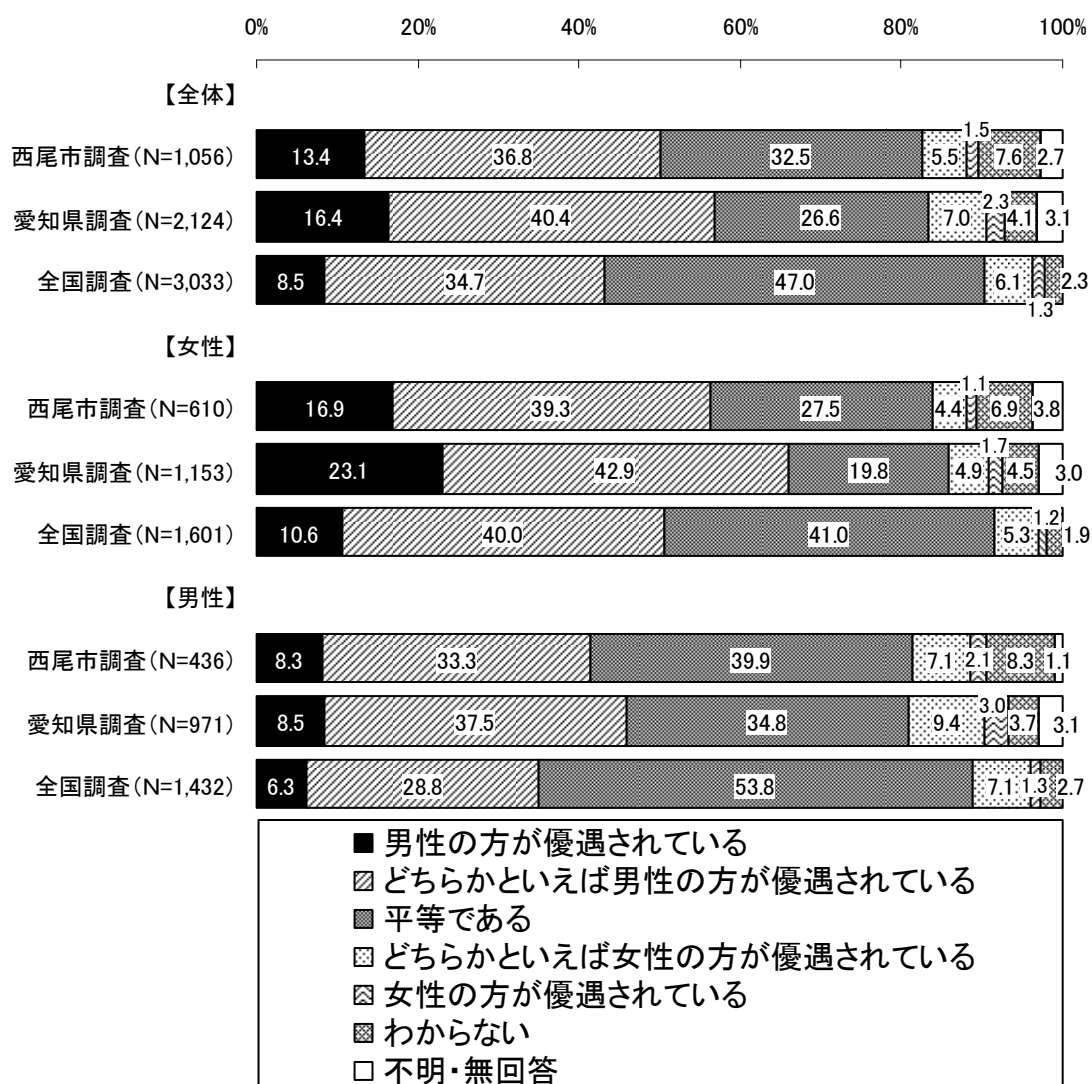
【地区別】



- 男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が優遇されている
- ▨ わからない
- 不明・無回答

■ 愛知県調査、全国調査との比較(家庭生活の平等感)

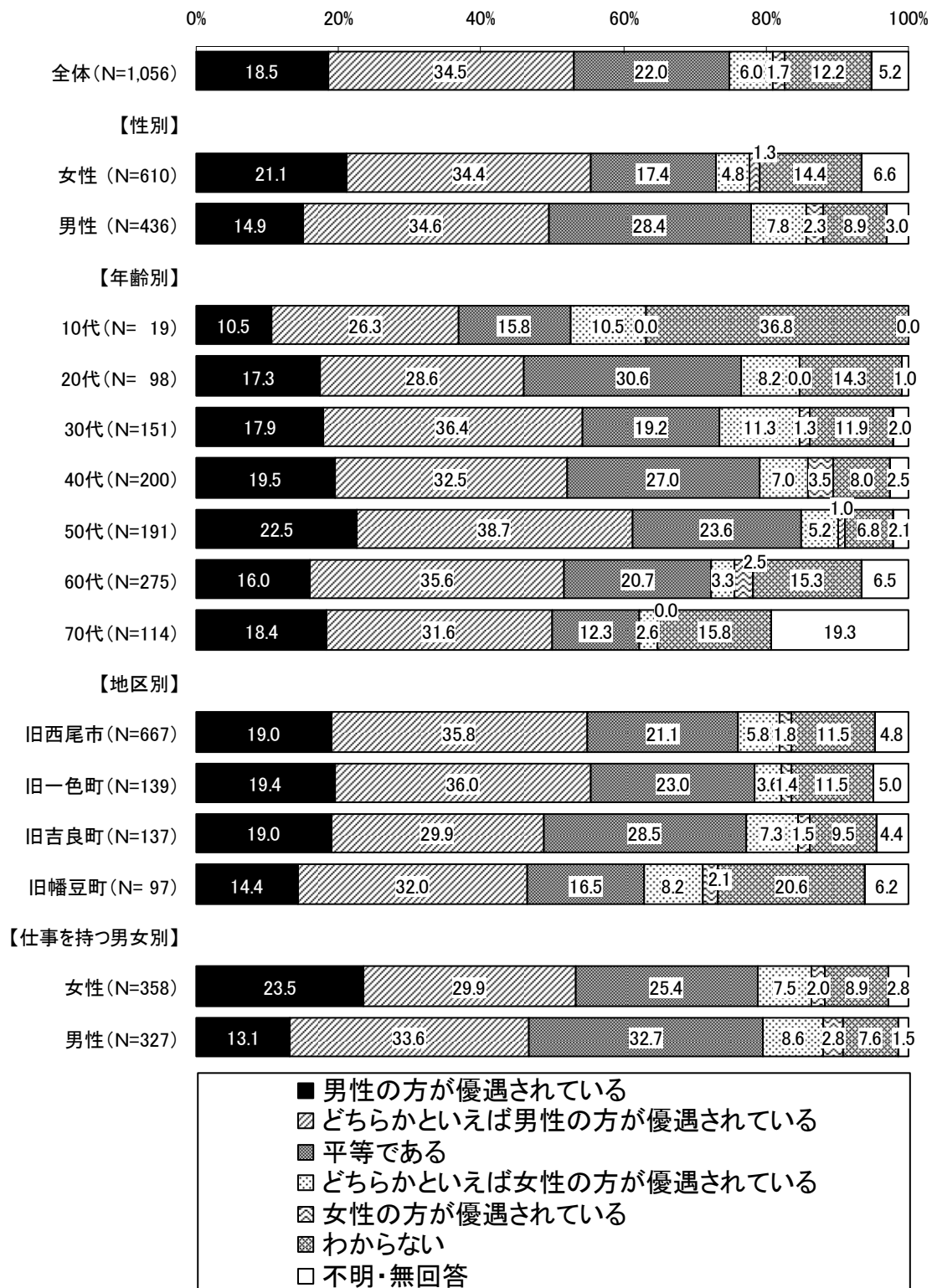
全体では『男性優遇』の割合が愛知県調査よりも低く、全国調査よりも高くなっています。



※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

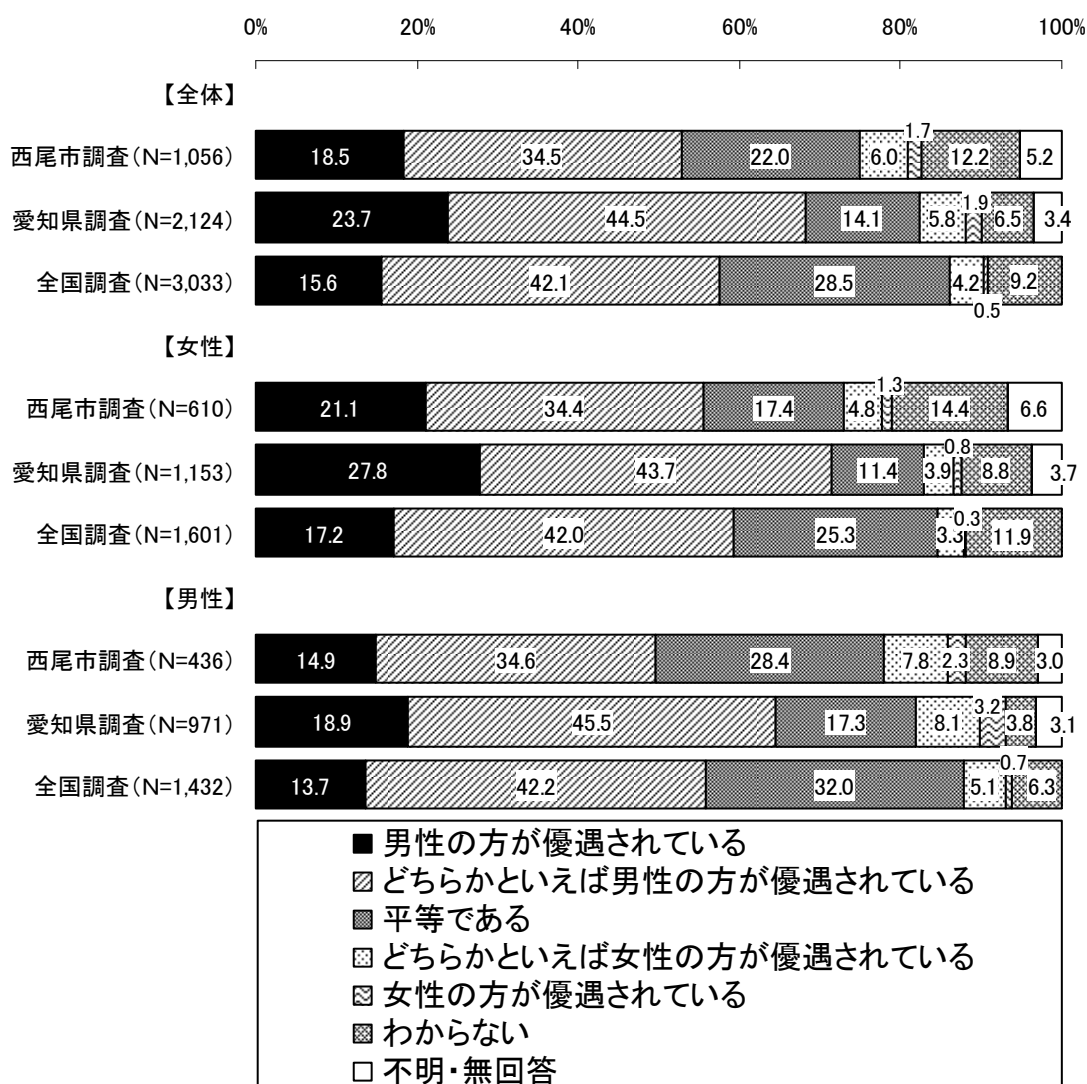
## B 職場(単数回答)

全体では『男性優遇』が53.0%、「平等である」が22.0%、『女性優遇』が7.7%となっています。



■ 愛知県調査、全国調査との比較(職場の平等感)

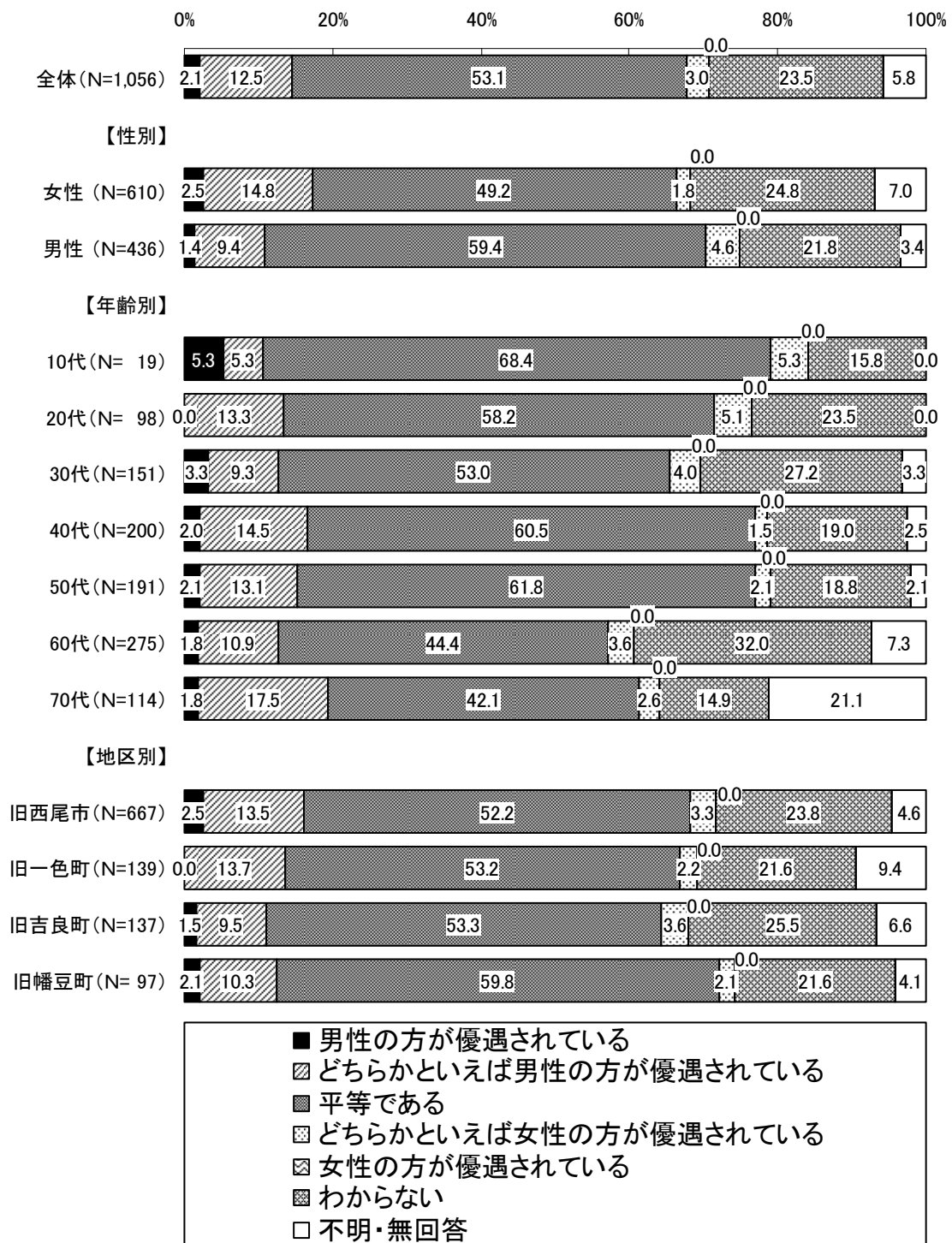
全体では『男性優遇』の割合が愛知県調査、全国調査と比べて低くなっています。



※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

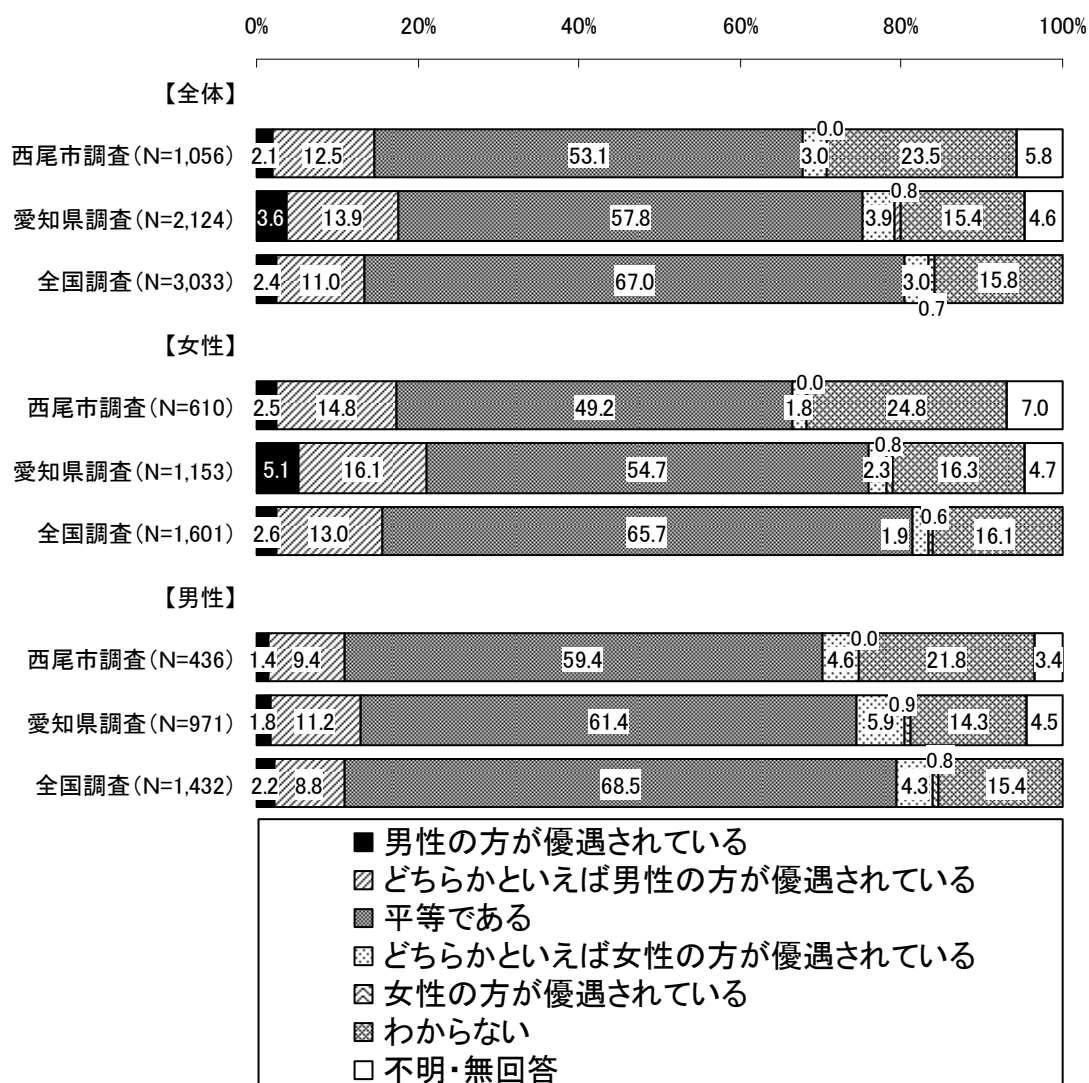
### C 学校教育の場(単数回答)

全体では「平等である」が53.1%、『男性優遇』が14.6%、『女性優遇』が3.0%となっています。



■ 愛知県調査、全国調査との比較(学校教育の場の平等感)

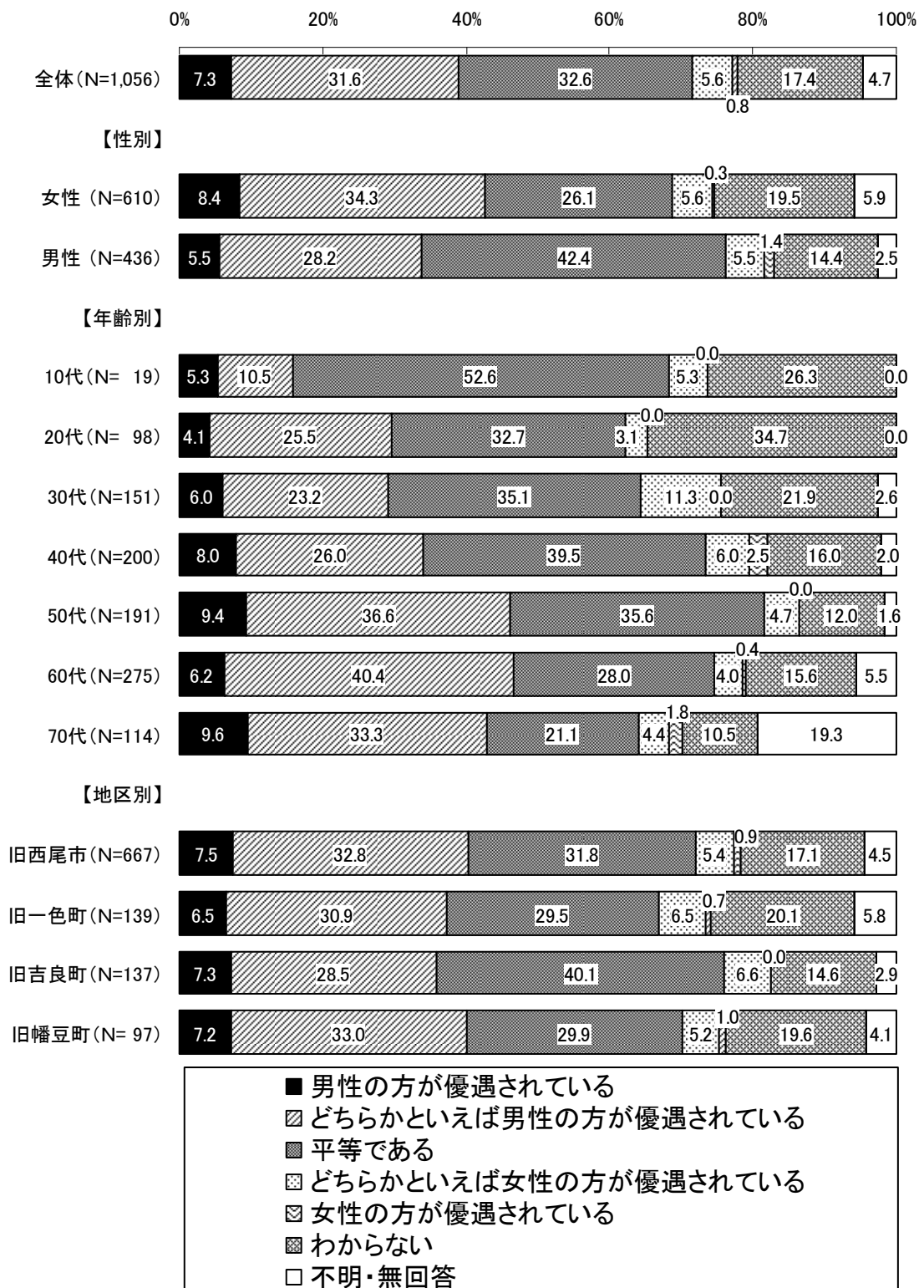
全体では『男性優遇』の割合が愛知県調査よりも低く、全国調査よりも高くなっています。



※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

## D 地域活動の場(単数回答)

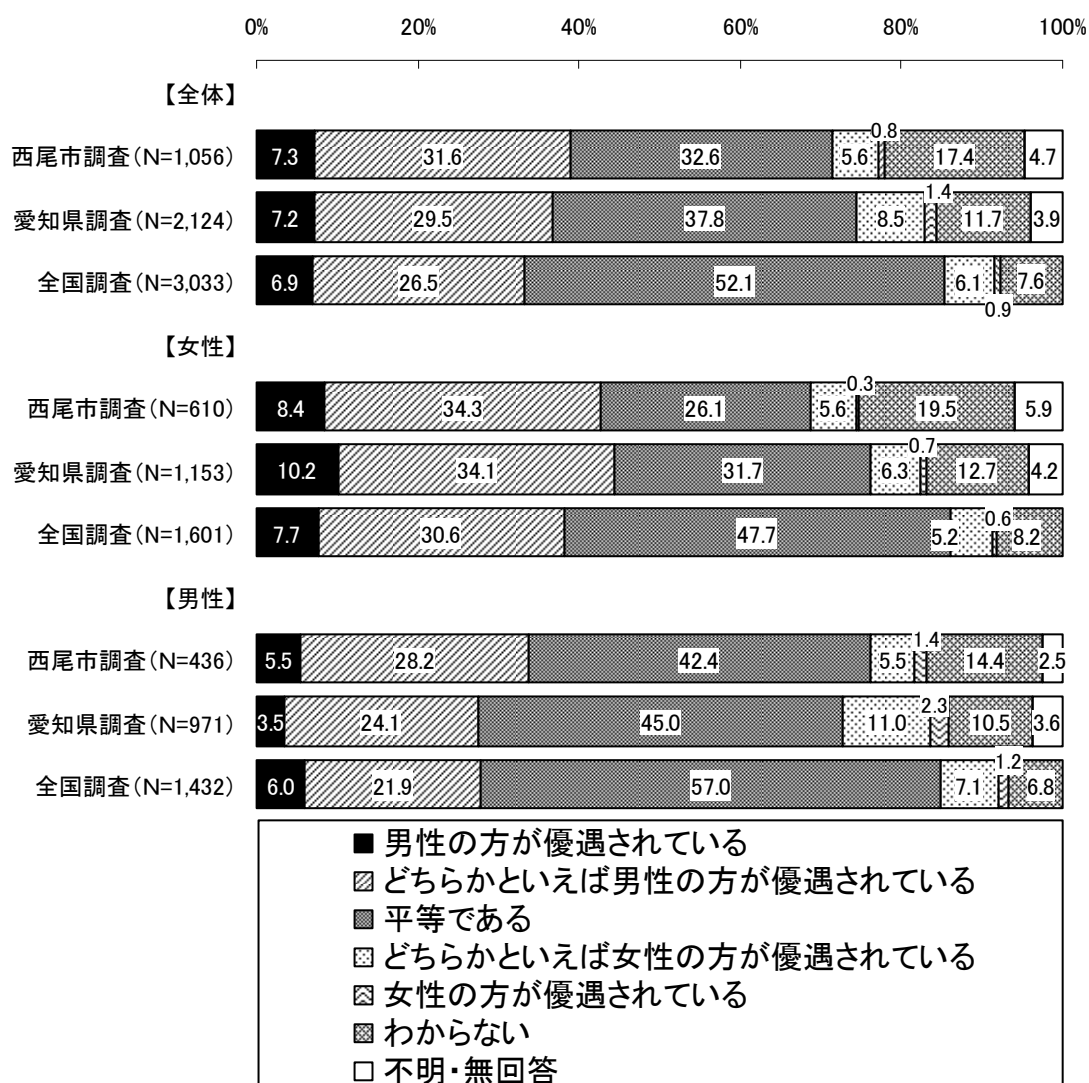
全体では『男性優遇』が38.9%、「平等である」が32.6%、『女性優遇』が6.4%となっています。





■ 愛知県調査、全国調査との比較(地域活動の場の平等感)

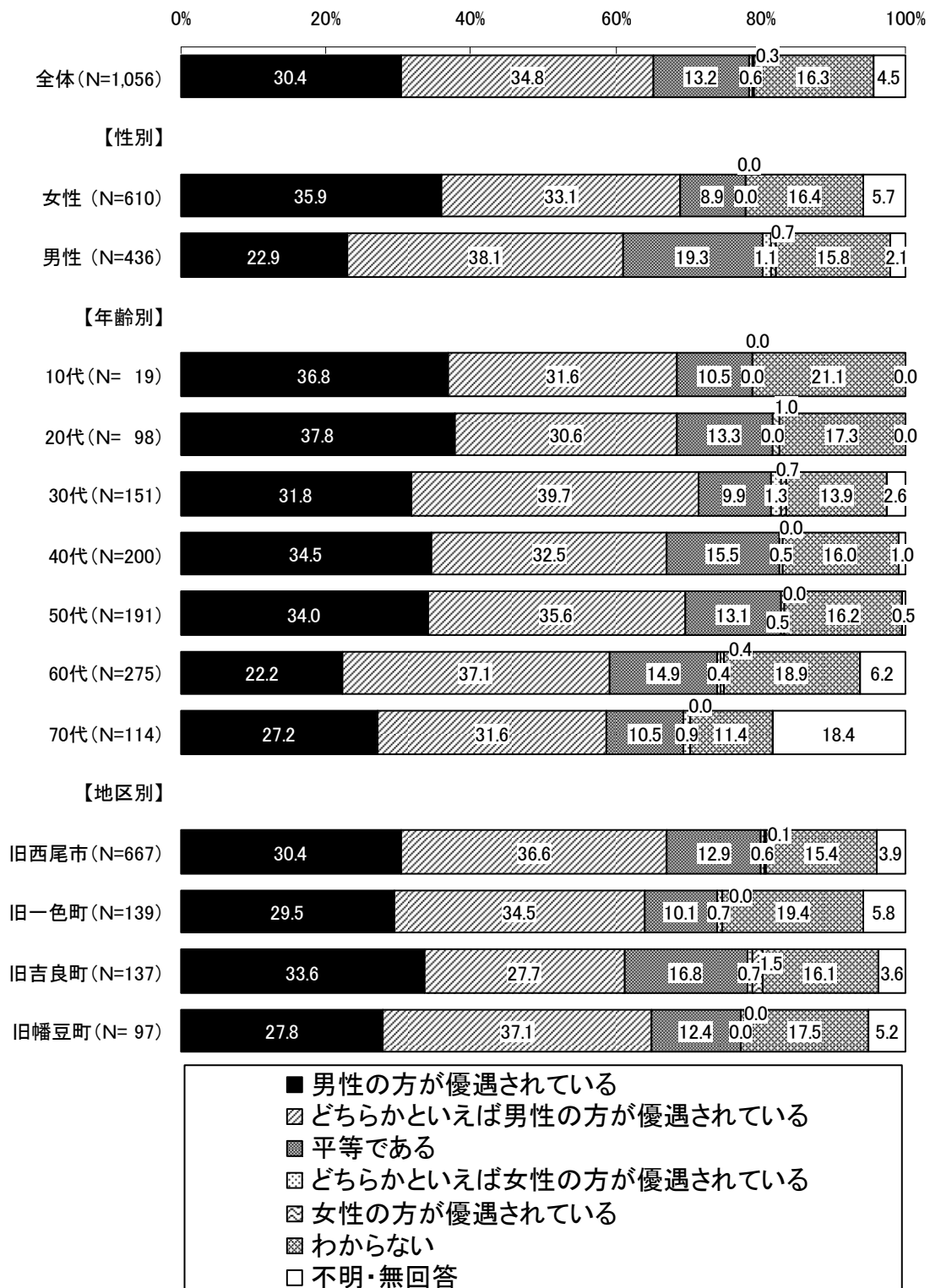
全体では愛知県調査、全国調査と比べて『男性優遇』の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。



※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

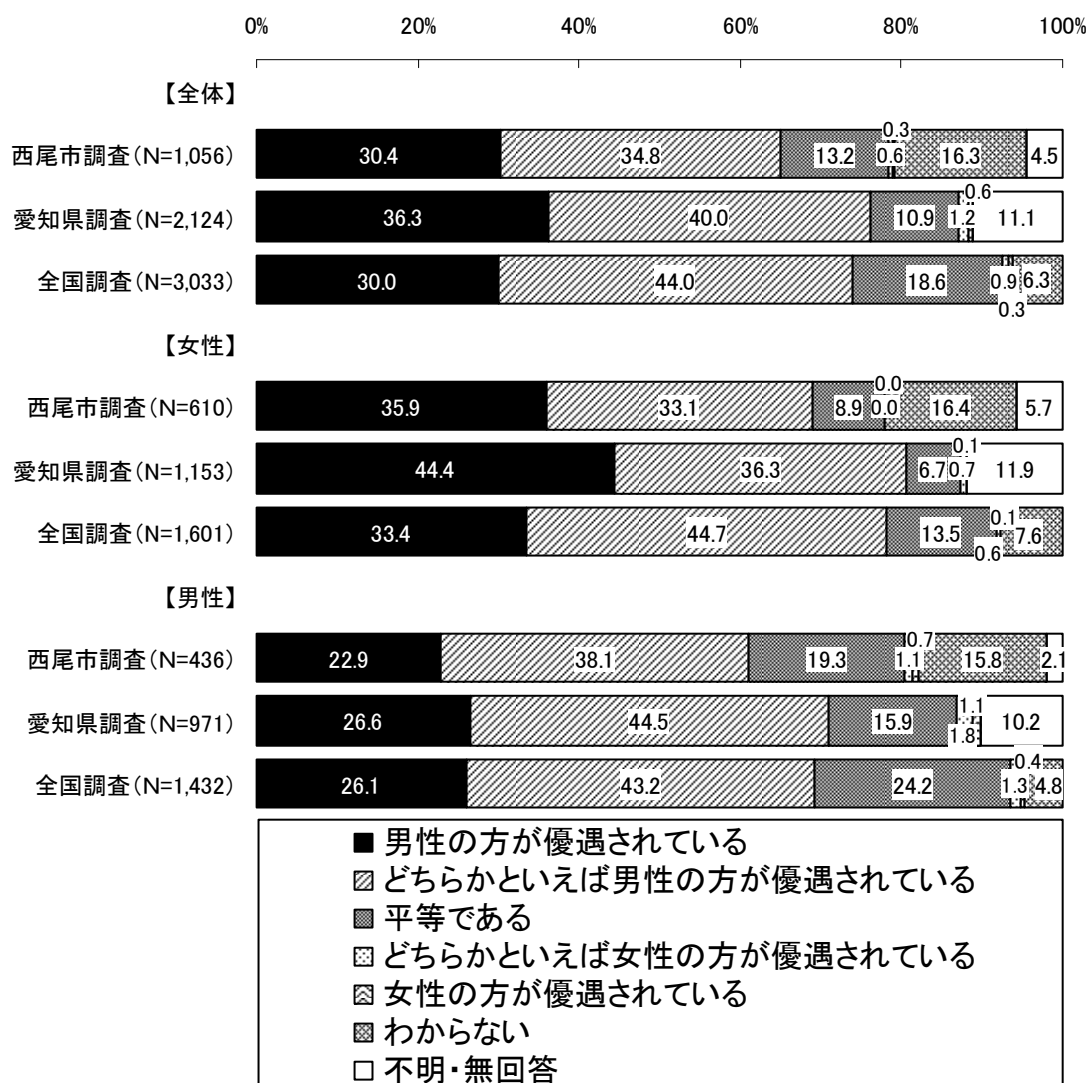
## E 政治の場(単数回答)

全体では『男性優遇』が65.2%、「平等である」が13.2%、『女性優遇』が0.9%となっています。



■ 愛知県調査、全国調査との比較(政治の場の平等感)

全体では『男性優遇』の割合が愛知県調査、全国調査と比べて低くなっています。

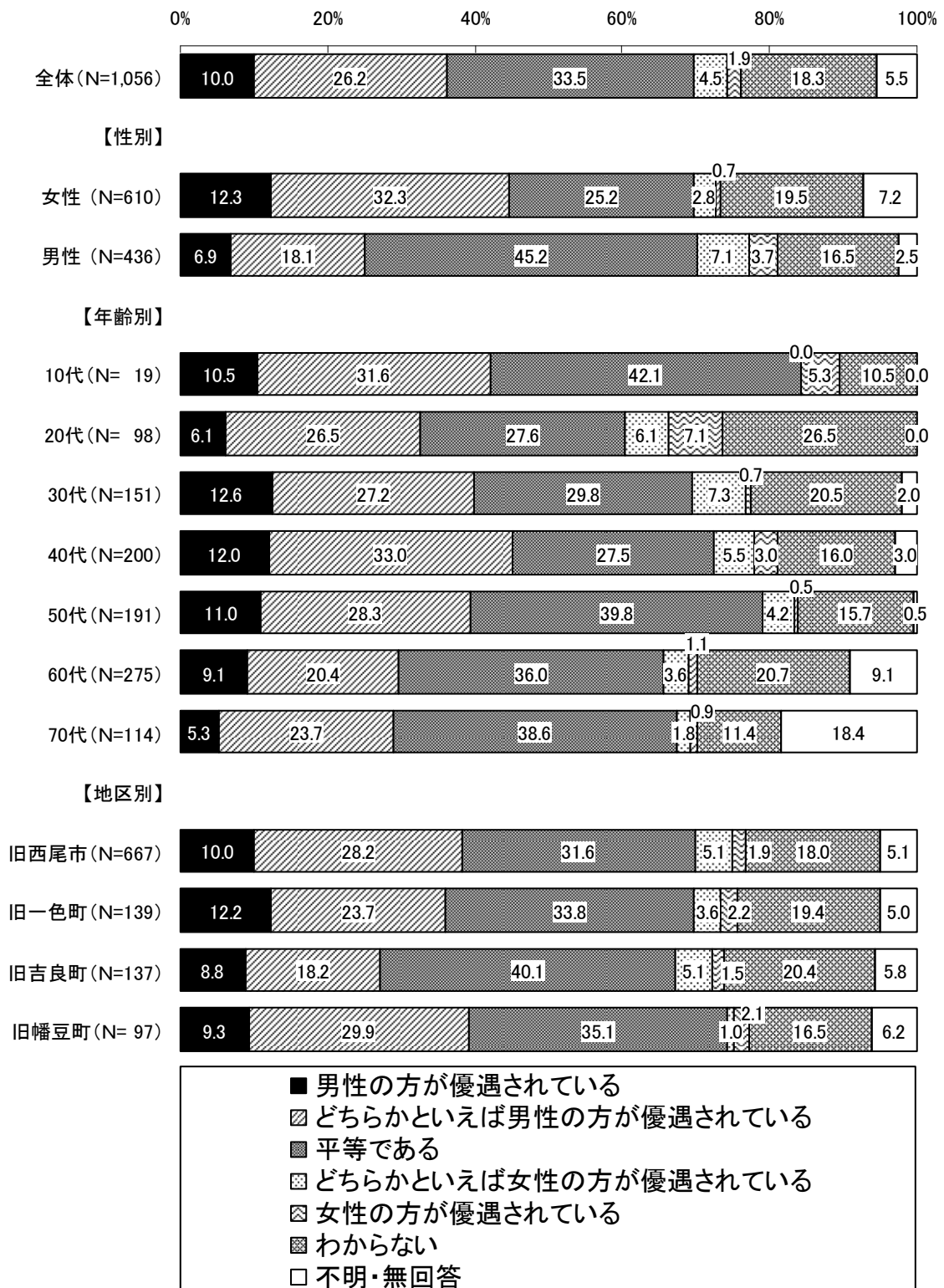


※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

※愛知県調査は「わからない」と「無回答」が合算されているため、「不明・無回答」として比較しています。

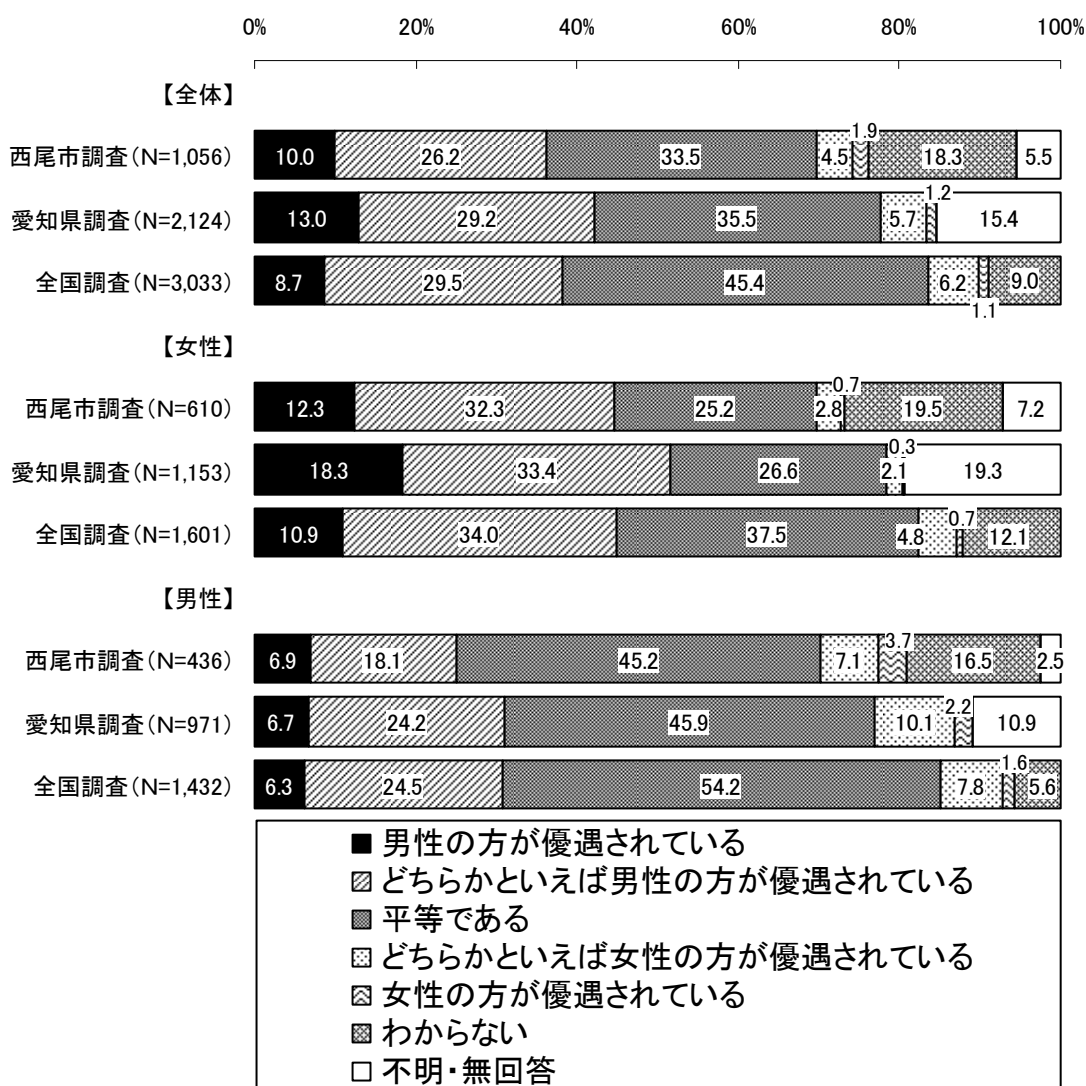
## F 法律や制度の上(単数回答)

全体では『男性優遇』が36.2%、「平等である」が33.5%、『女性優遇』が6.4%となっています。



■ 愛知県調査、全国調査との比較(法律や制度の上の平等感)

全体では『男性優遇』の割合が愛知県調査、全国調査と比べて低くなっています。

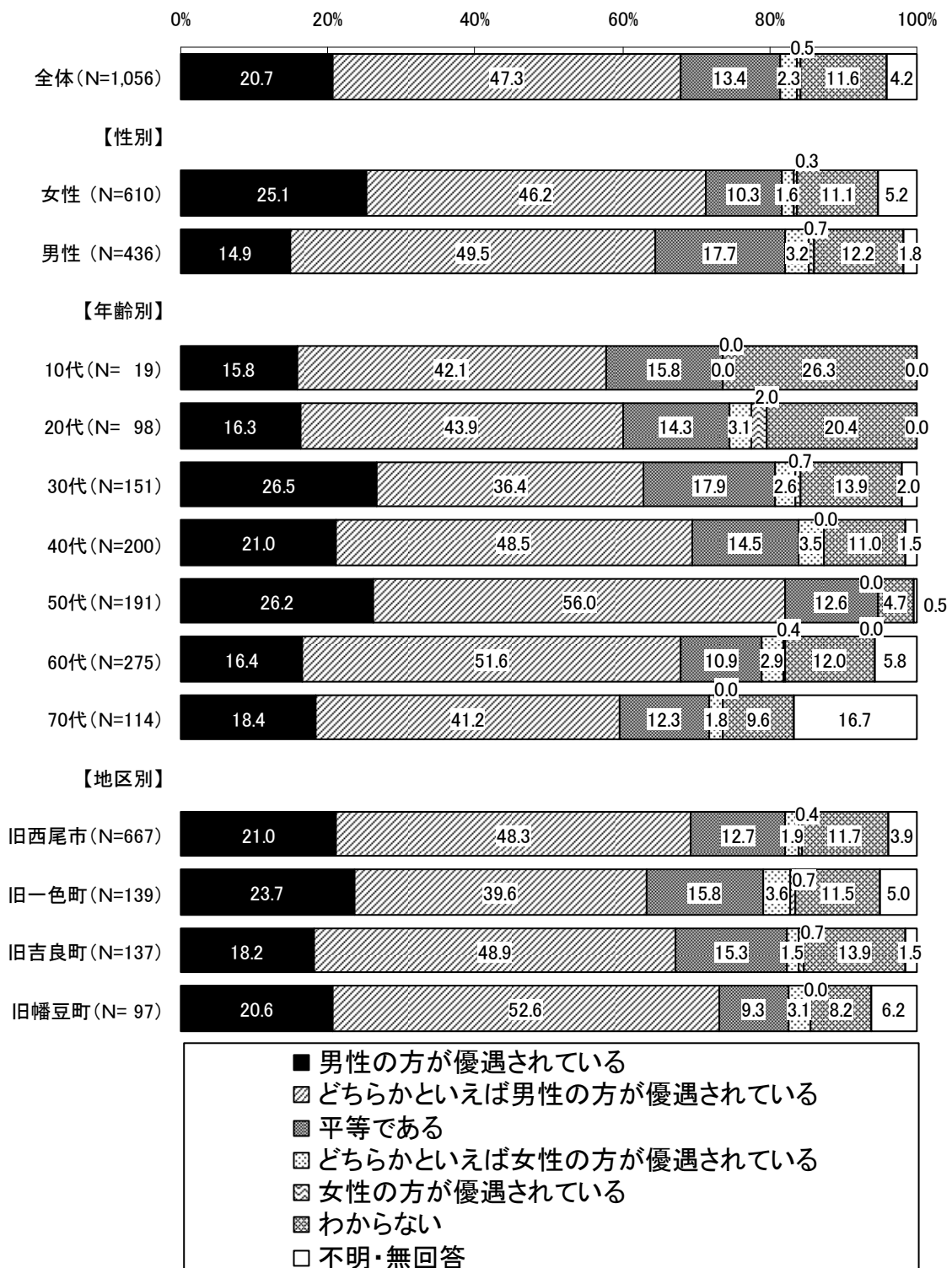


※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

※愛知県調査は「わからない」と「無回答」が合算されているため、「不明・無回答」として比較しています。

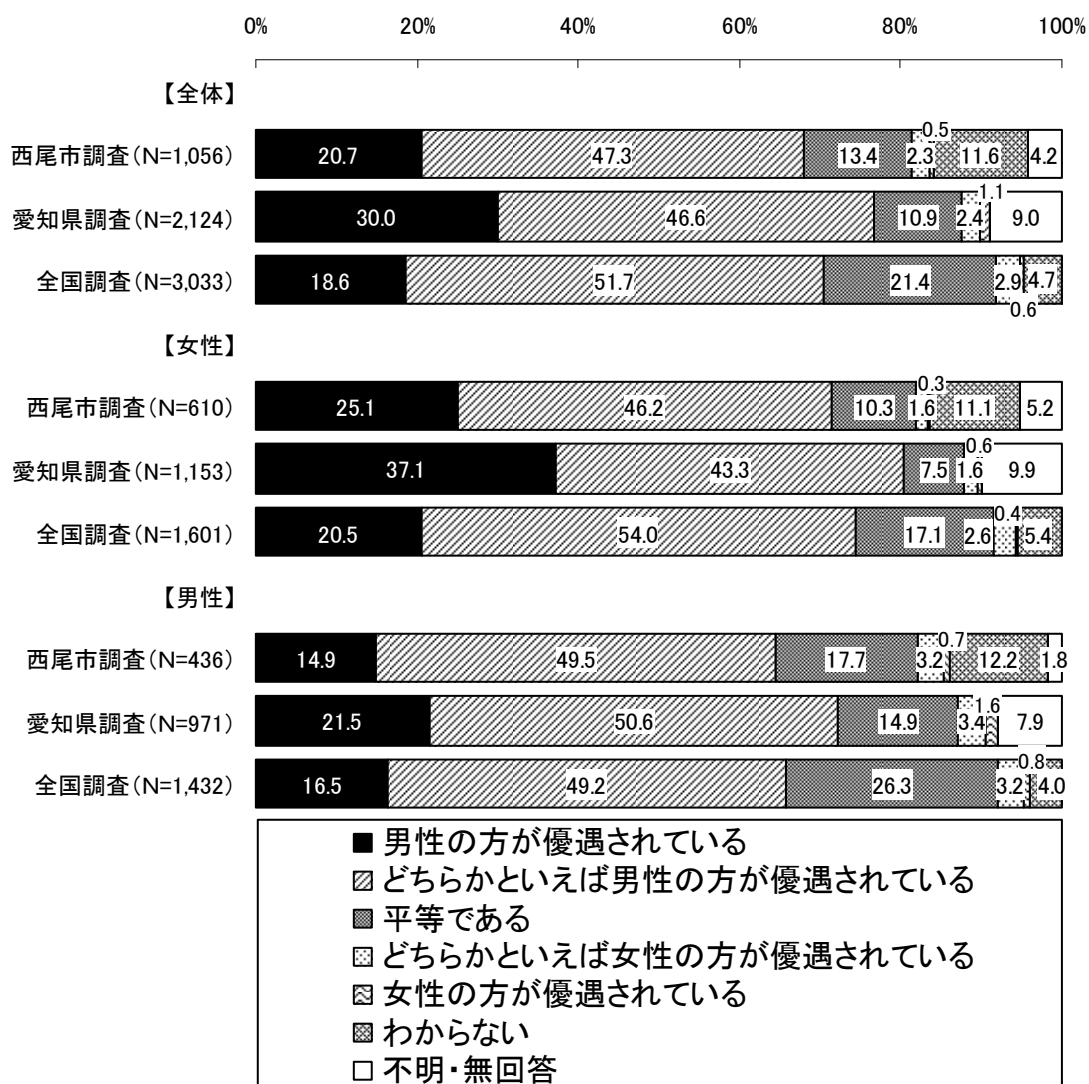
## G 社会通念・慣習・しきたりなど(単数回答)

全体では『男性優遇』が68.0%、「平等である」が13.4%、『女性優遇』が2.8%となっています。



■ 愛知県調査、全国調査との比較(社会通念・慣習・しきたりなどの平等感)

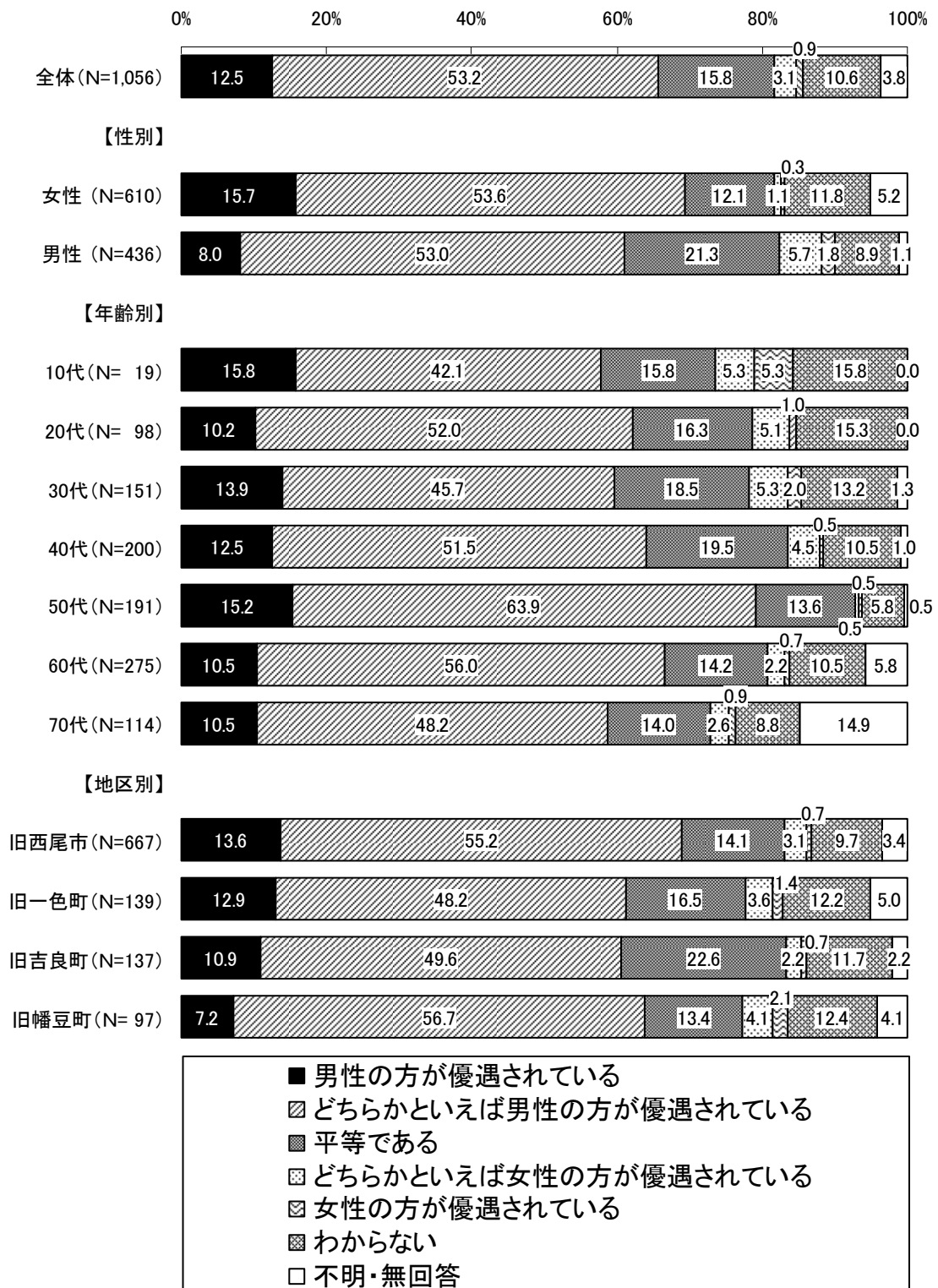
全体では『男性優遇』の割合が愛知県調査、全国調査と比べて低くなっています。



※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。  
 ※愛知県調査は「わからない」と「無回答」が合算されているため、「不明・無回答」として比較しています。

## H 社会全体として(単数回答)

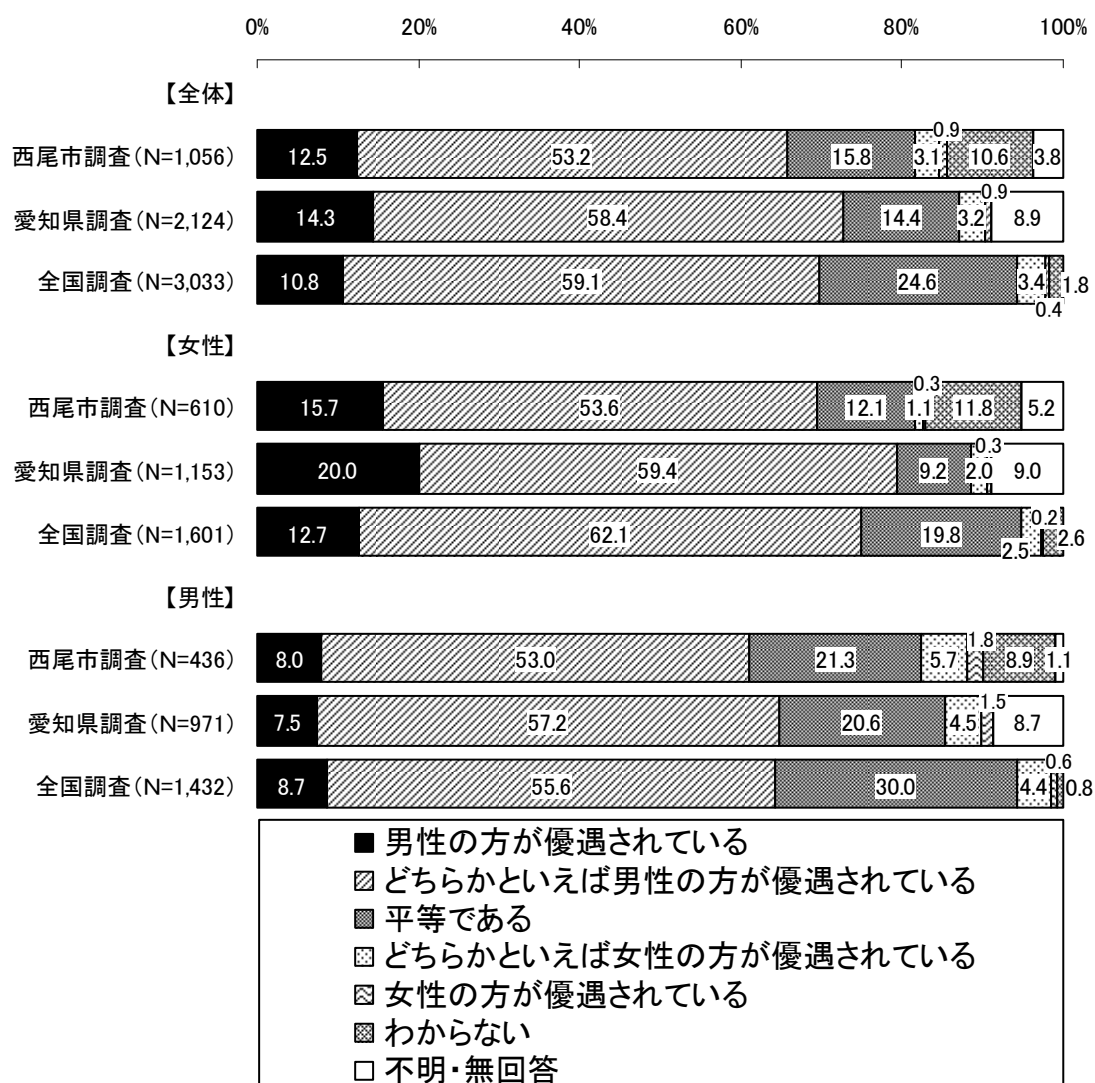
全体では『男性優遇』が65.7%、「平等である」が15.8%、『女性優遇』が4.0%となっています。





■ 愛知県調査、全国調査との比較(社会全体の平等感)

全体では『男性優遇』の割合が愛知県調査、全国調査と比べて低くなっています。

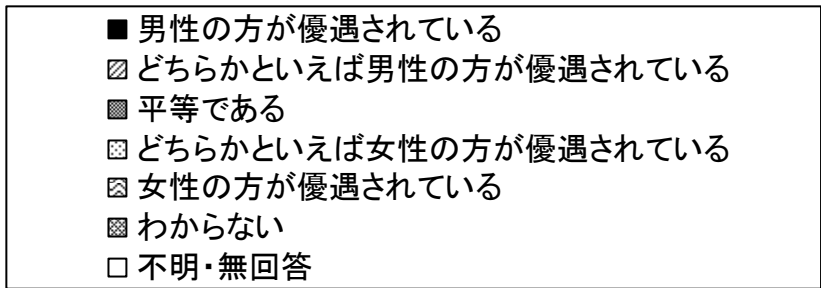
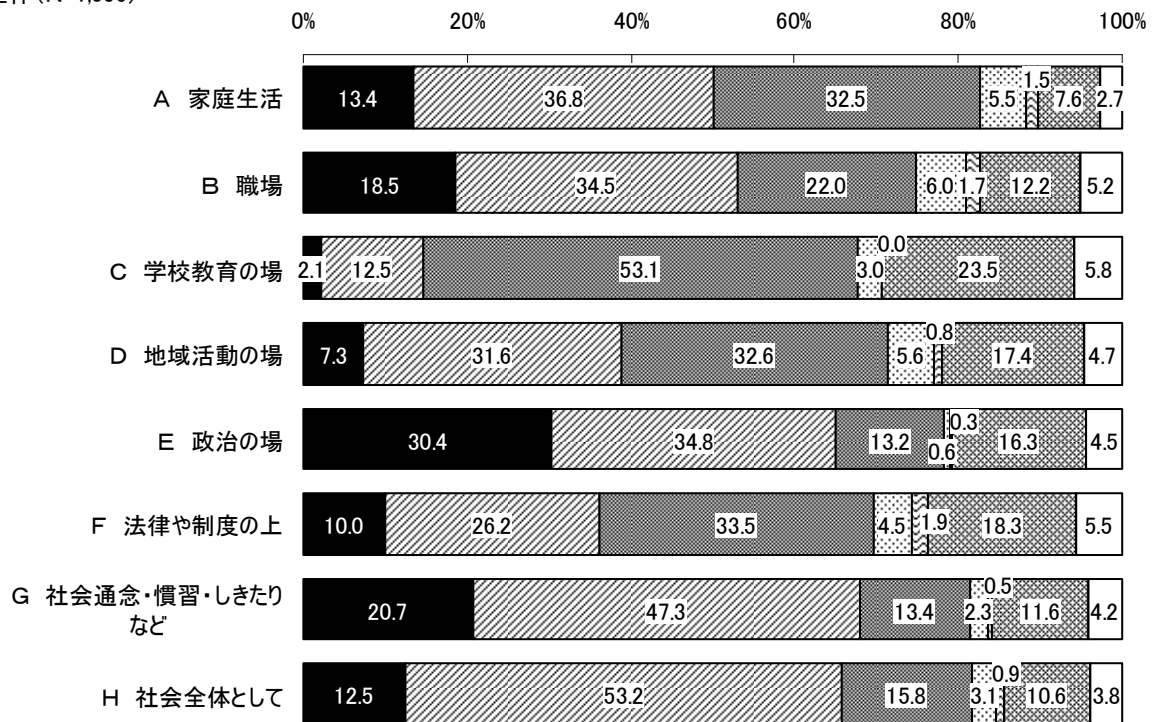


※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

※愛知県調査は「わからない」と「無回答」が合算されているため、「不明・無回答」として比較しています。

## ② 男女の地位の平等感の項目比較

全体 (N=1,056)

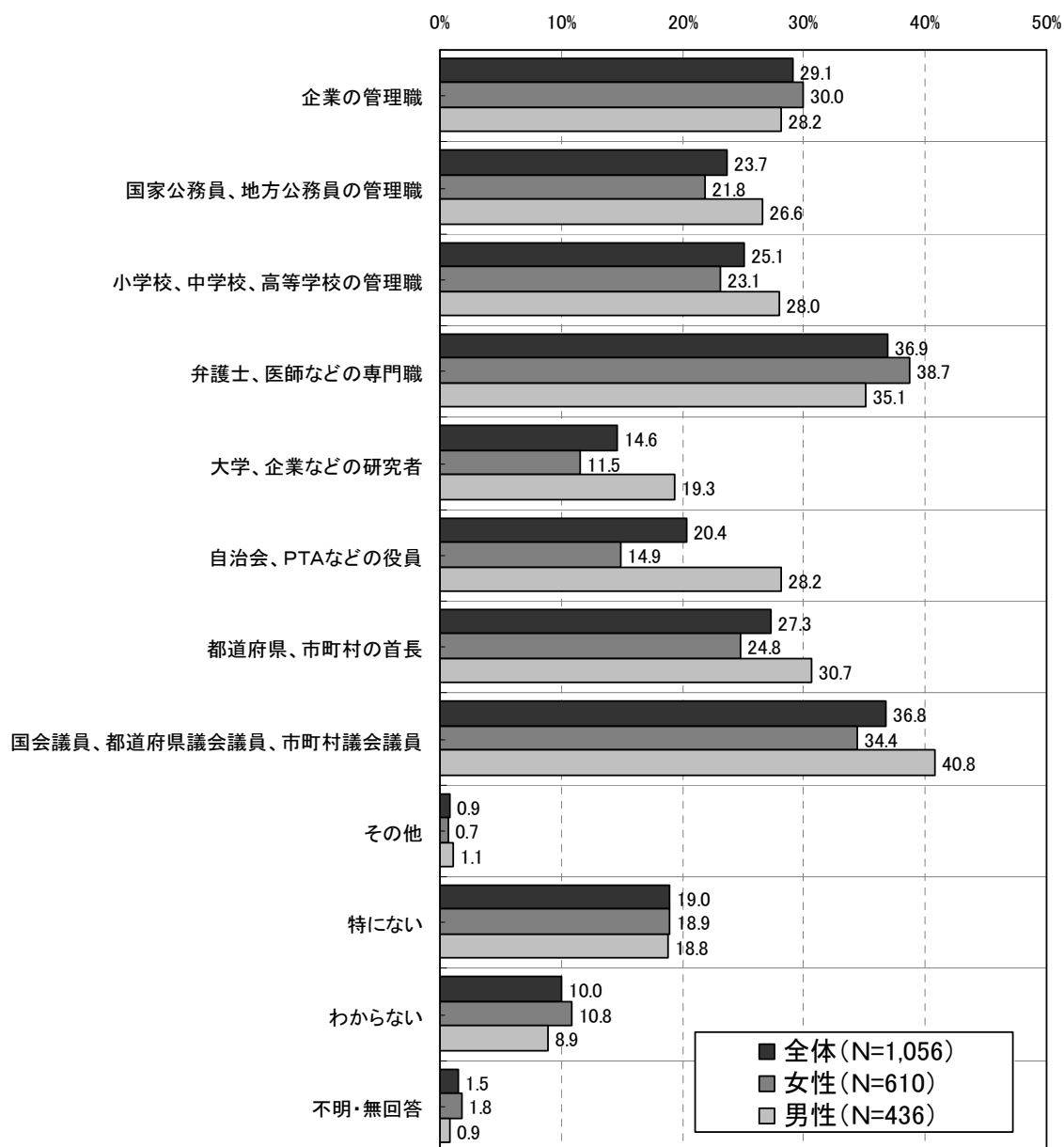


## (2) 女性の参画について

### ① 女性が増える方がよいと思う職業や役職(複数回答)

問 10 女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。(〇はいくつでも)

全体では「弁護士、医師などの専門職」が36.9%と最も高く、次いで「国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員」が36.8%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表(女性が增える方がよいと思う職業や役職)

単位: %

	企業の管理職	国家公務員、地方公務員の管理職	小学校、中学校、高等学校の管理職	弁護士、医師などの専門職	大学、企業などの研究者	自治会、PTAなどの役員	都道府県、市町村の首長	国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員	その他	特にない	わからない	不明・無回答
【年齢別】												
10代 (N=19)	15.8	26.3	10.5	<b>31.6</b>	5.3	0.0	21.1	<b>36.8</b>	5.3	26.3	15.8	0.0
20代 (N=98)	<b>32.7</b>	23.5	24.5	30.6	14.3	9.2	25.5	<b>34.7</b>	1.0	19.4	9.2	0.0
30代 (N=151)	<b>37.1</b>	26.5	28.5	<b>42.4</b>	14.6	10.6	27.8	<b>37.1</b>	0.7	19.2	11.9	1.3
40代 (N=200)	33.5	21.0	28.5	<b>49.5</b>	17.5	18.5	30.5	<b>39.0</b>	0.5	13.0	7.5	1.0
50代 (N=191)	31.4	28.8	25.1	<b>38.2</b>	16.8	26.2	26.7	<b>40.8</b>	0.0	16.2	8.9	1.0
60代 (N=275)	23.6	20.7	22.5	<b>27.3</b>	12.0	23.6	25.5	<b>34.9</b>	1.1	24.7	9.8	2.2
70代 (N=114)	20.2	24.6	24.6	<b>36.8</b>	14.0	31.6	29.8	<b>35.1</b>	1.8	19.3	13.2	1.8

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

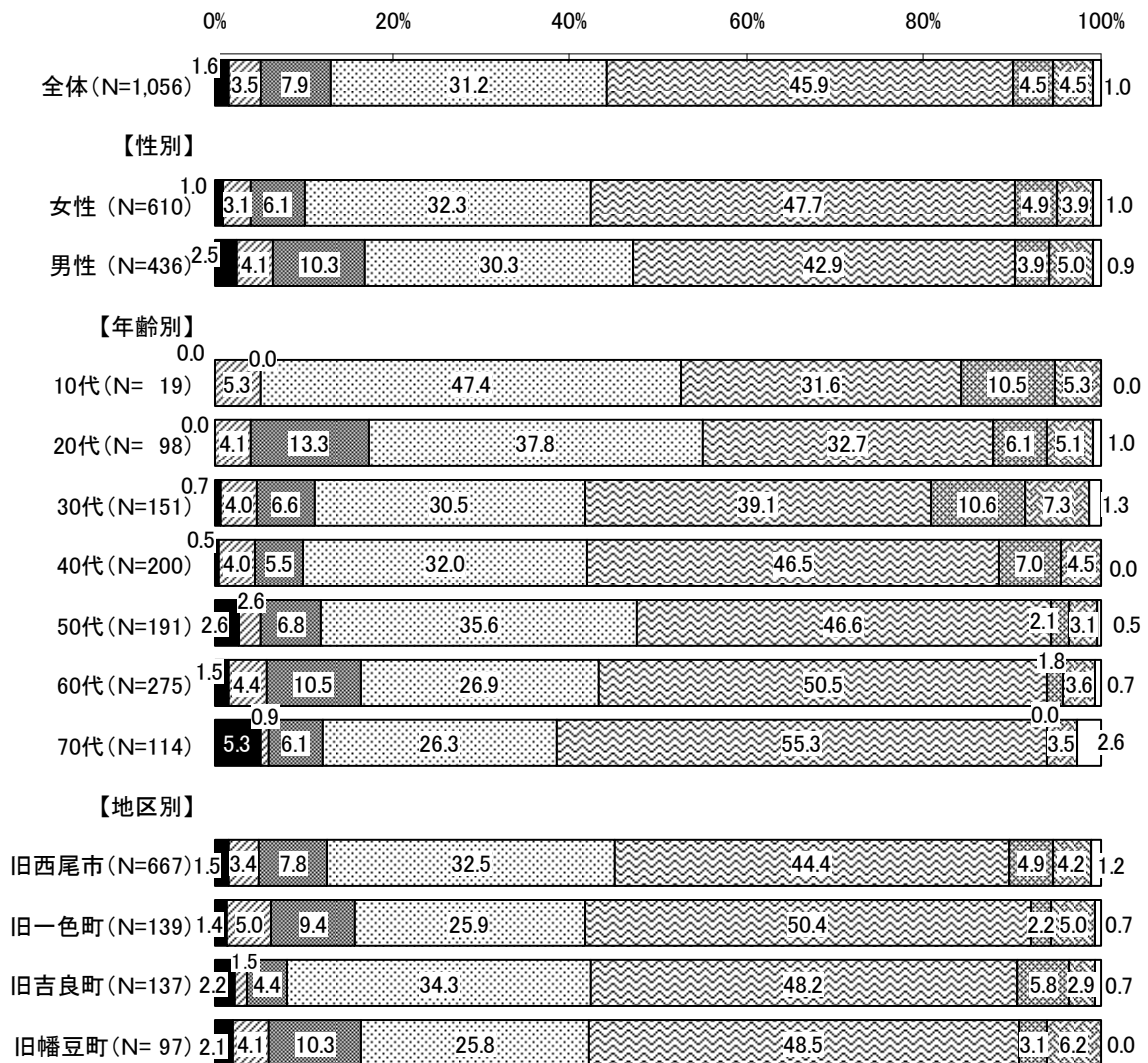
### 3 職業・職場環境について

#### (1) 女性の働き方について

##### ① 女性が職業を持つことについての考え(単数回答)

問11 あなたは女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

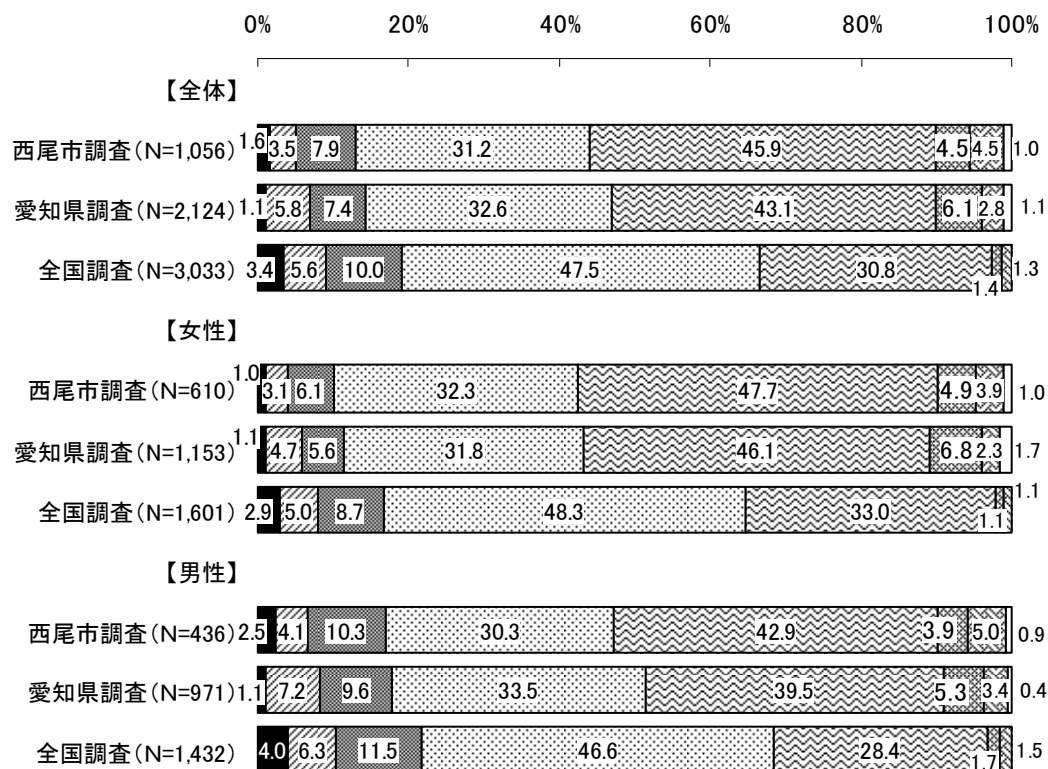
全体では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が45.9%と最も高くなっています。



- 女性を職業を持たないほうがよい
- ▨ 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- ▩ 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- ▤ 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- ▧ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- ▦ その他
- ▧ わからない
- 不明・無回答

■ 愛知県調査、全国調査との比較(女性が職業を持つことについての考え)

全体では愛知県調査と同様の傾向にあり、全国調査よりも「子どもができて、ずっと職業を  
持ち続けるほうがよい」の割合が低く「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業  
を持つほうがよい」の割合が高くなっています。



- 女性は職業を持たないほうがよい
- ▣ 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- ▣ 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- ▣ 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- ▣ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- ▣ その他
- ▣ わからない
- 不明・無回答

※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

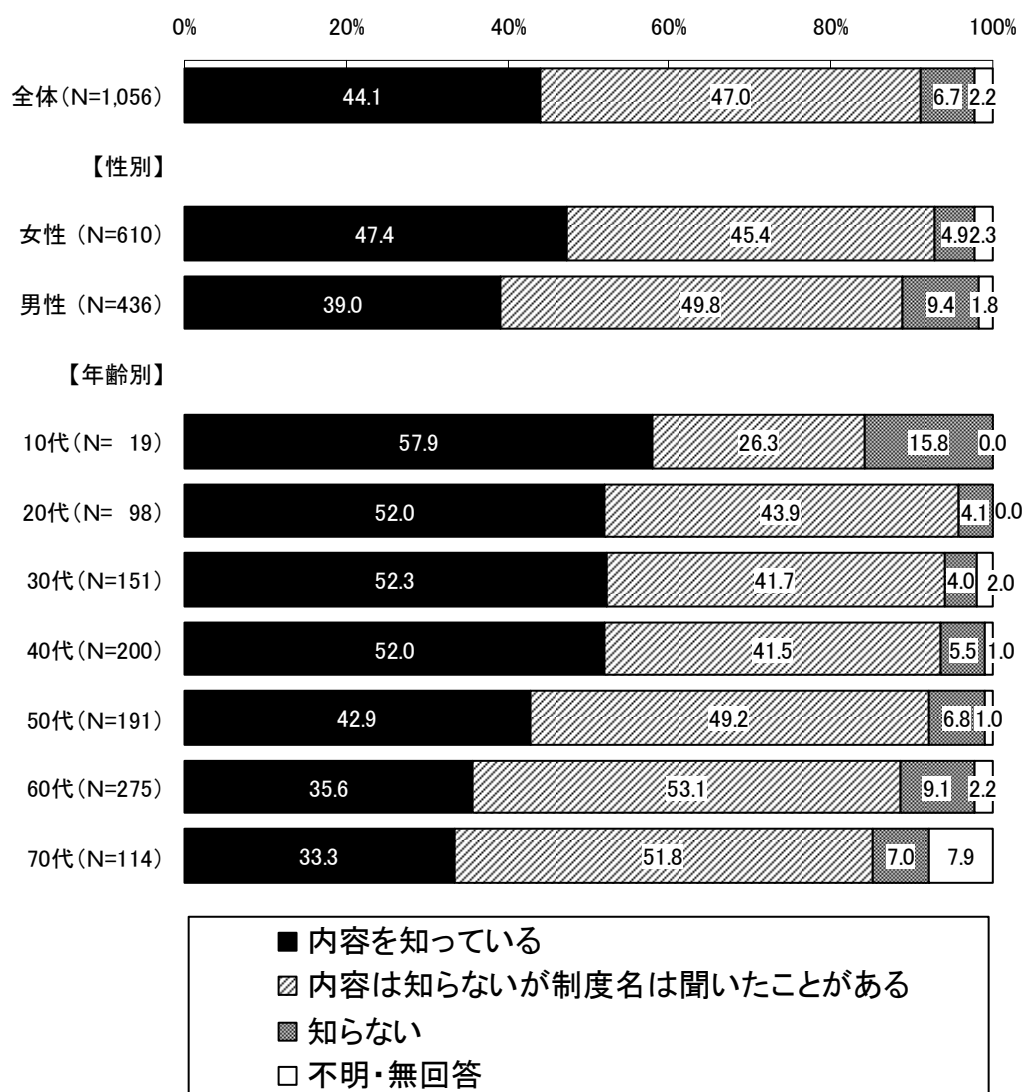
## (2) 仕事と家庭生活を両立するための制度について

### ① 制度を知っているか

問 12 次にあげる、仕事と家庭生活を両立するための制度を知っていますか。(A～Dのそれぞれについて、○は1つずつ)

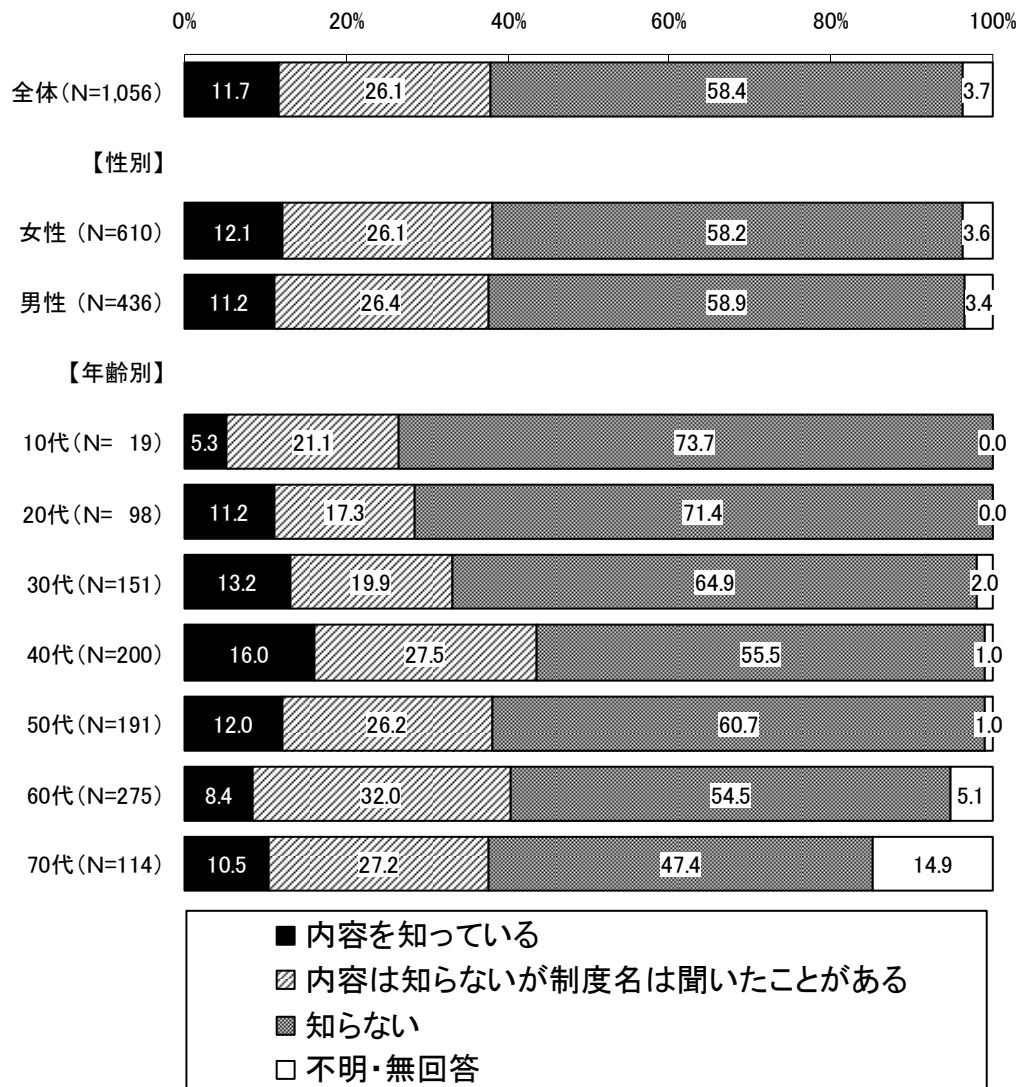
#### A 育児休業制度(単数回答)

全体では「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が47.0%と最も高く、次いで「内容を知っている」が44.1%、「知らない」が6.7%となっています。



## B 子の看護休暇制度(単数回答)

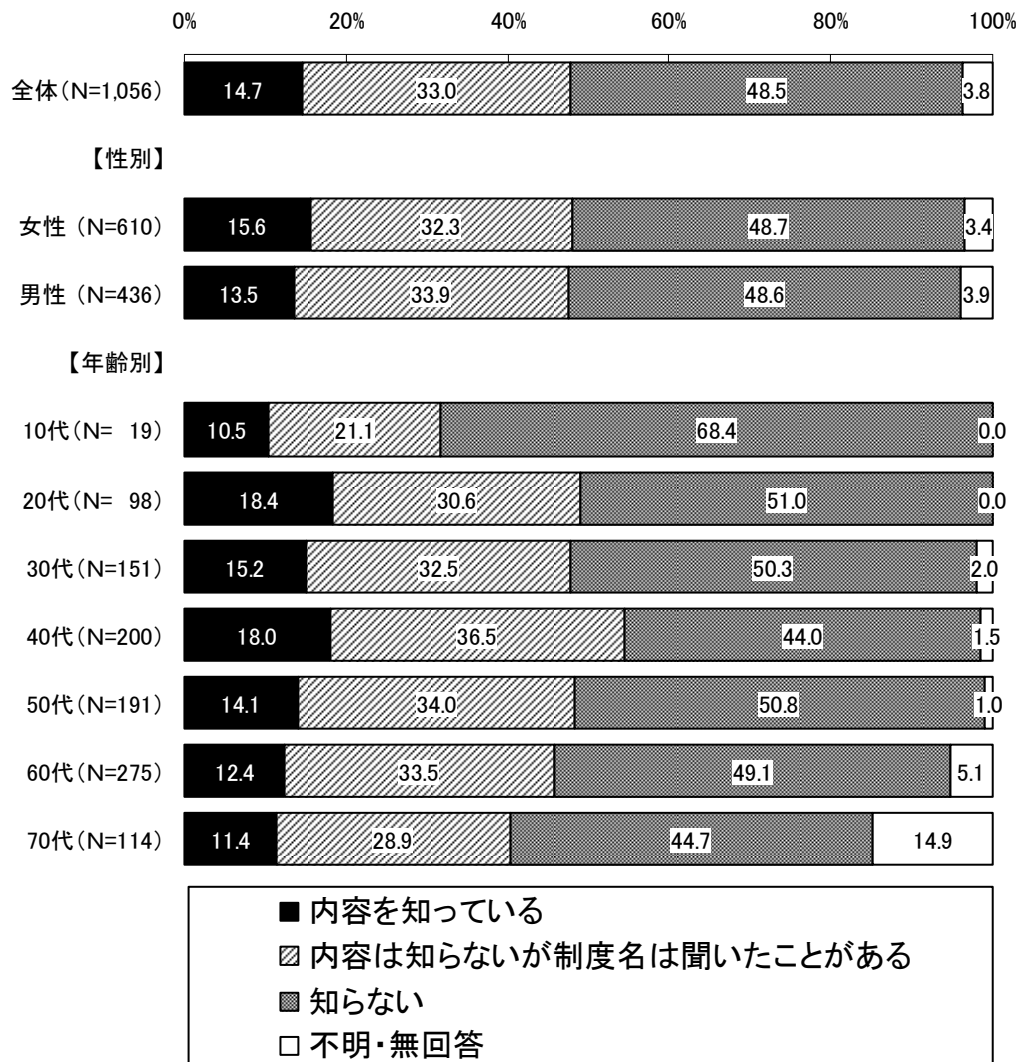
全体では「知らない」が58.4%と最も高く、次いで「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が26.1%、「内容を知っている」が11.7%となっています。





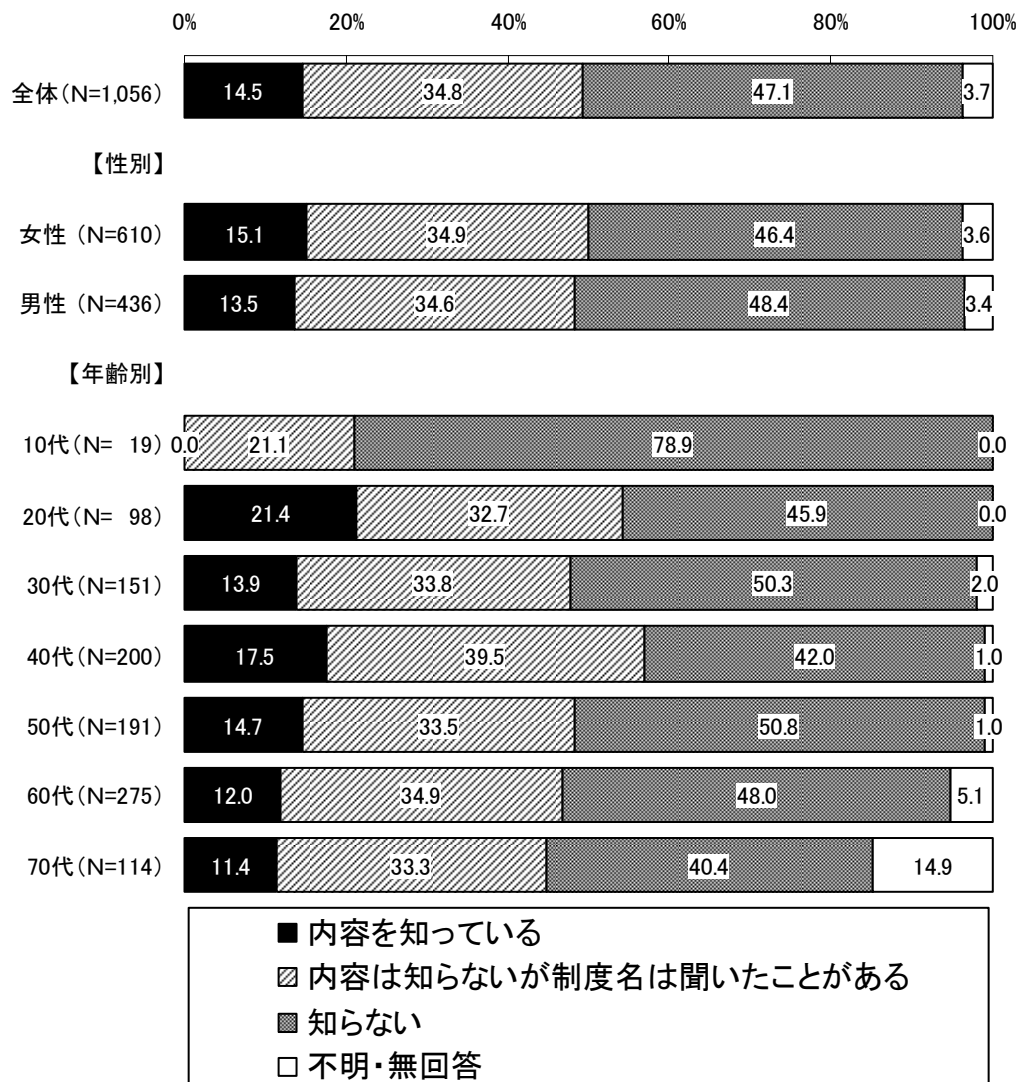
### C 介護休業制度(単数回答)

全体では「知らない」が48.5%と最も高く、次いで「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が33.0%、「内容を知っている」が14.7%となっています。



## D 介護休暇制度(単数回答)

全体では「知らない」が47.1%と最も高く、次いで「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」が34.8%、「内容を知っている」が14.5%となっています。



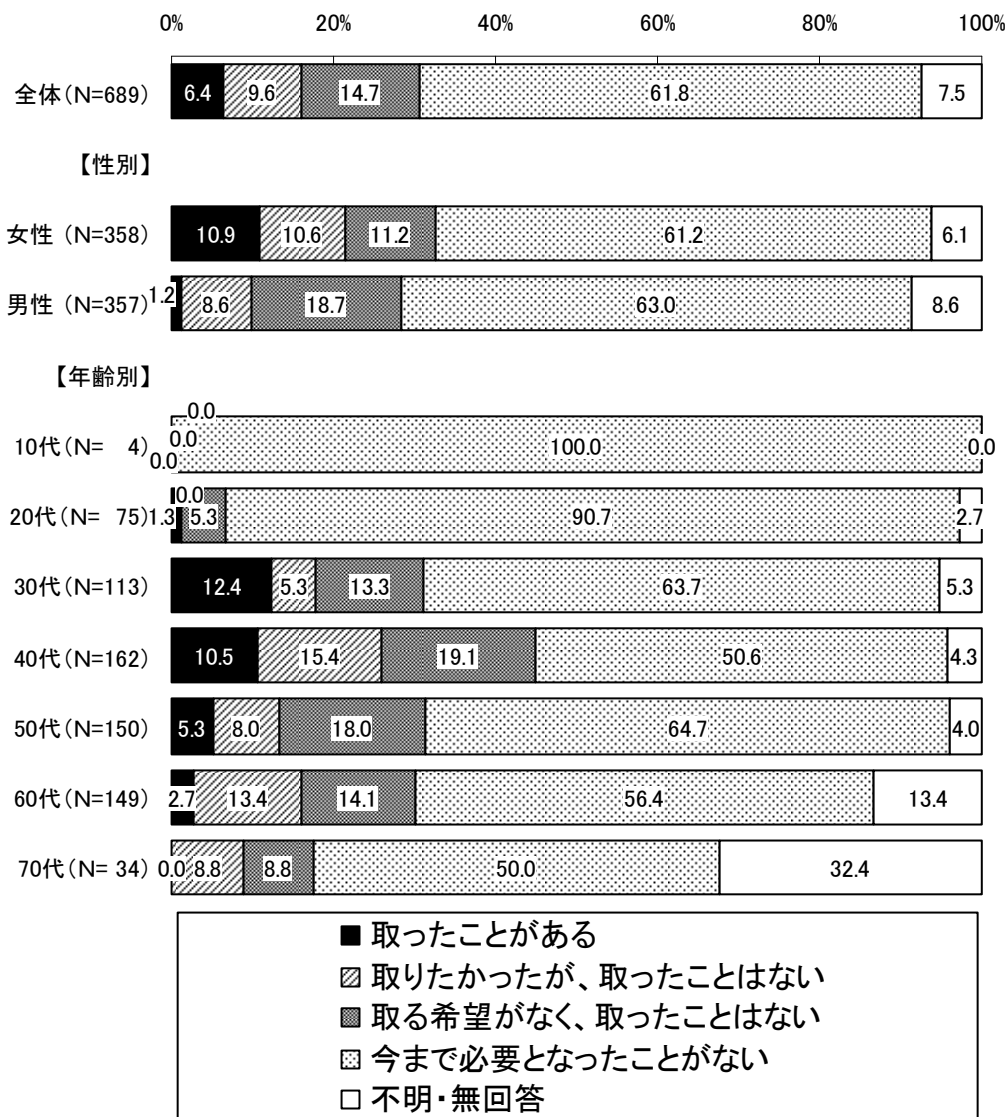
## ② 制度の利用状況

<問3で「1」～「5」と答えた方(現在働いている方)におたずねします>

問13 あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。(A～Dのそれぞれについて、○は1つつ)

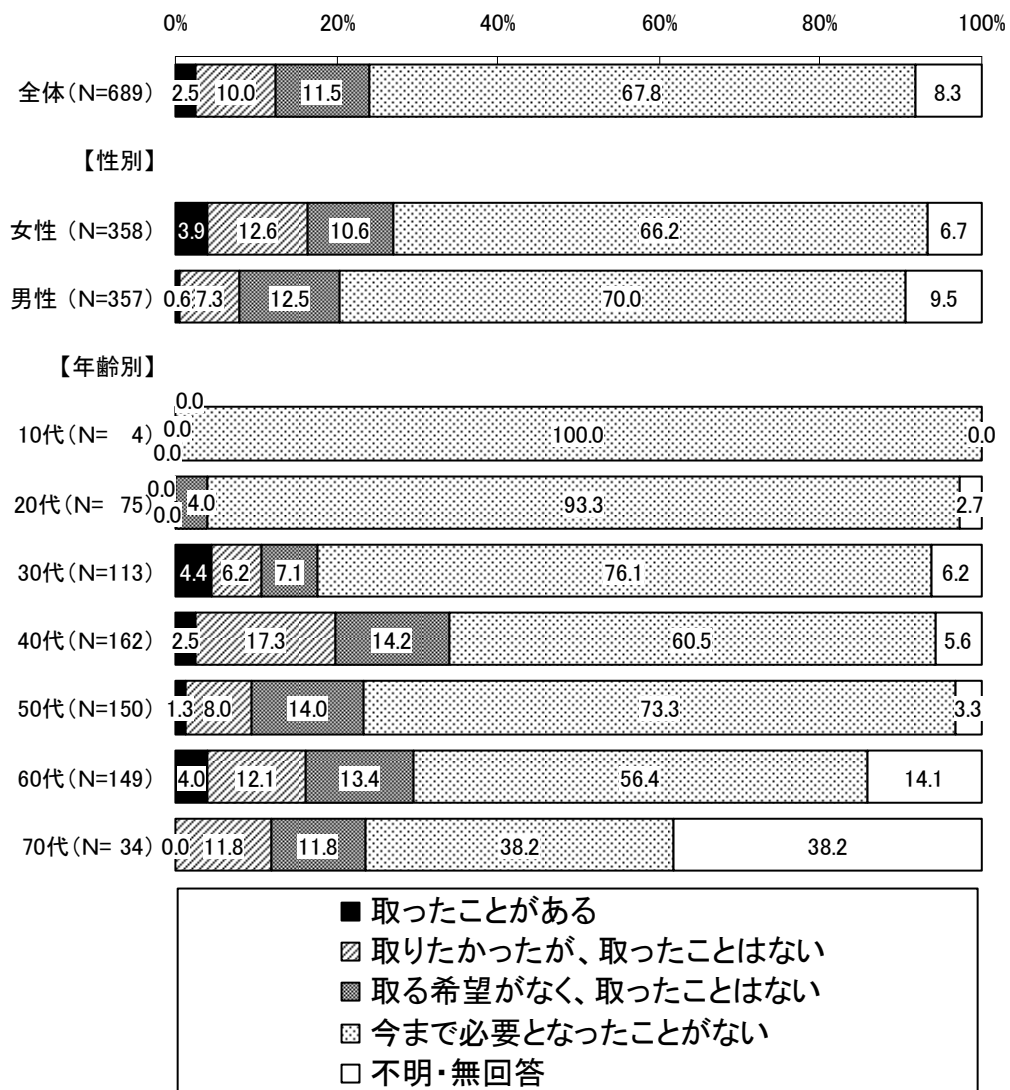
### A 育児休業制度(単数回答)

全体では「取ったことがある」が6.4%、「取りたかったが、取ったことはない」が9.6%となっています。



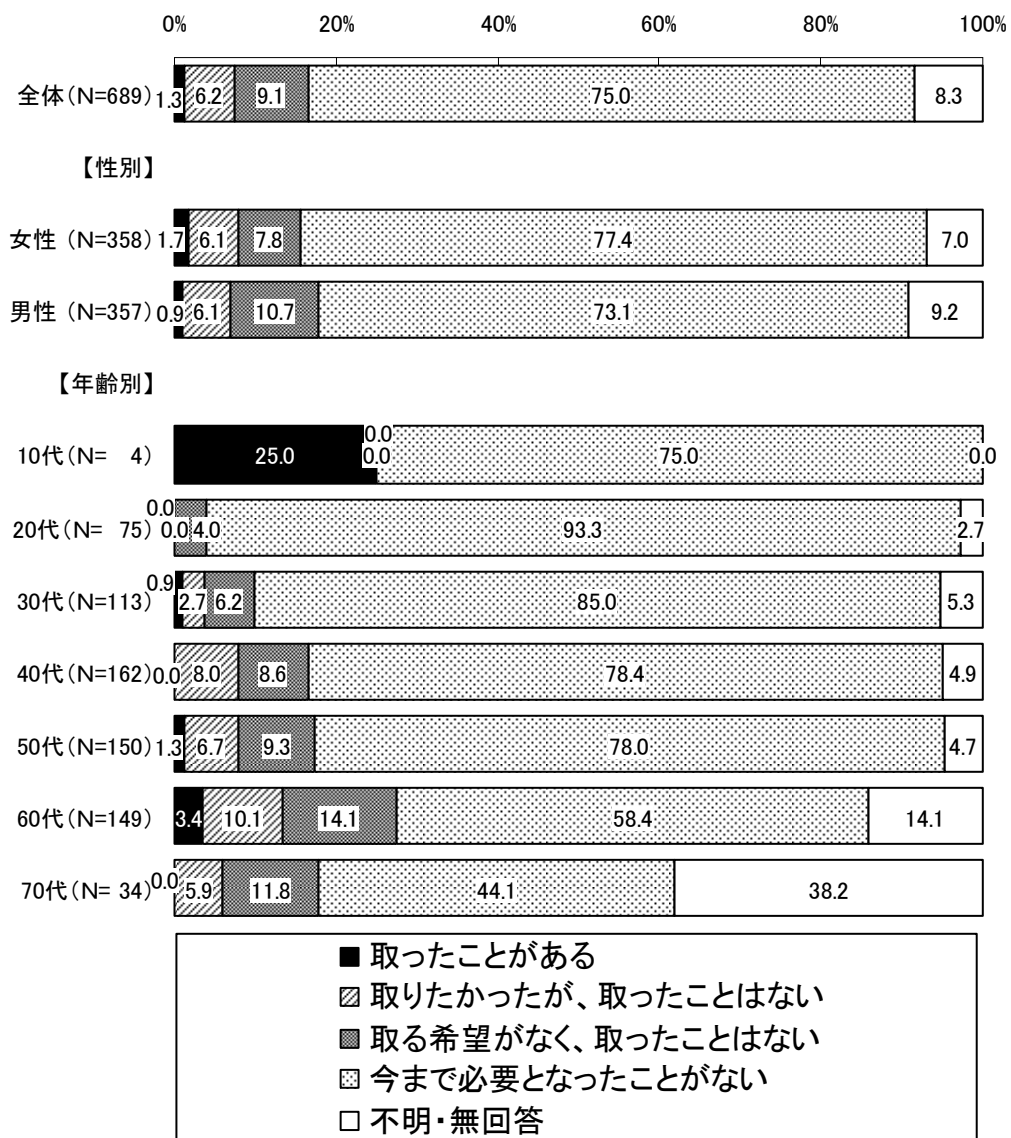
## B 子の看護休暇制度(単数回答)

全体では「取ったことがある」が2.5%、「取りたかったが、取ったことはない」が10.0%となっています。



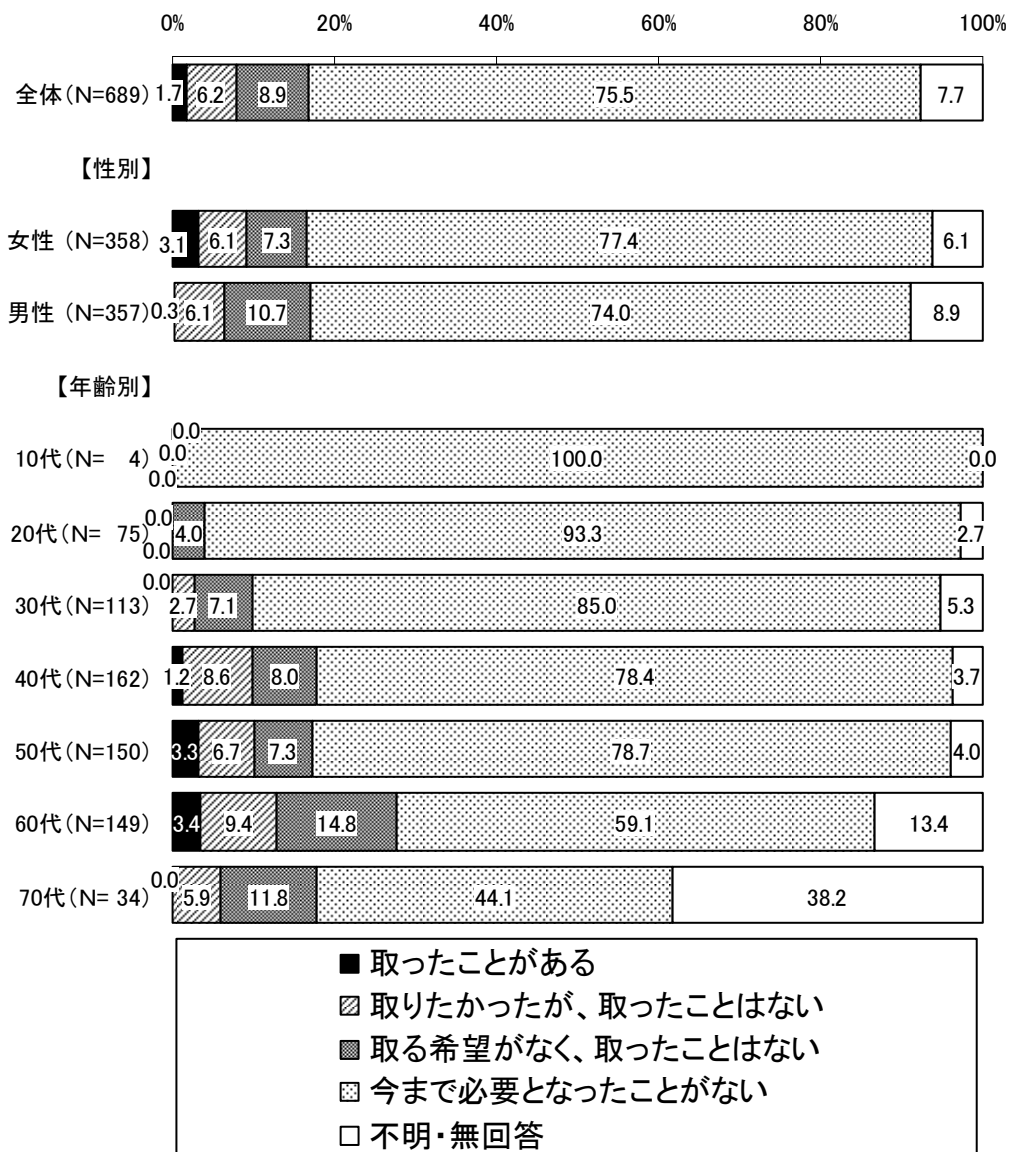
### C 介護休業制度(単数回答)

全体では「取ったことがある」が1.3%、「取りたかったが、取ったことはない」が6.2%となっています。



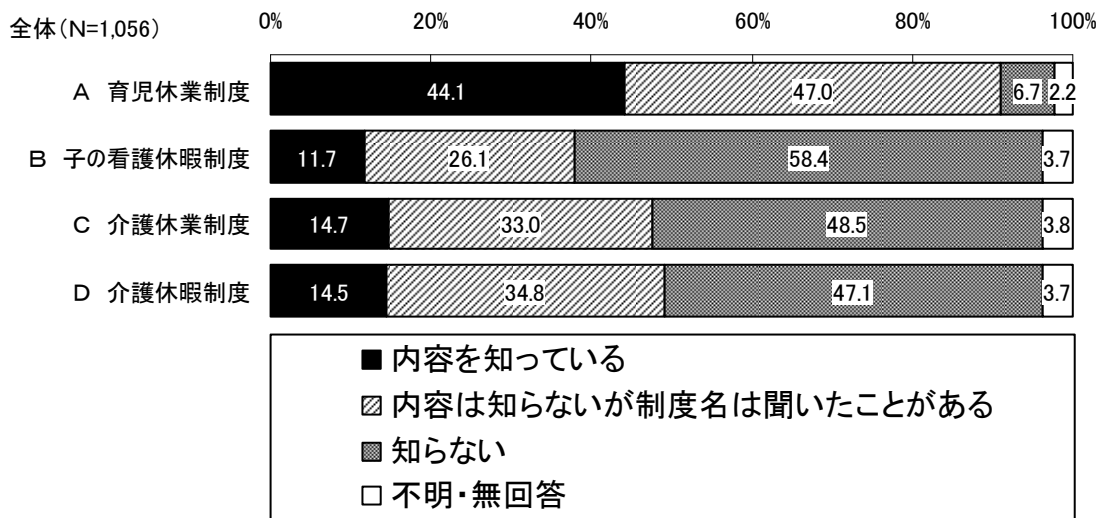
## D 介護休暇制度(単数回答)

全体では「取ったことがある」が1.7%、「取りたかったが、取ったことはない」が6.2%となっています。

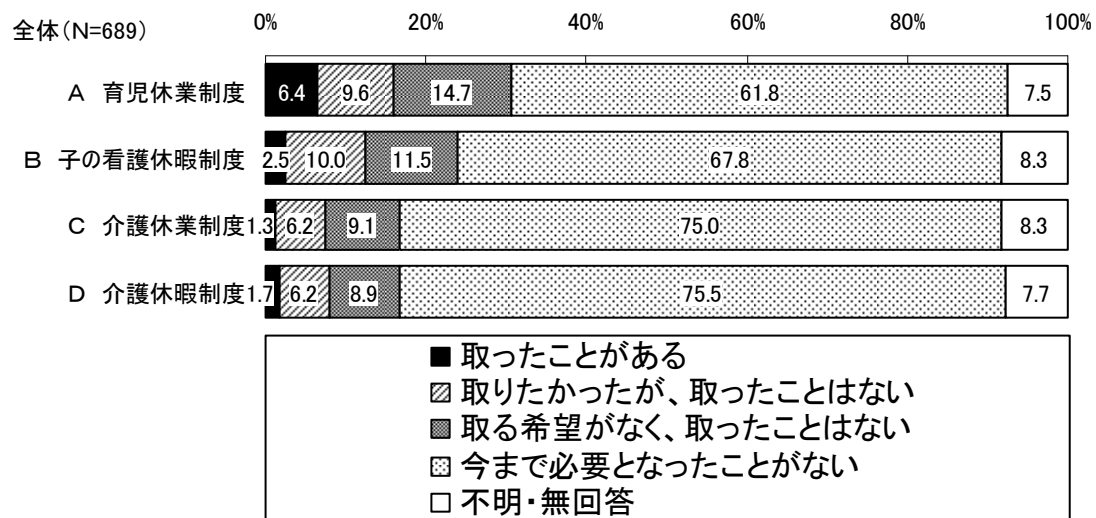


### ③ 各制度を知っているかどうかと利用状況の比較

#### ■ 各制度を知っているか



#### ■ 各制度の利用状況

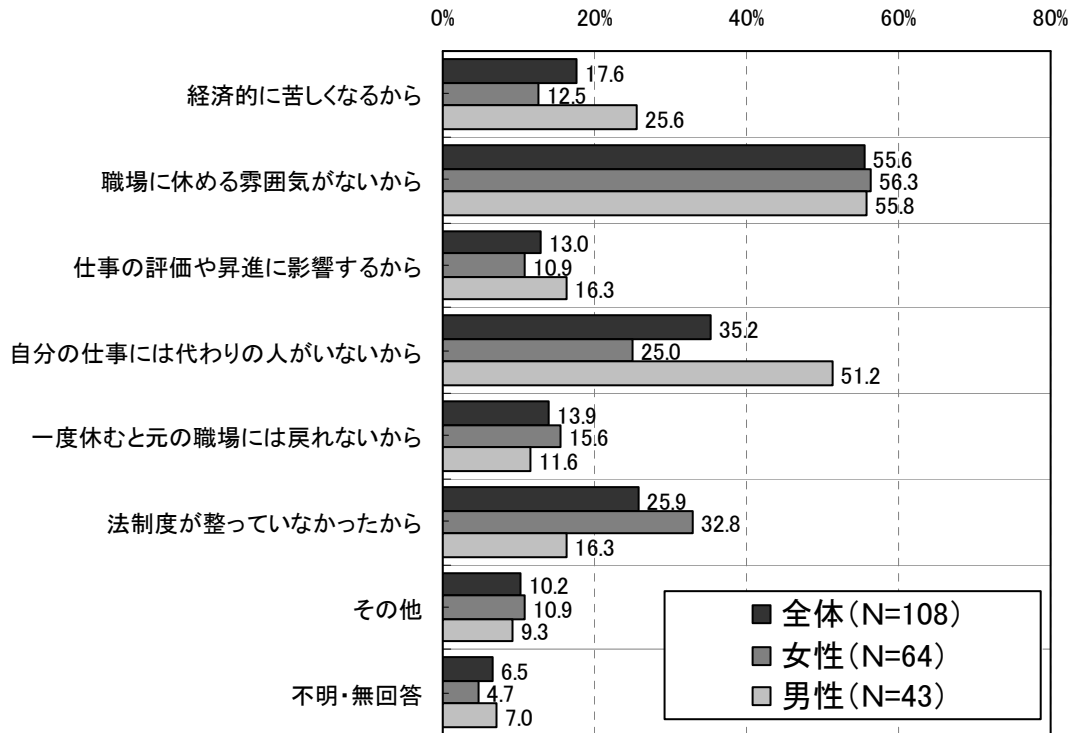


④ 育児休業等を取得することができなかった理由（複数回答）

<問 13 でA～Dのいずれかで「取りたかったが、取ったことはない」と答えた方におたずねします>

問 13- 1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。（〇はいくつでも）

全体では「職場に休める雰囲気がないから」が 55.6%と最も高く、次いで「自分の仕事には代わりの人がいないから」が 35.2%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表（取得することができなかった理由）

単位：%

	経済的に苦しくなるから	職場に休める雰囲気がないから	仕事の評価や昇進に影響するから	自分の仕事には代わりの人がいないから	一度休むと元の職場には戻れないから	法制度が整っていないから	その他	不明・無回答
<b>【年齢別】</b>								
30代 (N=13)	15.4	<b>76.9</b>	15.4	7.7	15.4	0.0	<b>30.8</b>	0.0
40代 (N=38)	18.4	<b>52.6</b>	10.5	<b>31.6</b>	15.8	28.9	13.2	5.3
50代 (N=24)	20.8	<b>58.3</b>	8.3	<b>50.0</b>	12.5	29.2	0.0	4.2
60代 (N=29)	17.2	<b>44.8</b>	17.2	<b>37.9</b>	6.9	34.5	6.9	10.3
70代 (N=4)	0.0	<b>75.0</b>	25.0	<b>50.0</b>	<b>50.0</b>	0.0	0.0	25.0

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。  
 ※10代、20代は回答者総数が少ないため割愛しています。



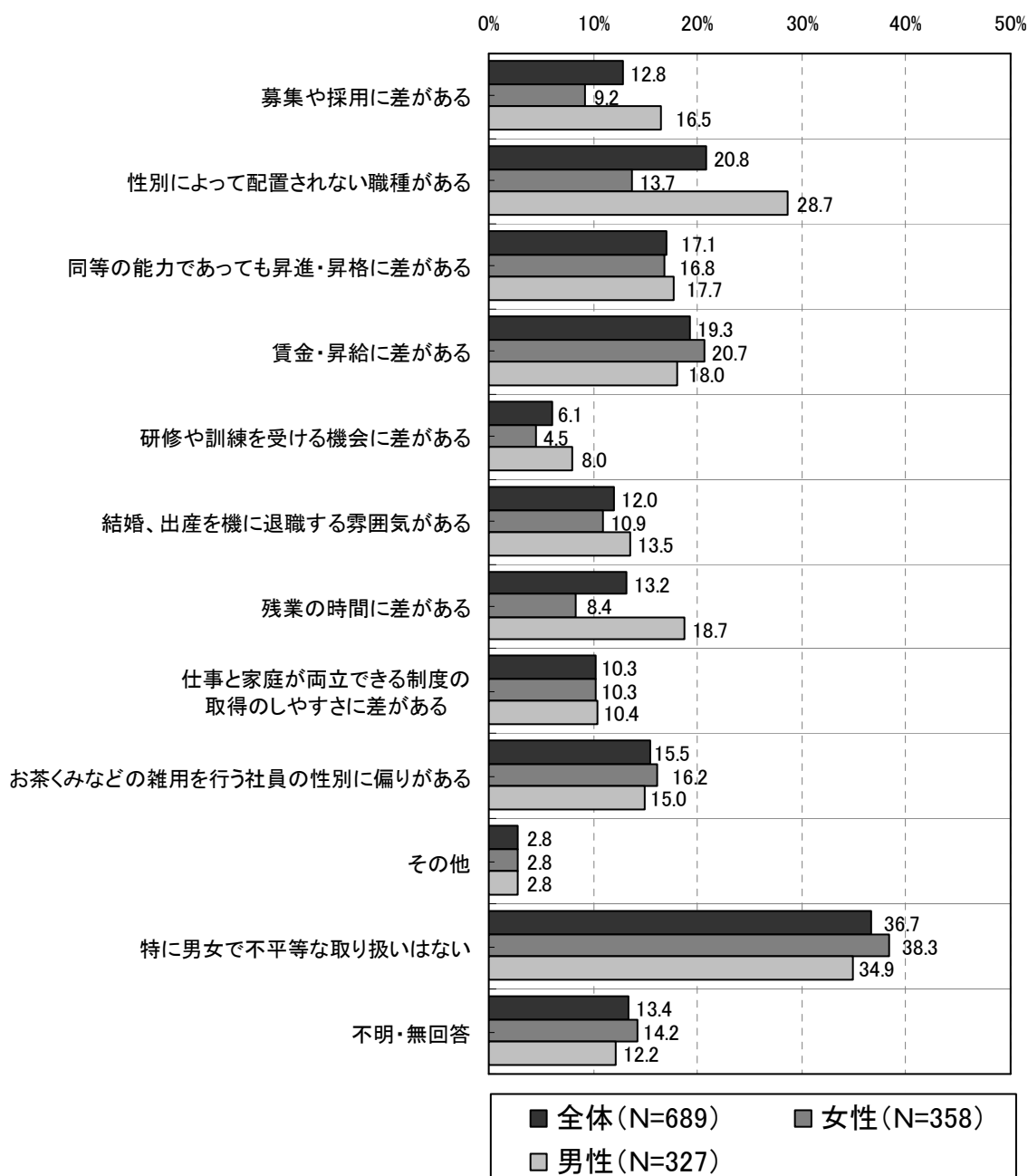
### (3) 職場における男女不平等の状況

#### ① 職場における性別による不平等な取り扱い(複数回答)

<問3で「1」～「5」と答えた方(現在働いている方)におたずねします>

問 14 あなたの職場では、性別によって不平等な取り扱いがありますか。(〇はいくつでも)

全体では「特に男女で不平等な取り扱いはない」が36.7%と最も高く、次いで「性別によって配置されない職種がある」が20.8%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表（職場における性別による不平等な取扱い）

単位：%

	募集や採用に差がある	性別によって配置されない職種がある	同等の能力であっても昇進・昇格に差がある	賃金・昇給に差がある	研修や訓練を受ける機会に差がある	結婚、出産を機に退職する雰囲気がある	残業の時間に差がある	仕事と家庭が両立できる制度の取得のしやすさに差がある	偏りがある	お茶くみなどの雑用を行う社員の性別に	その他	特に男女で不平等な取り扱いはない	不明・無回答
【年齢別】													
10代（N=4）	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	50.0	
20代（N=75）	16.0	32.0	20.0	14.7	10.7	17.3	16.0	13.3	26.7	1.3	36.0	2.7	
30代（N=113）	17.7	27.4	18.6	19.5	8.0	21.2	18.6	17.7	23.9	4.4	29.2	4.4	
40代（N=162）	9.9	19.8	14.2	16.0	4.3	5.6	14.2	8.6	16.0	3.7	39.5	9.9	
50代（N=150）	14.7	24.0	23.3	26.7	6.7	12.7	14.7	12.0	14.0	2.0	40.0	10.7	
60代（N=149）	8.1	10.1	14.1	18.1	4.7	10.1	8.1	4.0	7.4	0.7	39.6	24.8	
70代（N=34）	11.8	11.8	5.9	14.7	0.0	2.9	0.0	2.9	5.9	5.9	26.5	41.2	

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

# 4 家庭・地域生活について

## (1) 結婚、離婚などに関する考え方について

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

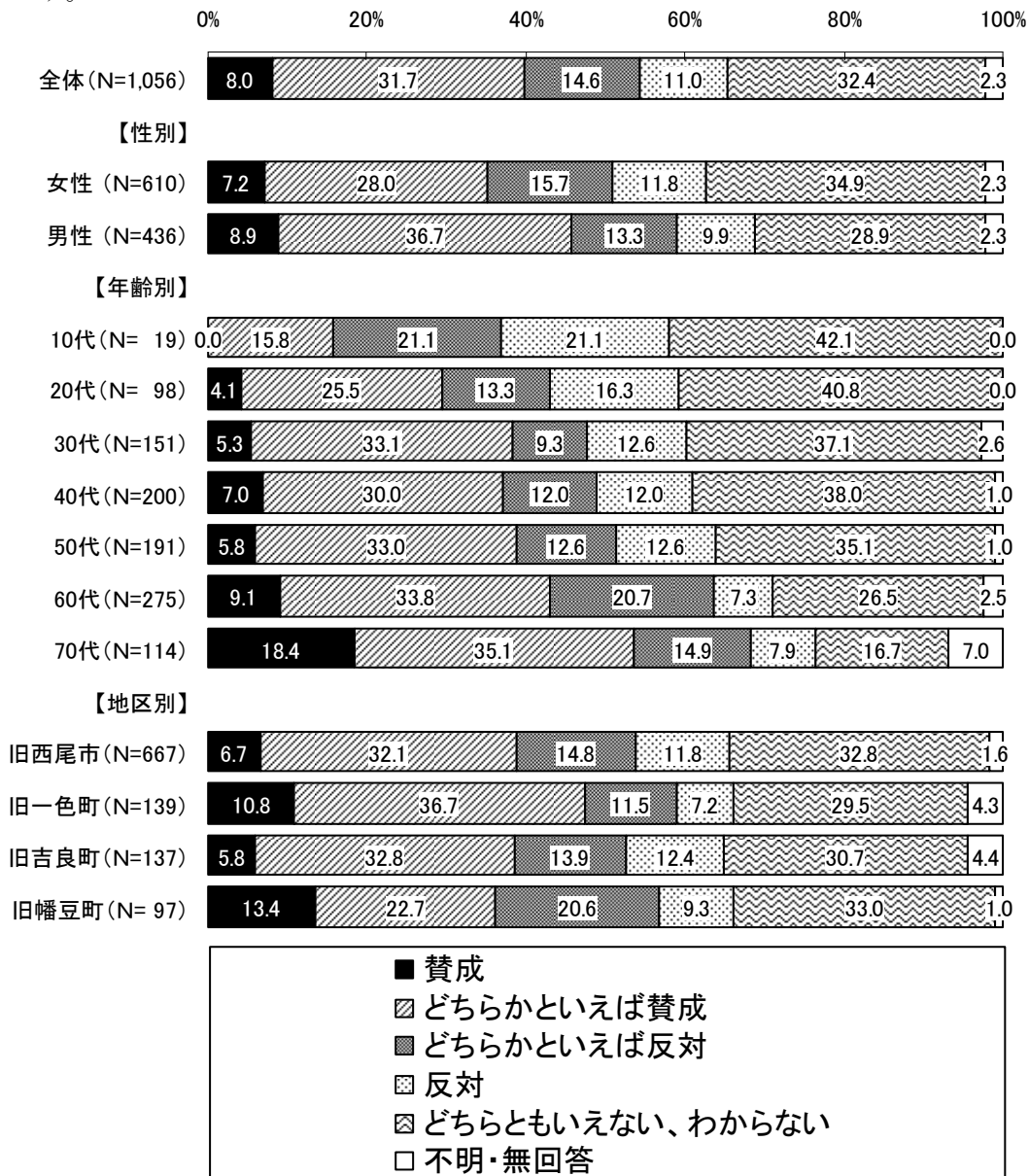
- 『賛成派』…「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの
- 『反対派』…「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの

### ① 結婚、離婚などに関する考え方

問 15 あなたは、以下のような結婚、離婚などに関する考え方についてどう思いますか。  
(A～Dのそれぞれについて、○は1つずつ)

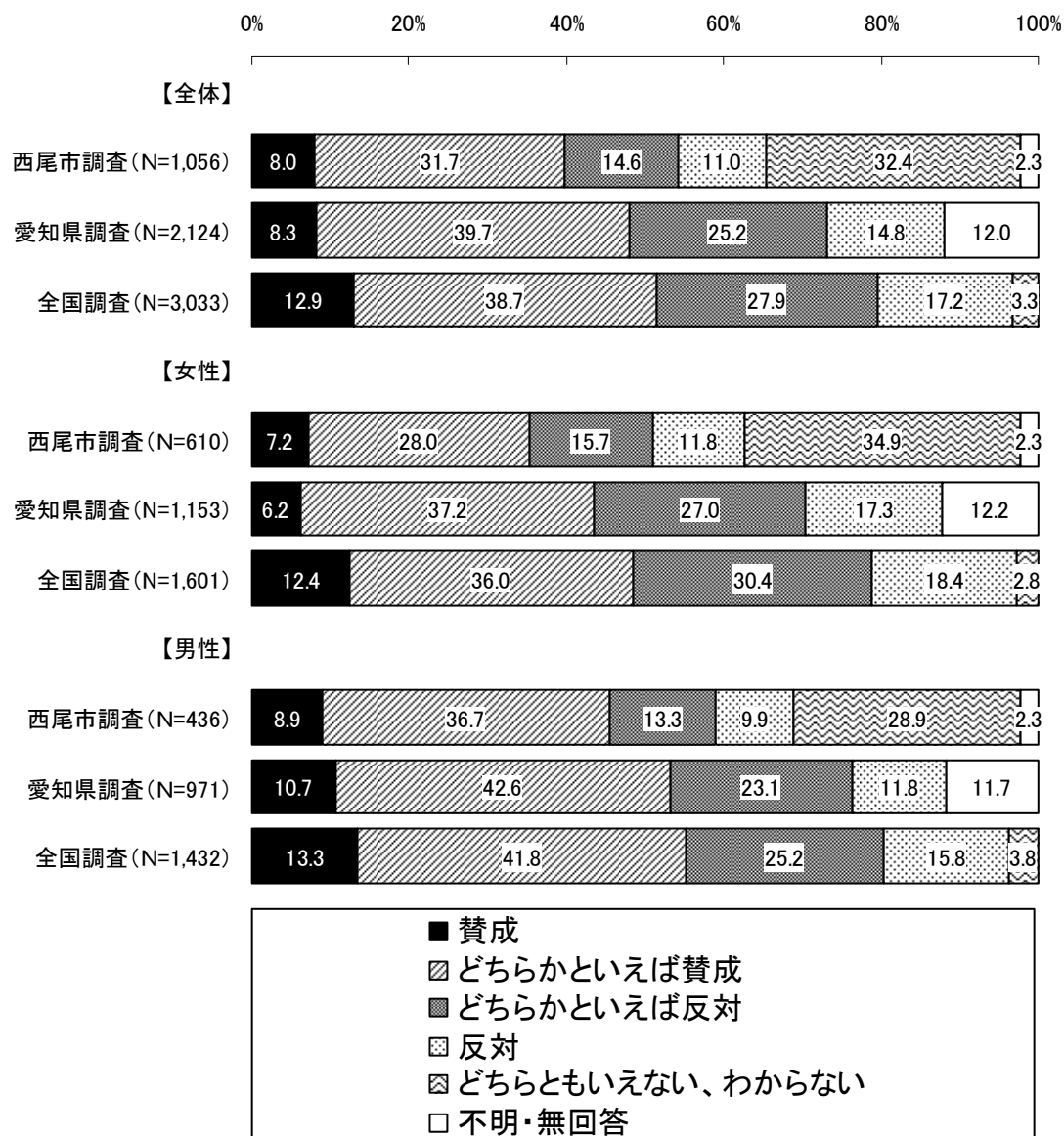
#### A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(単数回答)

全体では『賛成派』が39.7%、『反対派』が25.6%となっており、『賛成派』が『反対派』を上回っています。



■ 愛知県調査、全国調査との比較(夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考えをどう思うか)

全体では愛知県調査、全国調査と比べ『賛成派』の割合が低くなっています。

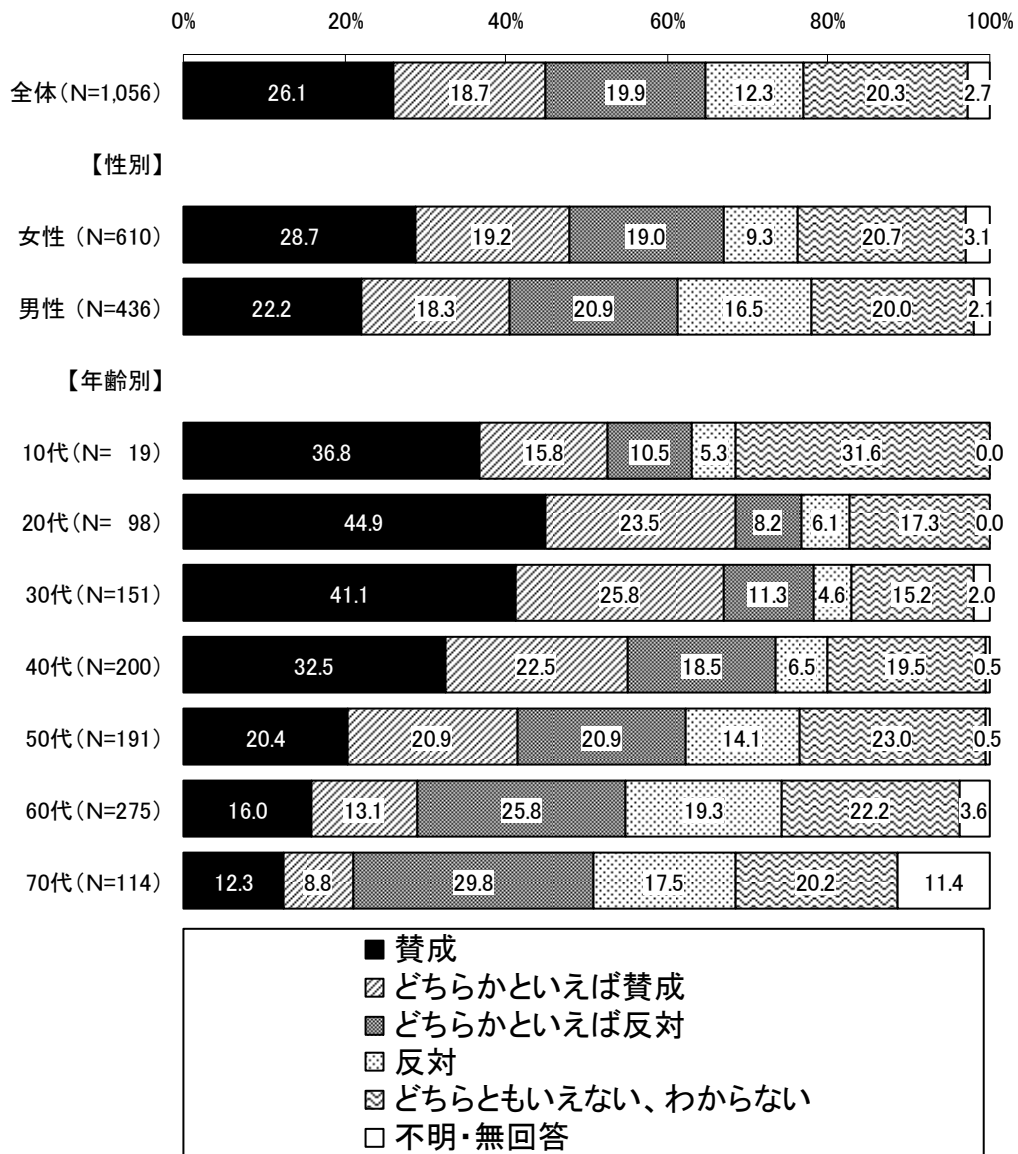


※全国調査は、調査員が直接聴き取る方法で調査を行っているため、「不明・無回答」がありません。

※愛知県調査は「わからない」と「無回答」が合算されているため、「不明・無回答」として比較しています。

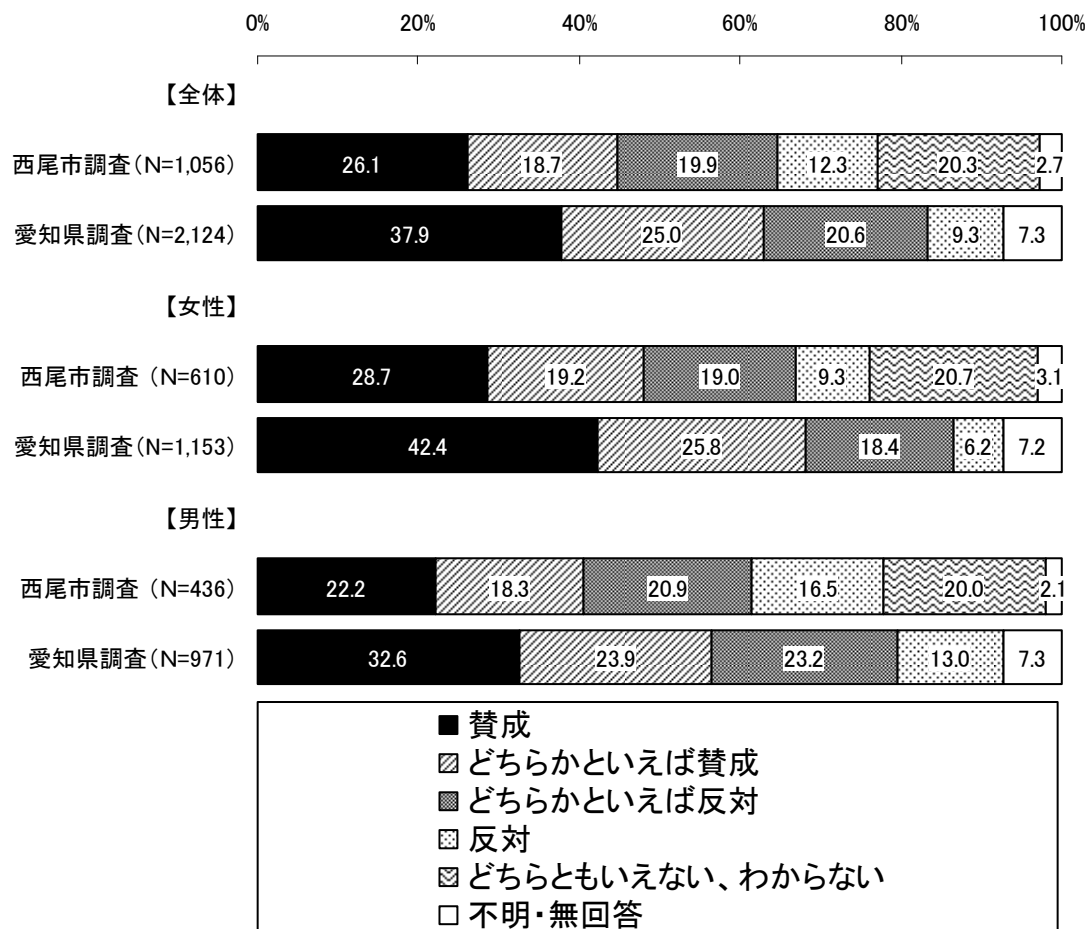
## B 結婚は個人の自由であるから、結婚してもなくてもよい(単数回答)

全体では『賛成派』が44.8%、『反対派』が32.2%となっており、『賛成派』が『反対派』を上回っています。



■ 愛知県調査との比較(結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよいという考えをどう思うか)

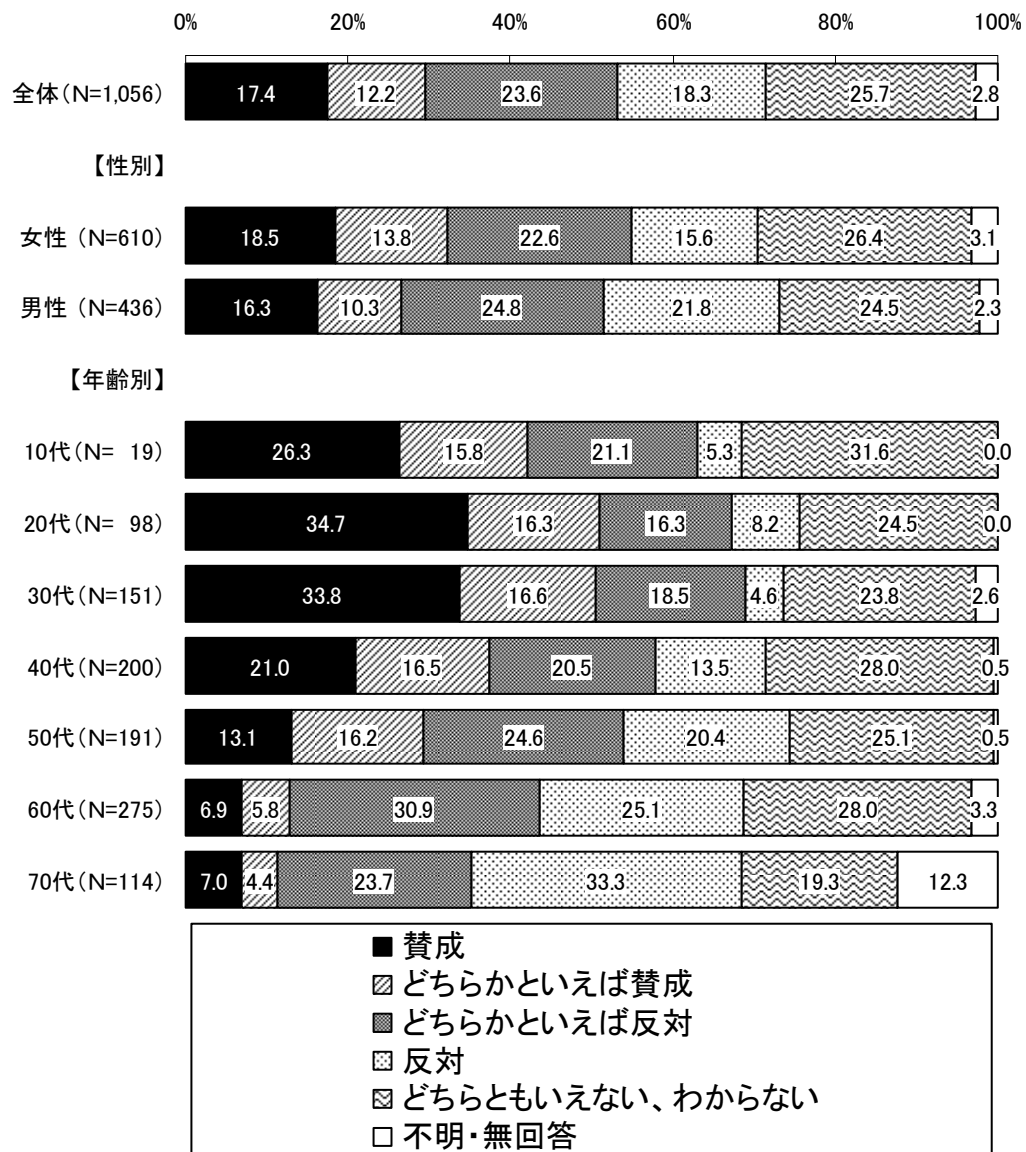
全体では愛知県調査に比べ『賛成派』の割合が低くなっています。



※愛知県調査は「わからない」と「無回答」が合算されているため、「不明・無回答」として比較しています。

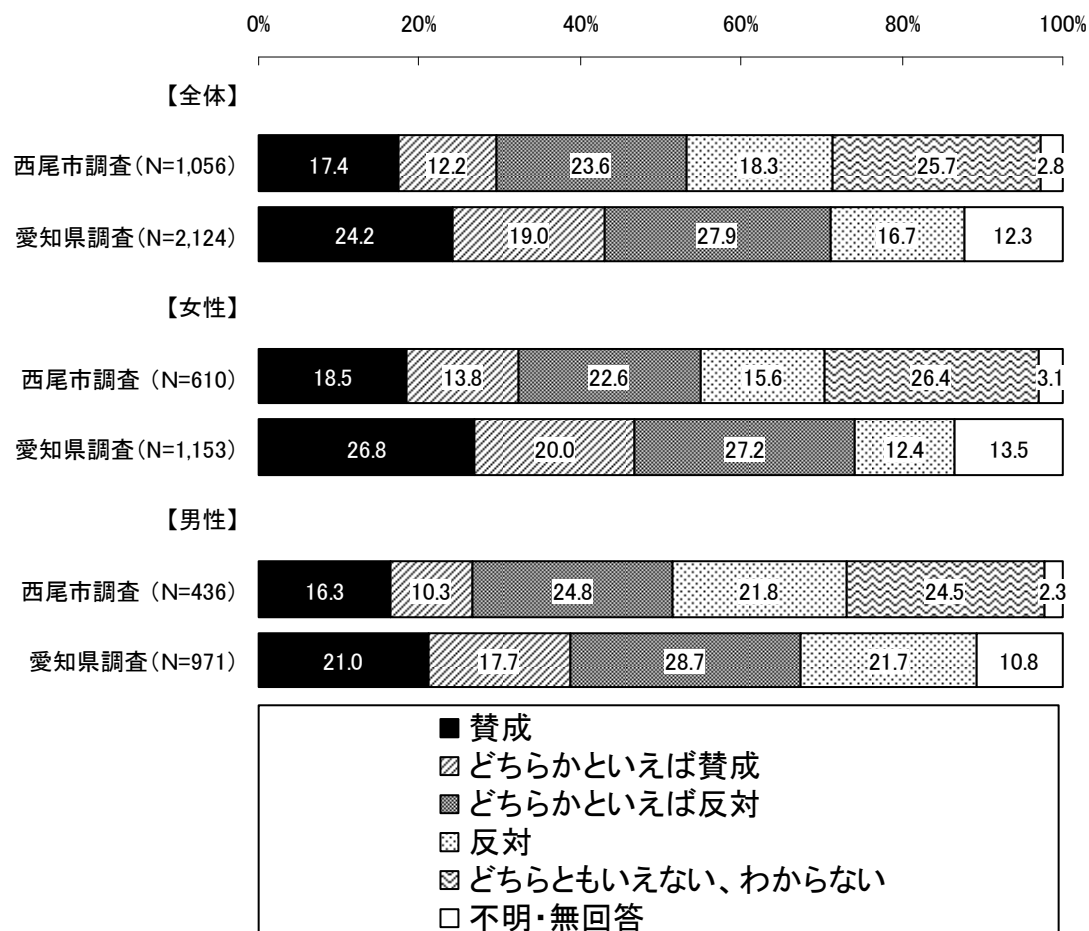
### C 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない(単数回答)

全体では『反対派』が41.9%、『賛成派』が29.6%となっており、『反対派』が『賛成派』を上回っています。



■ 愛知県調査との比較（結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はないという考えをどう思うか）

全体では愛知県調査に比べ『賛成派』の割合が低くなっています。

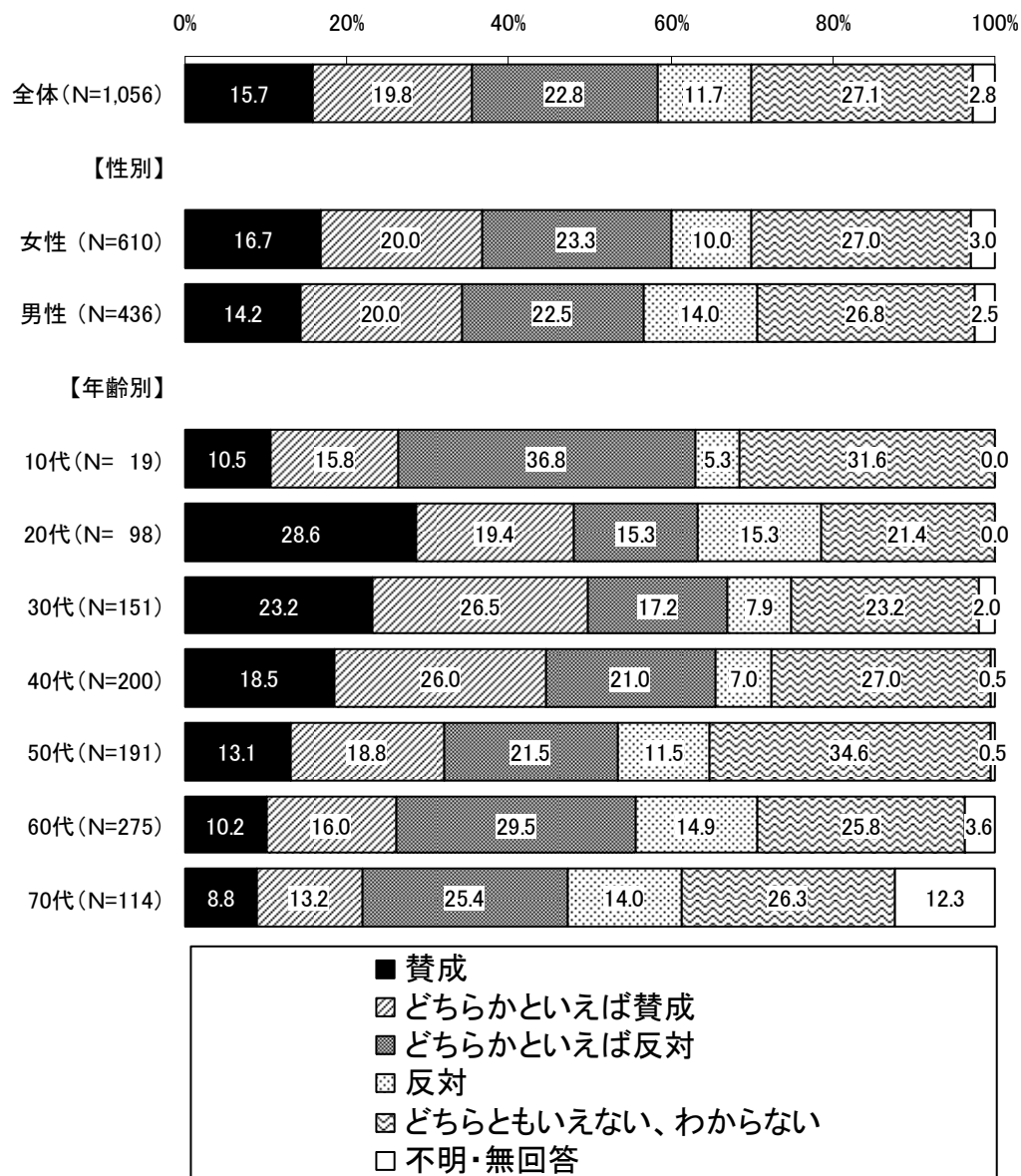


※愛知県調査は「わからない」と「無回答」が合算されているため、「不明・無回答」として比較しています。



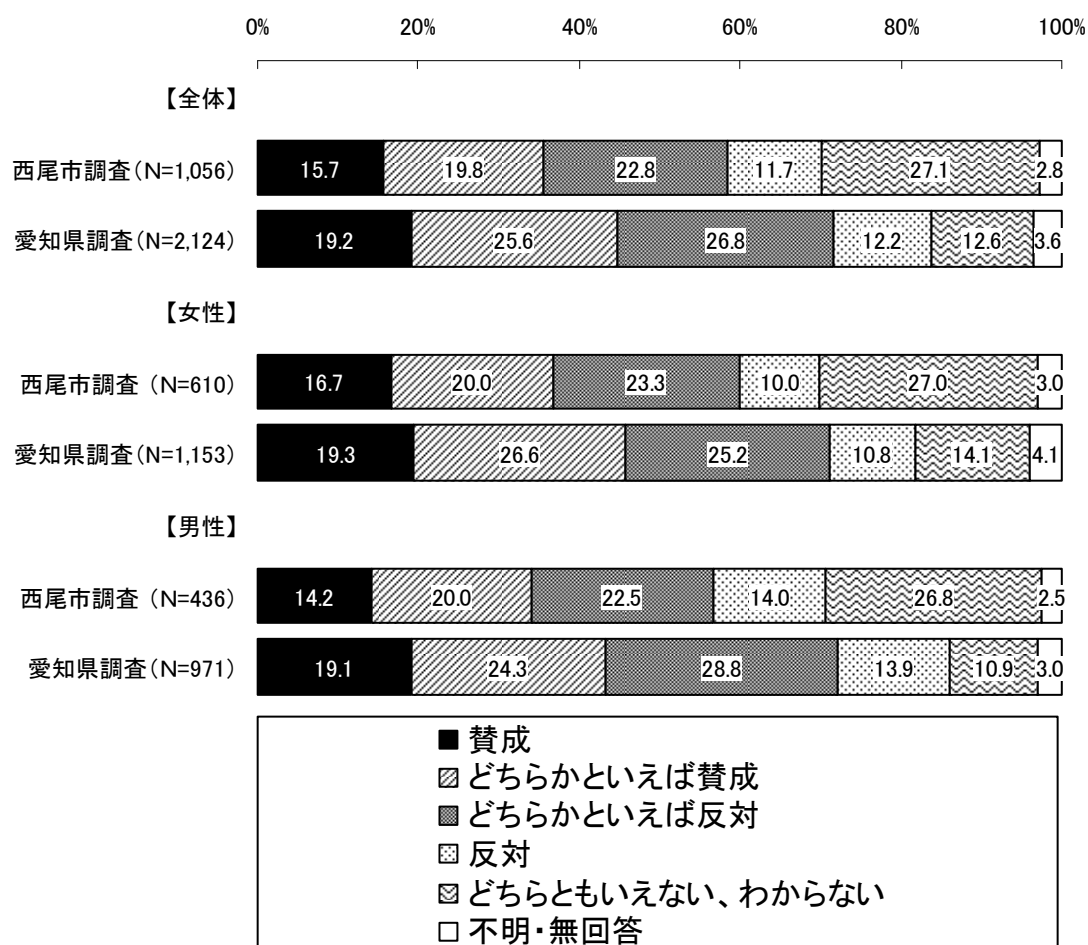
### D 結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい(単数回答)

全体では『賛成派』が 35.5%、『反対派』が 34.5%となっており、回答が二分しています。



■ 愛知県調査との比較（結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいという考えをどう思うか）

全体では愛知県調査に比べ『賛成派』の割合が低くなっています。

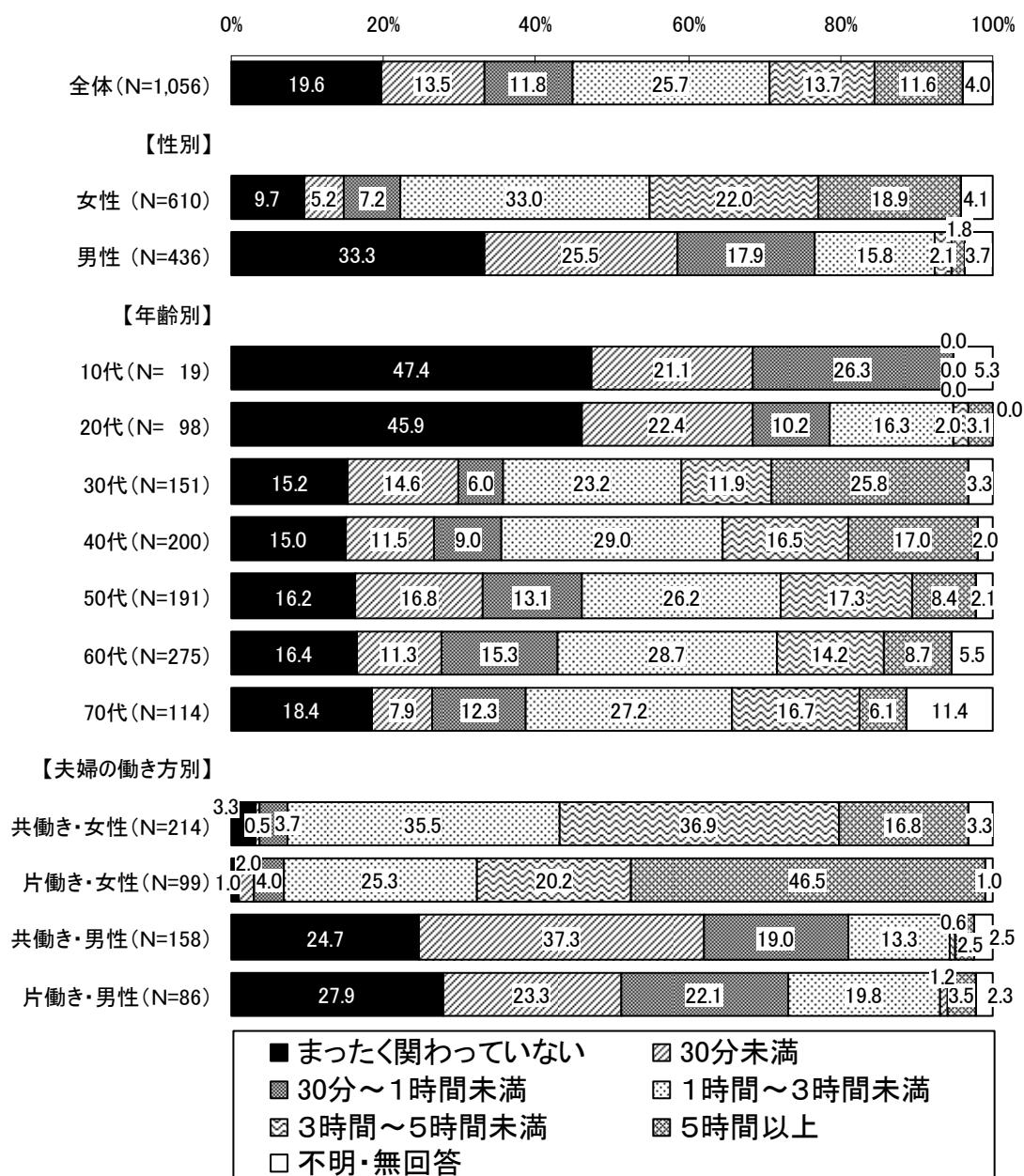


## (2) 仕事と家庭生活との両立について

### ① 平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間(単数回答)

問 16 あなたが、平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間はどのくらいですか。  
(○は1つだけ)

全体では「1時間～3時間未満」が25.7%と最も高く、次いで「まったく関わっていない」が19.6%となっています。



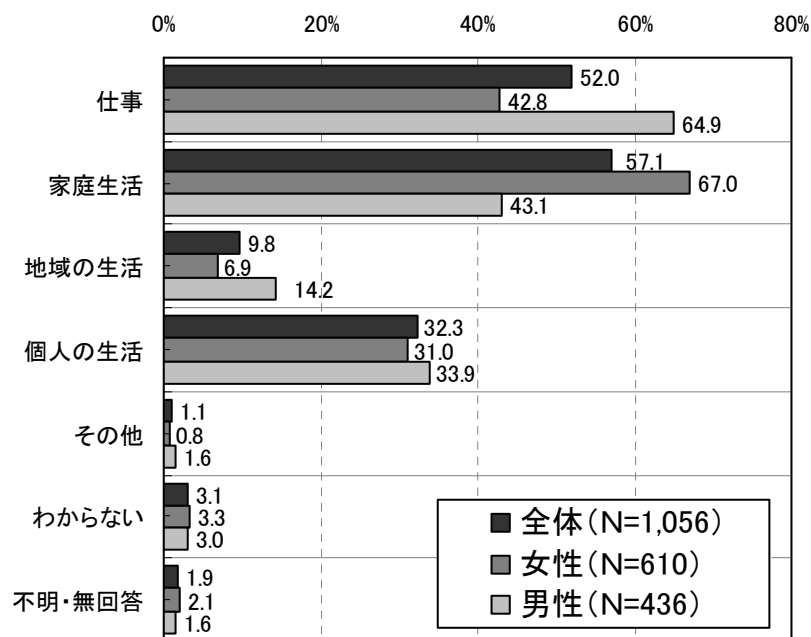
## ② 生活の中で実際に優先しているもの(複数回答)

※用語の意味は次のとおりとしています。

- 「仕事」 …自営業主(農林漁業を含む)、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤(フルタイム)、パート・アルバイト、嘱託などは問いません。
- 「家庭生活」 …家族と過ごすこと、家事(食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など)、育児、介護・看護など。
- 「地域の生活」…地域・社会活動(自治会や町内会の活動、近所との交際・つきあい)など。
- 「個人の生活」…趣味・娯楽、スポーツなどの余暇活動、学習・研究、自主的に行うボランティア活動など。

問17 あなたの生活の中で、実際に優先しているものは次のどれですか。(○はいくつでも)

全体では「家庭生活」が57.1%と最も高く、次いで「仕事」が52.0%、「個人の生活」が32.3%となっています。



## ■ 年齢別のクロス集計表(生活の中で実際に優先しているもの)

単位:%

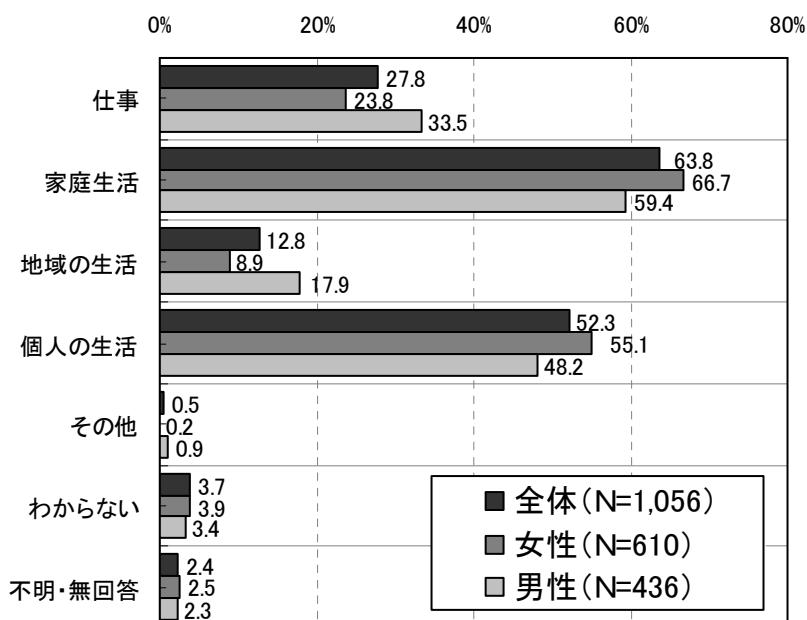
	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	その他	わからない	不明・無回答
<b>【年齢別】</b>							
10代 (N=19)	10.5	10.5	0.0	<b>63.2</b>	<b>15.8</b>	<b>15.8</b>	0.0
20代 (N=98)	<b>56.1</b>	23.5	1.0	<b>60.2</b>	2.0	5.1	0.0
30代 (N=151)	<b>55.0</b>	<b>57.6</b>	4.0	28.5	0.7	2.0	1.3
40代 (N=200)	<b>63.5</b>	<b>60.0</b>	11.0	23.5	1.5	2.5	1.0
50代 (N=191)	<b>66.0</b>	<b>60.2</b>	10.5	24.1	1.6	2.6	1.0
60代 (N=275)	<b>43.6</b>	<b>62.2</b>	12.7	33.8	0.0	2.5	2.2
70代 (N=114)	28.9	<b>69.3</b>	15.8	<b>34.2</b>	0.0	4.4	6.1

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

### ③ 生活の中で、理想として優先したいもの(複数回答)

問 18 あなたの生活の中で、理想として優先したいものは次のどれですか。(〇はいくつでも)

全体では「家庭生活」が63.8%と最も高く、次いで「個人の生活」が52.3%、「仕事」が27.8%となっています。



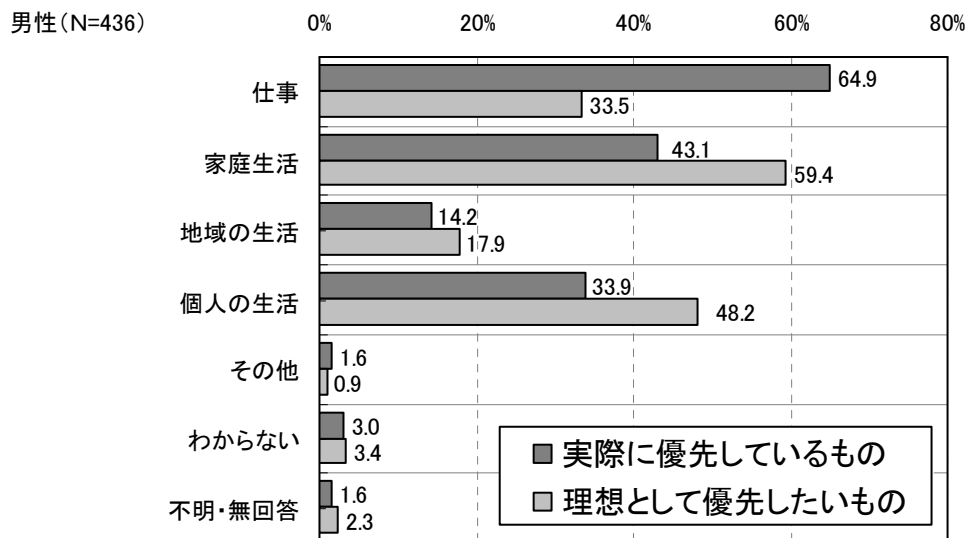
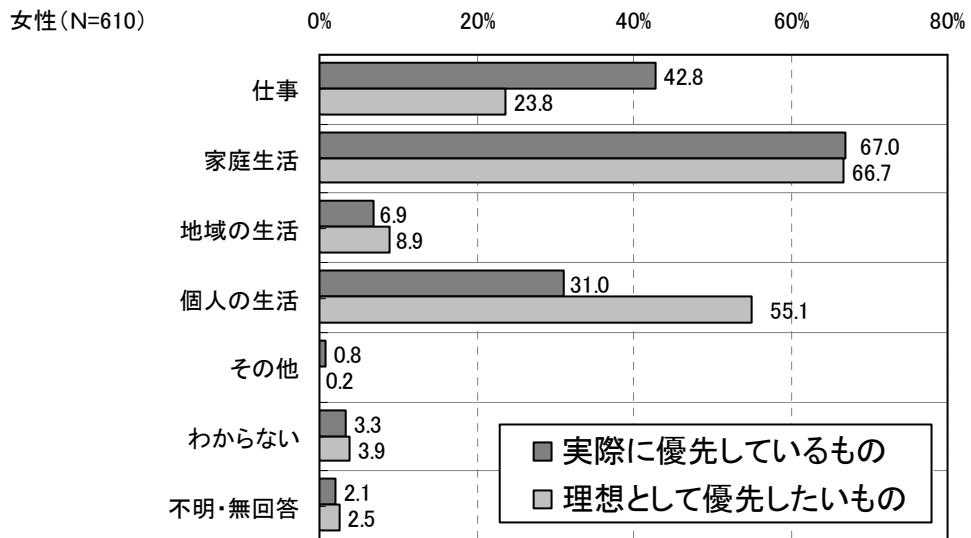
### ■ 年齢別のクロス集計表(生活の中で、理想として優先したいもの)

単位: %

	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	その他	わからない	不明・無回答
【年齢別】							
10代 (N=19)	15.8	<b>42.1</b>	5.3	<b>52.6</b>	5.3	5.3	5.3
20代 (N=98)	29.6	<b>42.9</b>	3.1	<b>71.4</b>	0.0	7.1	0.0
30代 (N=151)	26.5	<b>66.2</b>	6.6	<b>56.3</b>	1.3	2.6	2.0
40代 (N=200)	25.0	<b>63.5</b>	7.5	<b>51.5</b>	0.5	5.5	2.0
50代 (N=191)	34.6	<b>71.2</b>	9.9	<b>53.9</b>	0.0	2.1	1.0
60代 (N=275)	25.8	<b>65.8</b>	21.8	<b>46.5</b>	0.4	3.3	2.9
70代 (N=114)	28.1	<b>65.8</b>	21.1	<b>43.9</b>	0.0	2.6	6.1

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

#### ④ 実際の優先状況と理想の優先状況の比較

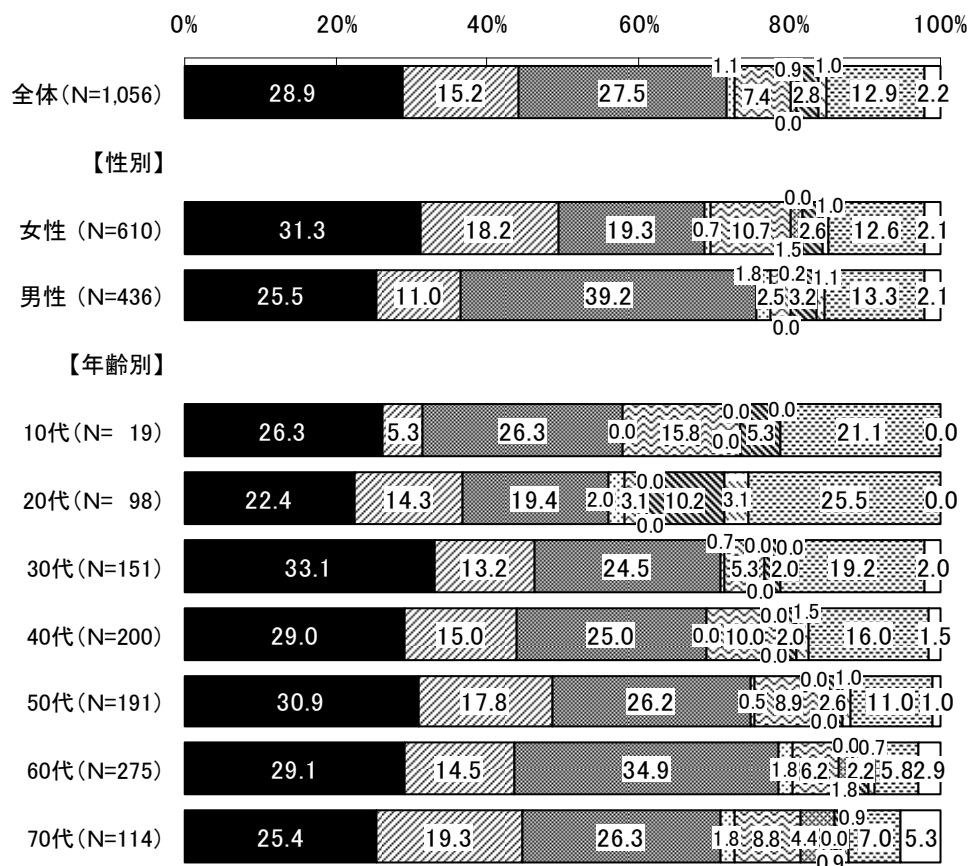


### (3) 介護について

#### ① 介護が必要な状態になった場合に世話をしてもらいたい場所や相手(単数回答)

問 19 あなたがもし介護が必要な状態になった場合、主に誰に(どこで)身の回りの世話をしてもらいたいと思いますか。(〇は1つだけ)

全体では「介護施設などで」が28.9%と最も高く、次いで「家庭で、配偶者・パートナーに」が27.5%となっています。



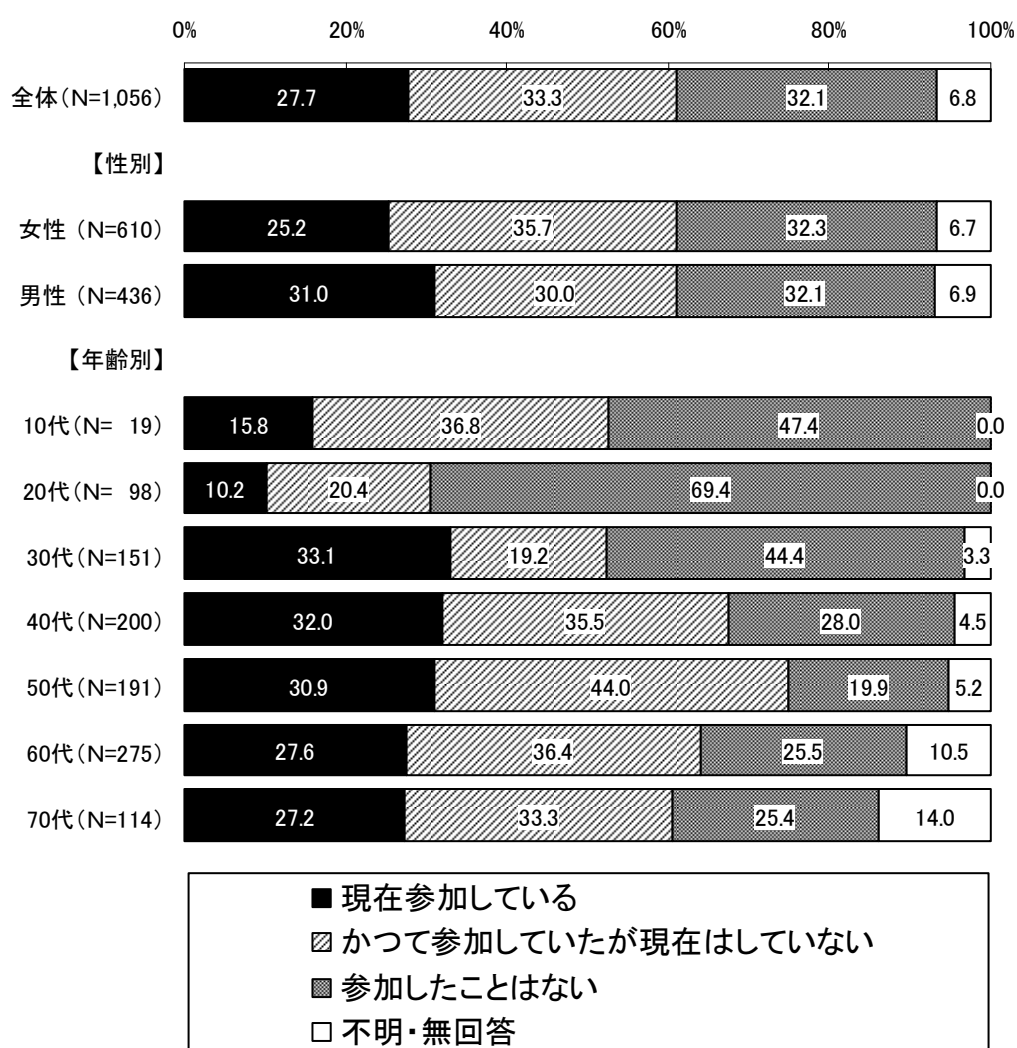
- 介護施設などで
- ▨ 家庭で、公共や民間のヘルパーなどに
- ▩ 家庭で、配偶者・パートナーに
- ▧ 家庭で、息子に
- ▦ 家庭で、娘に
- ▥ 家庭で、息子の妻に
- ▤ 家庭で、娘の夫に
- ▣ 誰にも世話をしてもらいたくない
- ▢ その他
- わからない
- 不明・無回答

## (4) 地域活動について

### ① 地域の活動に参加した経験の有無(単数回答)

問 20 あなたは、何か地域の活動に参加した経験はありますか。(○は1つだけ)

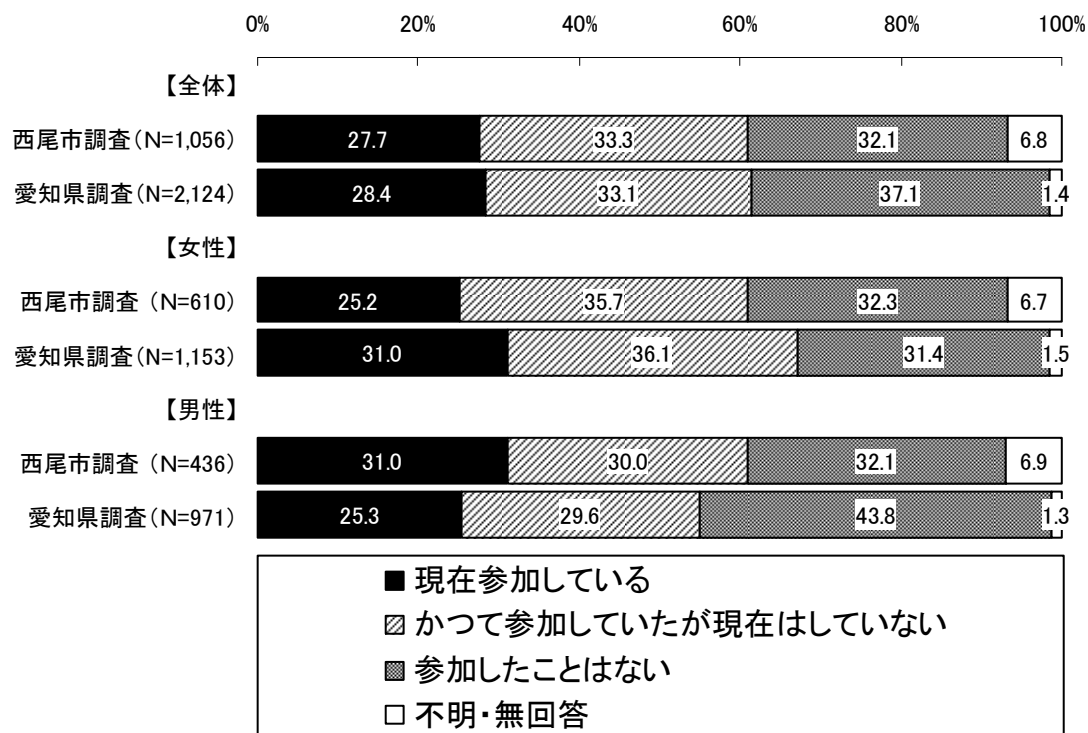
全体では「かつて参加していたが現在はしていない」が33.3%と最も高く、次いで「参加したことはない」が32.1%、「現在参加している」が27.7%となっています。「現在参加している」と「かつて参加していたが現在はしていない」を合わせた、『参加経験がある』割合は61.0%となっています。





■ 愛知県調査との比較（地域の活動に参加した経験の有無）

全体では愛知県調査と大きな差はありません。



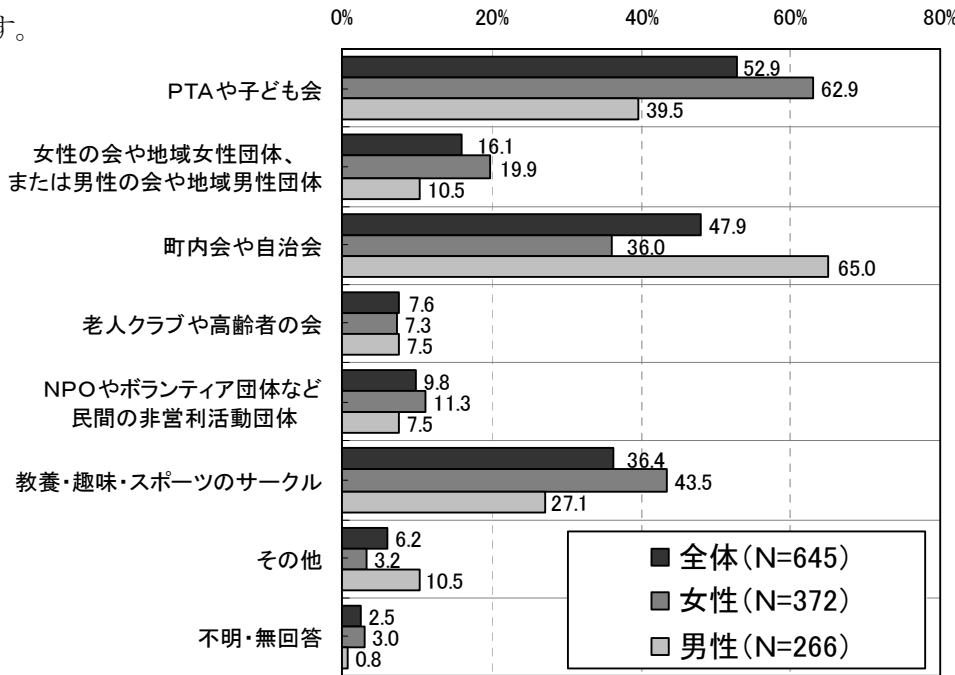
## ② 参加している(参加していた)活動と参加したい活動

<問20で「1 現在参加している」「2 かつて参加していたが現在はしていない」と答えた方におたずねします>

問20-1 現在(今までに)どのような活動に参加していますか(した経験がありますか)。また、今後または引き続き、あなたが参加したい活動はありますか。(A、Bのそれぞれについて、○はいくつでも)

### A 参加している(参加していた)活動(単数回答)

全体では「PTAや子ども会」が52.9%と最も高く、次いで「町内会や自治会」が47.9%となっています。



### ■ 年齢別のクロス集計表(参加している・参加していた活動)

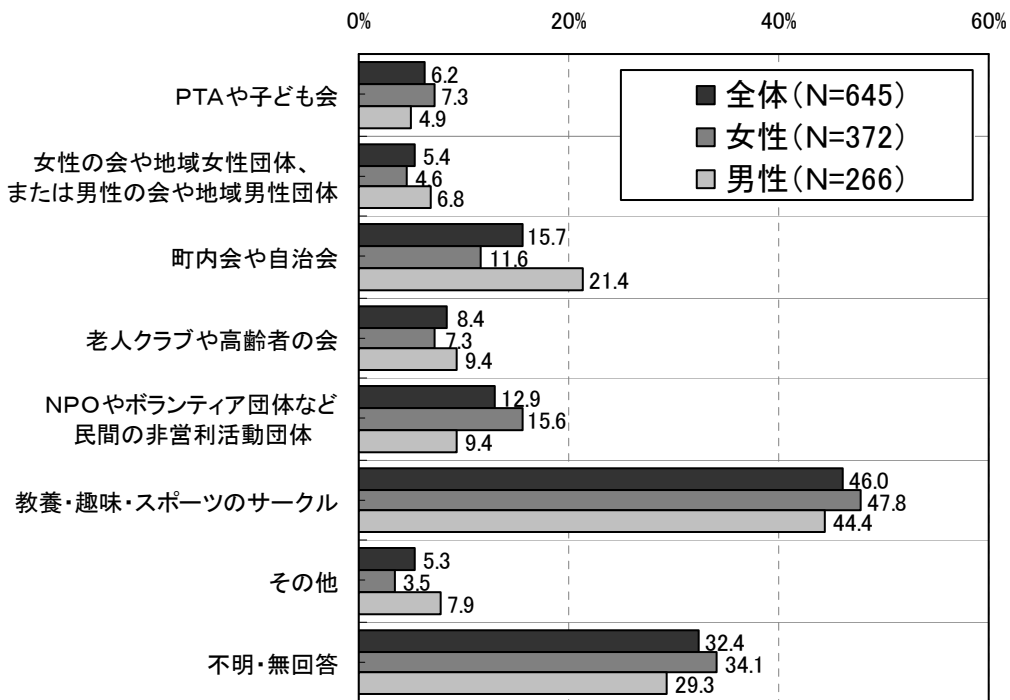
単位: %

	PTAや子ども会	女性の会や地域女性団体、または男性の会や地域男性団体	町内会や自治会	老人クラブや高齢者の会	NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	不明・無回答
<b>【年齢別】</b>								
10代 (N=10)	20.0	10.0	10.0	0.0	40.0	40.0	10.0	0.0
20代 (N=30)	23.3	3.3	30.0	3.3	26.7	50.0	6.7	0.0
30代 (N=79)	57.0	10.1	39.2	0.0	8.9	25.3	8.9	1.3
40代 (N=135)	73.3	17.0	48.1	0.0	11.9	37.0	7.4	0.7
50代 (N=143)	68.5	18.9	53.1	0.0	9.1	42.7	2.1	0.7
60代 (N=176)	41.5	17.6	54.5	12.5	5.1	35.2	8.0	3.4
70代 (N=69)	24.6	17.4	43.5	37.7	8.7	33.3	4.3	8.7

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

## B 今後(または引き続き)参加したい活動(単数回答)

全体では「教養・趣味・スポーツのサークル」が46.0%と最も高く、次いで「町内会や自治会」が15.7%となっています。



## ■ 年齢別のクロス集計表(今後、または引き続き参加したい活動)

単位: %

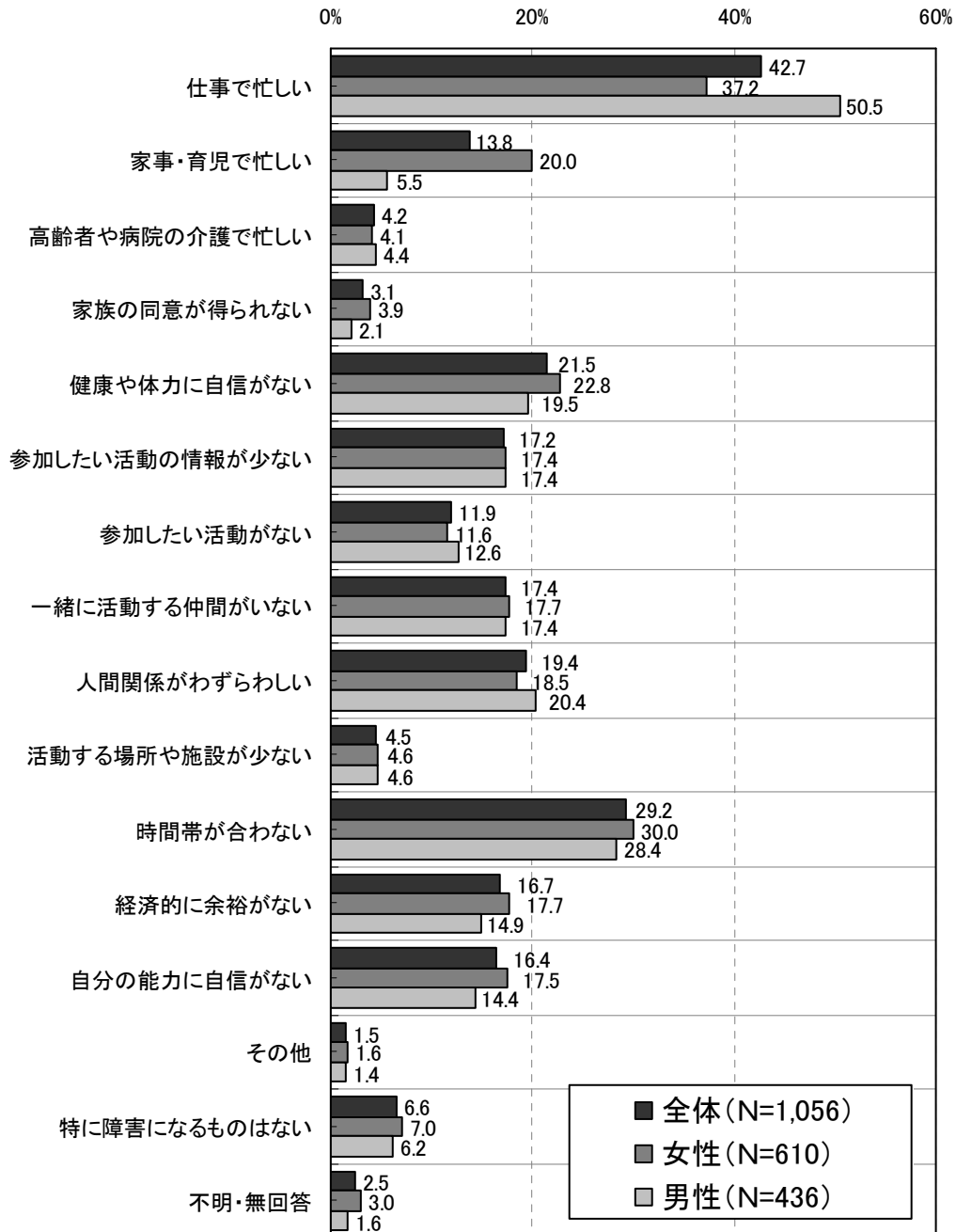
	PTAや子ども会	女性の会や地域女性団体、または男性の会や地域男性団体	町内会や自治会	老人クラブや高齢者の会	NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	不明・無回答
<b>【年齢別】</b>								
10代 (N=10)	0.0	10.0	10.0	0.0	<b>40.0</b>	<b>30.0</b>	20.0	20.0
20代 (N=30)	3.3	10.0	20.0	6.7	<b>26.7</b>	<b>63.3</b>	6.7	20.0
30代 (N=79)	<b>24.1</b>	3.8	17.7	1.3	10.1	<b>30.4</b>	7.6	34.2
40代 (N=135)	13.3	5.2	<b>16.3</b>	1.5	14.8	<b>45.2</b>	4.4	39.3
50代 (N=143)	0.0	7.0	<b>16.8</b>	4.9	12.6	<b>58.7</b>	2.1	27.3
60代 (N=176)	0.6	4.5	<b>15.9</b>	14.2	11.4	<b>46.6</b>	5.7	30.7
70代 (N=69)	1.4	4.3	8.7	<b>24.6</b>	5.8	<b>34.8</b>	7.2	37.7

※不明・無回答を除き、回答の高いものの第1位と第2位に網掛けをしています。

### ③ 社会的な活動に参加しようと思うとき、障害になるもの(複数回答)

問 21 あなたが社会的な活動に参加しようと思うとき、障害になるものは何ですか。  
(○はいくつでも)

全体では「仕事で忙しい」が42.7%と最も高く、次いで「時間帯が合わない」が29.2%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表 (社会的な活動に参加しようと思うとき、障害になるもの)

単位：%

	仕事で忙しい	家事・育児で忙しい	高齢者や病院の介護で忙しい	家族の同意が得られない	健康や体力に自信がない	参加したい活動の情報が少ない	参加したい活動がない	一緒に活動する仲間がいない	人間関係がわずらわしい	活動する場所や施設が少ない	時間帯が合わない	経済的に余裕がない	自分の能力に自信がない	その他	特に障害になるものはない	不明・無回答
<b>【年齢別】</b>																
10代 (N=19)	21.1	5.3	0.0	5.3	5.3	21.1	10.5	<b>36.8</b>	5.3	0.0	<b>47.4</b>	10.5	21.1	5.3	15.8	0.0
20代 (N=98)	<b>54.1</b>	6.1	0.0	1.0	9.2	28.6	26.5	27.6	20.4	9.2	<b>41.8</b>	13.3	13.3	0.0	5.1	1.0
30代 (N=151)	<b>51.0</b>	34.4	1.3	5.3	4.0	19.2	16.6	23.8	29.1	2.0	<b>37.1</b>	16.6	11.3	0.0	3.3	1.3
40代 (N=200)	<b>56.0</b>	25.5	4.5	3.5	15.5	16.0	12.0	14.0	23.0	2.5	<b>33.0</b>	25.0	15.5	2.5	3.5	0.5
50代 (N=191)	<b>52.4</b>	12.0	6.3	2.6	22.5	18.3	11.5	18.3	18.8	6.3	<b>34.0</b>	16.8	18.8	1.6	5.8	1.6
60代 (N=275)	<b>30.2</b>	4.4	6.2	2.5	<b>31.3</b>	15.6	8.7	14.5	13.1	4.7	18.5	13.8	17.8	2.5	9.5	4.4
70代 (N=114)	16.7	0.9	3.5	1.8	<b>43.9</b>	8.8	2.6	9.6	16.7	5.3	15.8	11.4	<b>18.4</b>	0.0	11.4	5.3

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

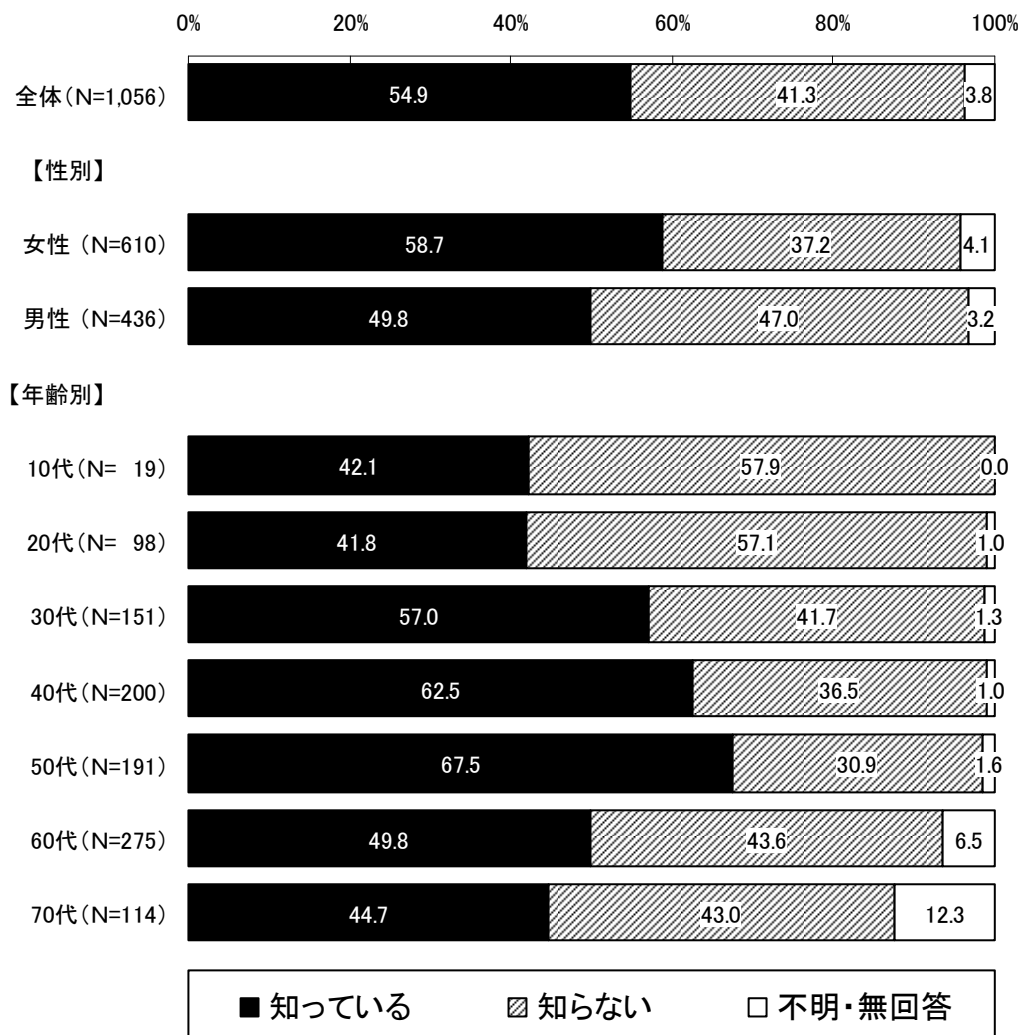
## 5 配偶者や恋人からの暴力について

### (1) 配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口を知っているか

#### ① 配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口を知っているか(単数回答)

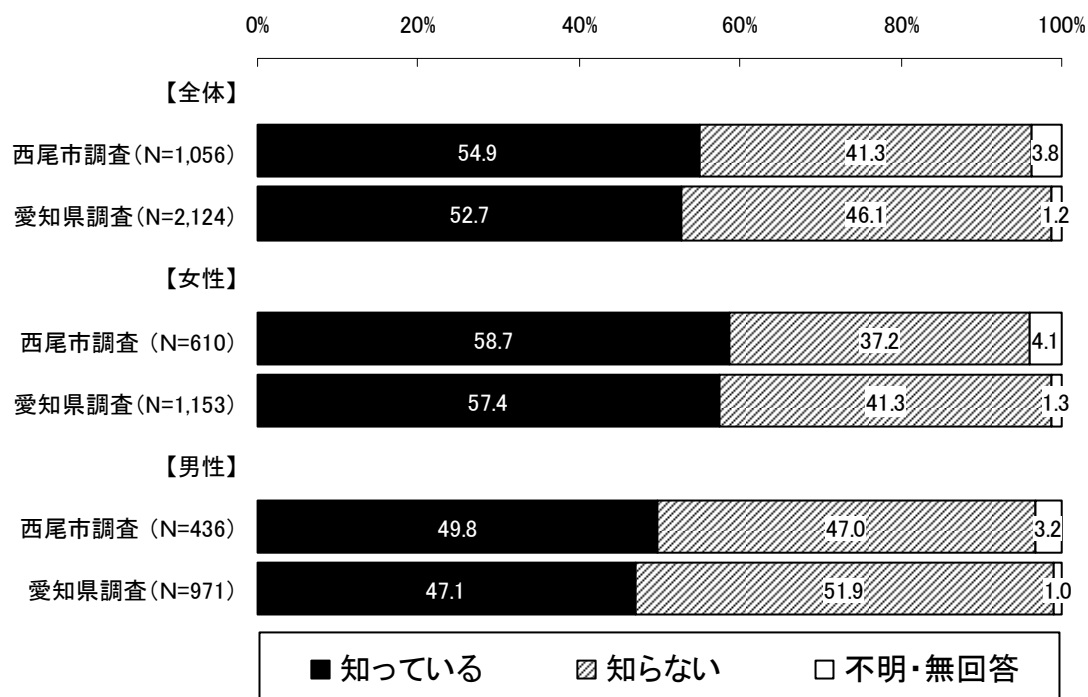
問 22 あなたは、配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口があることを知っていますか。(○は1つだけ)

全体では「知っている」が54.9%、「知らない」が41.3%となっています。



■ 愛知県調査との比較(配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口を知っているか)

全体では愛知県調査と比較して、「知っている」割合が高くなっています。

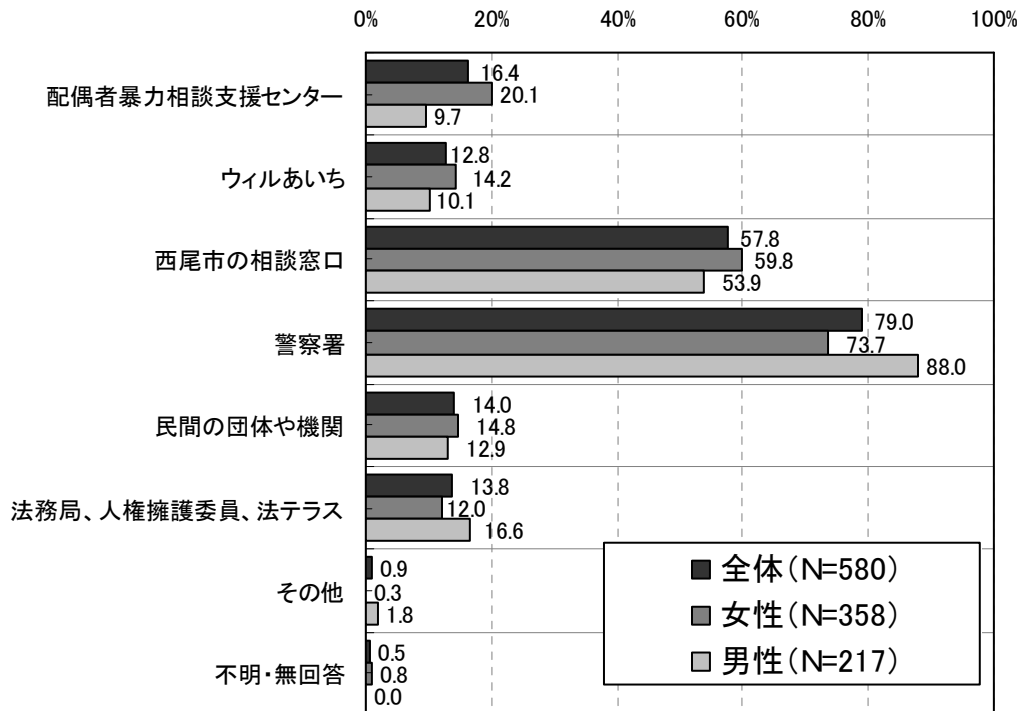


② 相談できる窓口についてどのようなところを知っているか(複数回答)

<問 22 で「1 知っている」と答えた方におたずねします>

問 22-1 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。(〇はいくつでも)

全体では「警察署」が79.0%と最も高く、次いで「西尾市の相談窓口」が57.8%となっています。



■ 年齢別クロス集計表(相談できる窓口についてどのようなところを知っているか)

単位: %

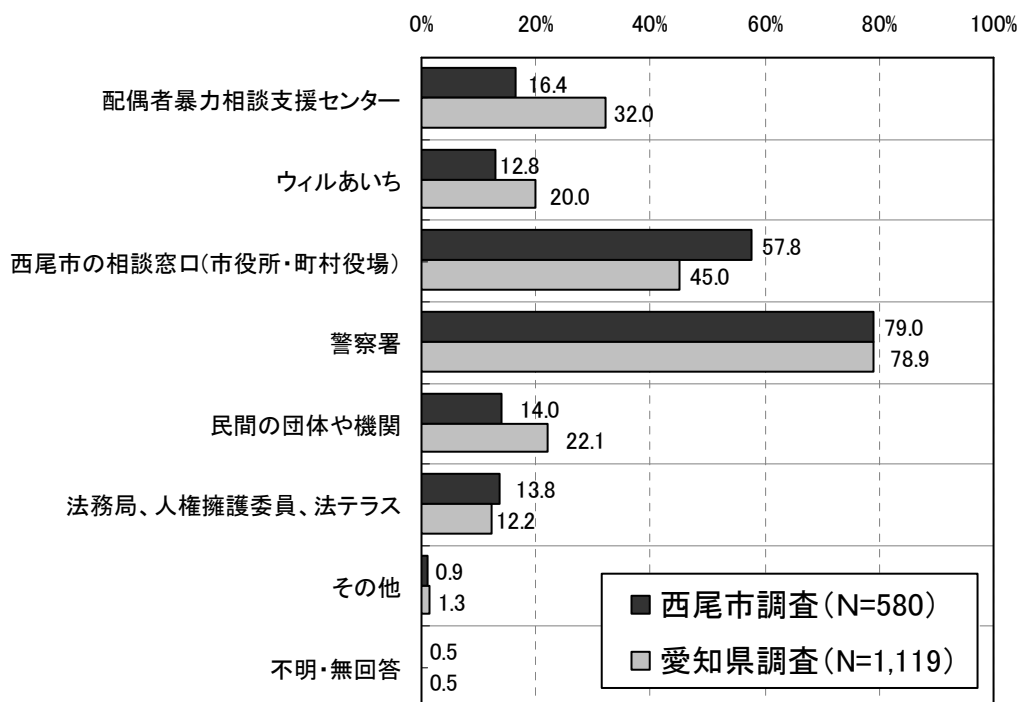
	配偶者暴力相談支援センター	ウィルあいち	西尾市の相談窓口	警察署	民間の団体や機関	法務局、人権擁護委員、法テラス	その他	不明・無回答
<b>【年齢別】</b>								
10代 (N=8)	12.5	0.0	12.5	87.5	12.5	12.5	0.0	0.0
20代 (N=41)	19.5	7.3	43.9	78.0	19.5	7.3	2.4	0.0
30代 (N=86)	8.1	10.5	53.5	82.6	17.4	11.6	1.2	1.2
40代 (N=125)	16.8	16.8	48.0	78.4	15.2	12.0	0.8	0.8
50代 (N=129)	15.5	12.4	57.4	82.2	15.5	16.3	0.8	0.0
60代 (N=137)	19.7	13.9	67.9	75.9	11.7	16.1	0.7	0.0
70代 (N=51)	21.6	11.8	80.4	74.5	3.9	15.7	0.0	2.0

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。



■ 愛知県調査との比較（相談できる窓口についてどのようなところを知っているか）

全体では愛知県調査と比較して「西尾市の相談窓口（市役所・町村役場）」の割合が高くなっています。



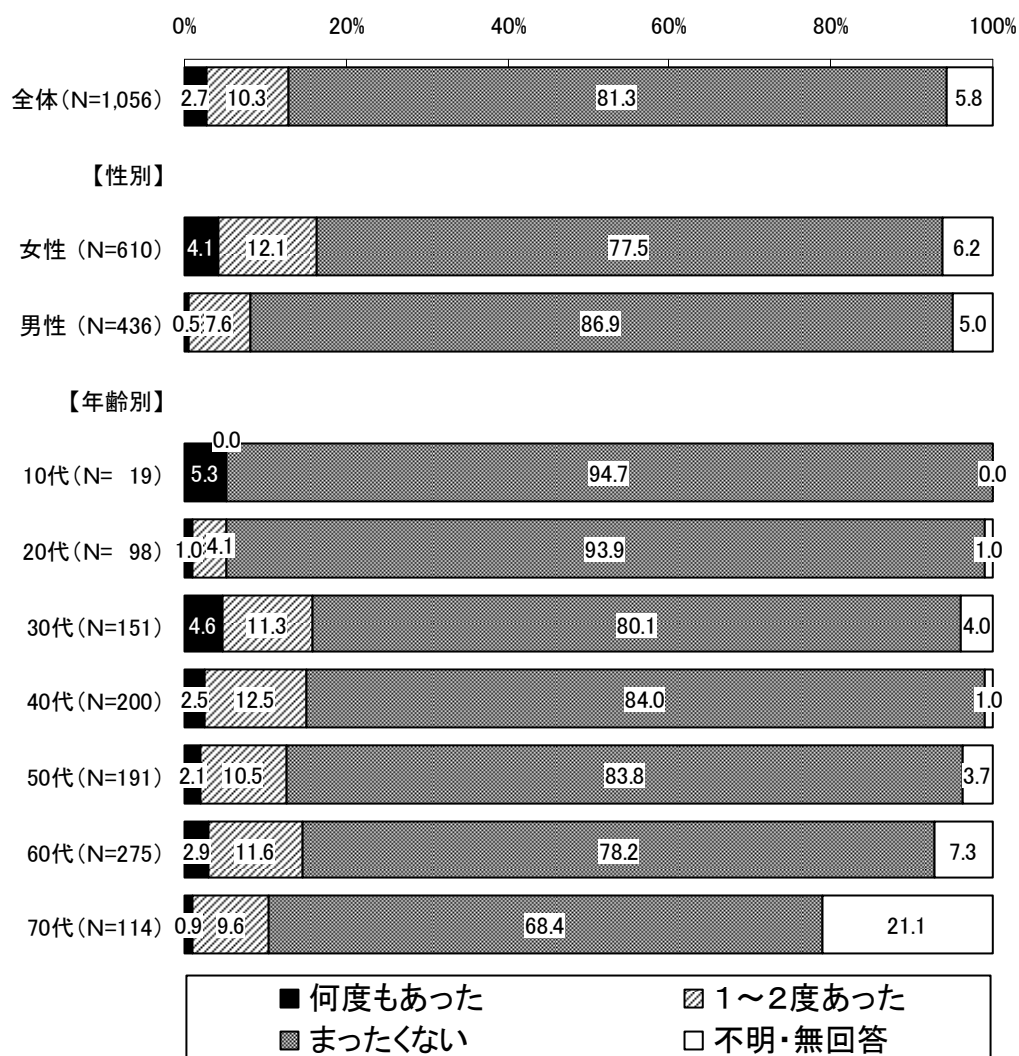
※選択肢の「西尾市の相談窓口」は、愛知県調査では「市役所・町村役場」となっています。

## (2) 配偶者や恋人からの暴力の経験の有無

問 23 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人から次のようなことをされたことがありますか。(A～Eのそれぞれについて、○は1つずつ)

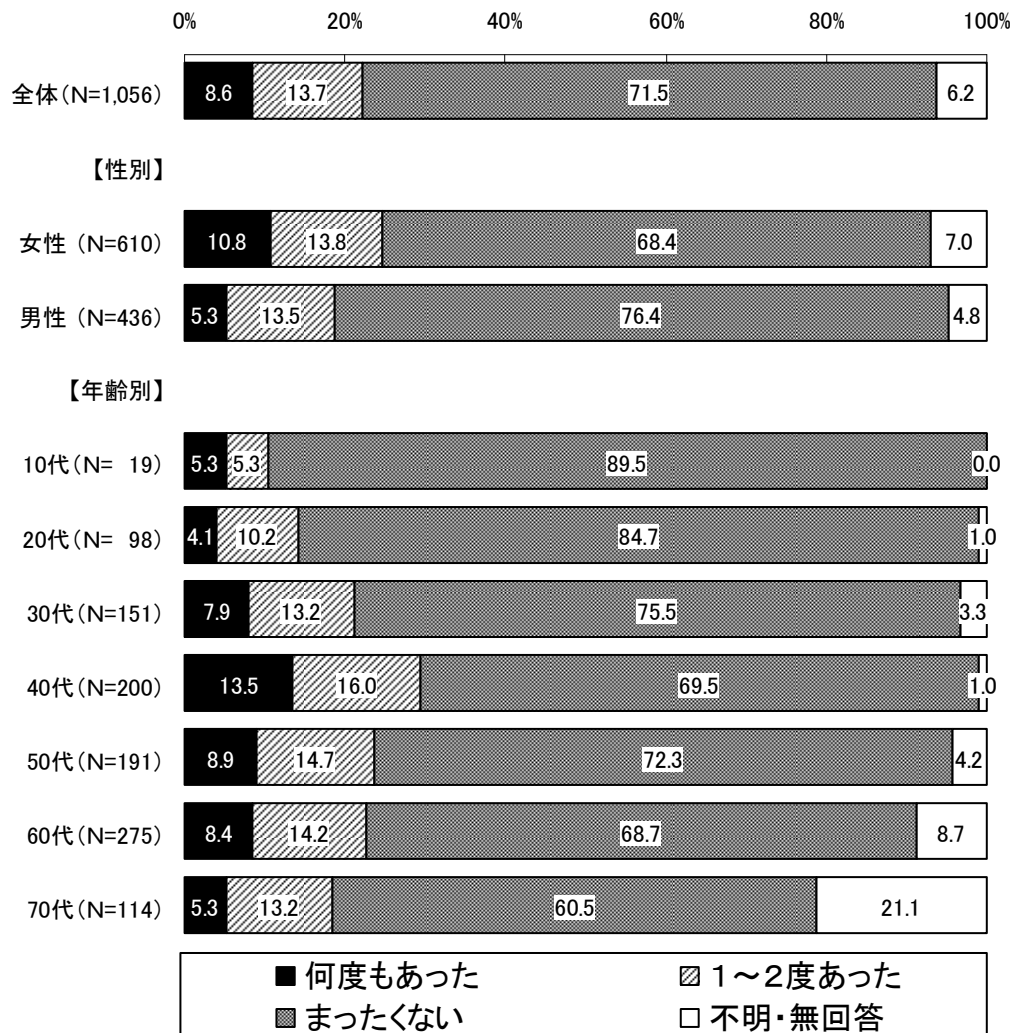
### A 身体的暴力(単数回答)

全体では「何度もあった」が2.7%、「1～2度あった」が10.3%となっています。「何度もあった」「1～2度あった」を合わせた『被害経験があった』割合は13.0%となっています。



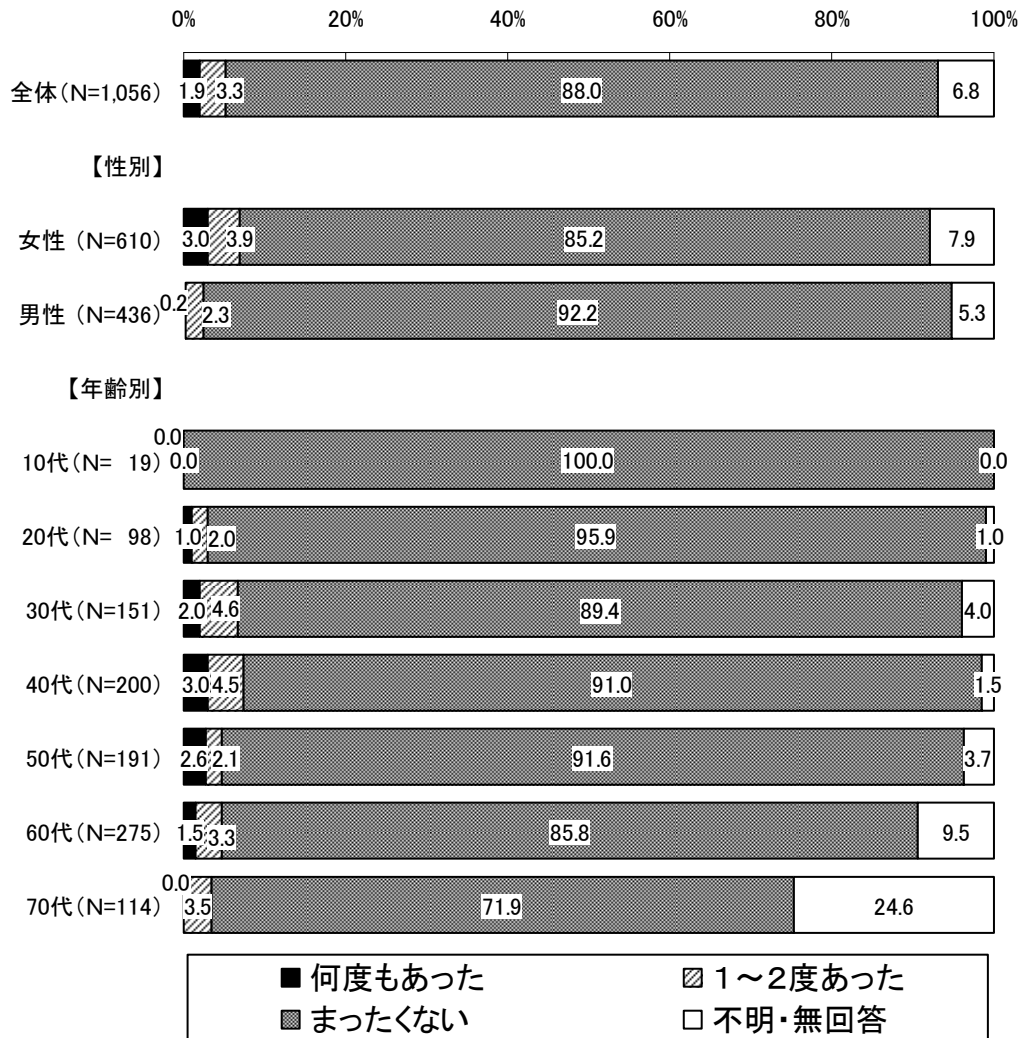
## B 精神的暴力(単数回答)

全体では「何度もあった」が8.6%、「1～2度あった」が13.7%となっています。「何どもあった」「1～2度あった」を合わせた『被害経験があった』割合は22.3%となっています。



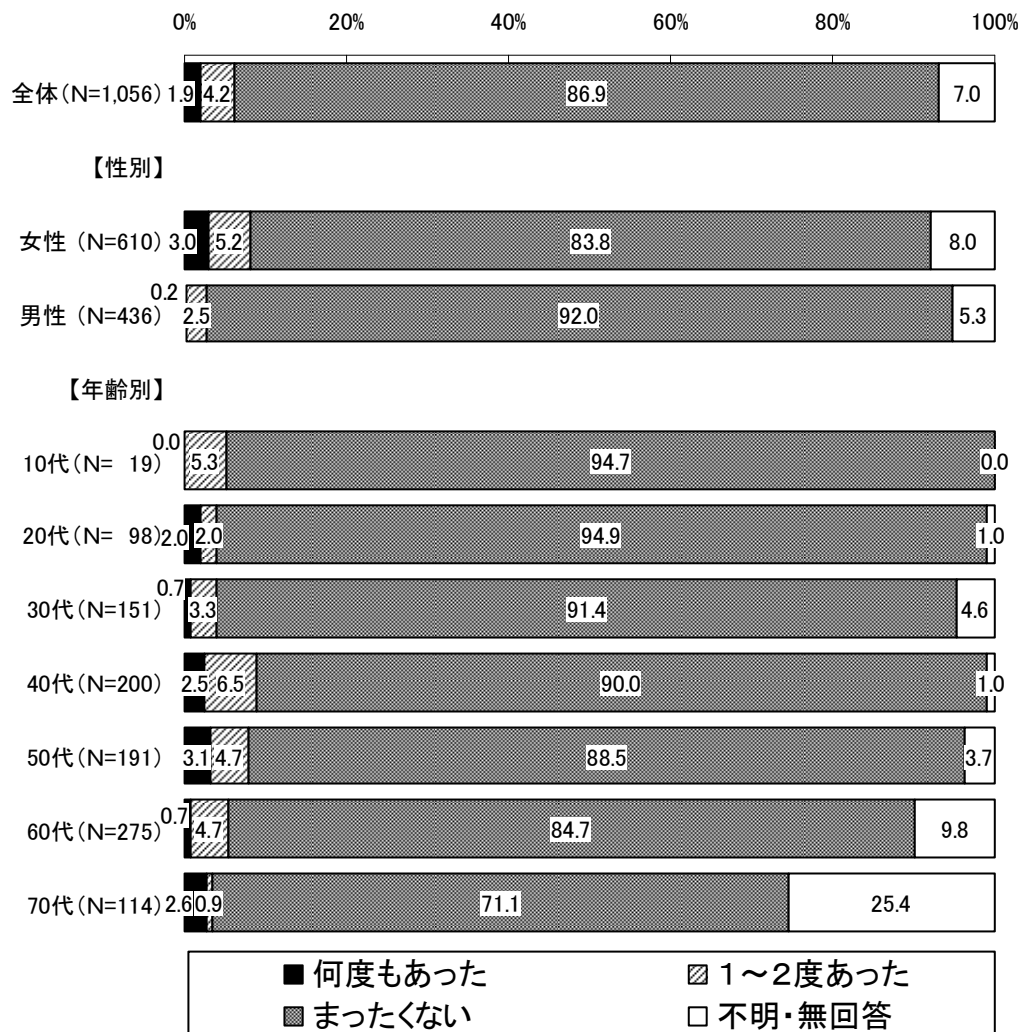
### C 性的暴力(単数回答)

全体では「何度もあった」が1.9%、「1～2度あった」が3.3%となっています。「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた『被害経験があった』割合は5.2%となっています。



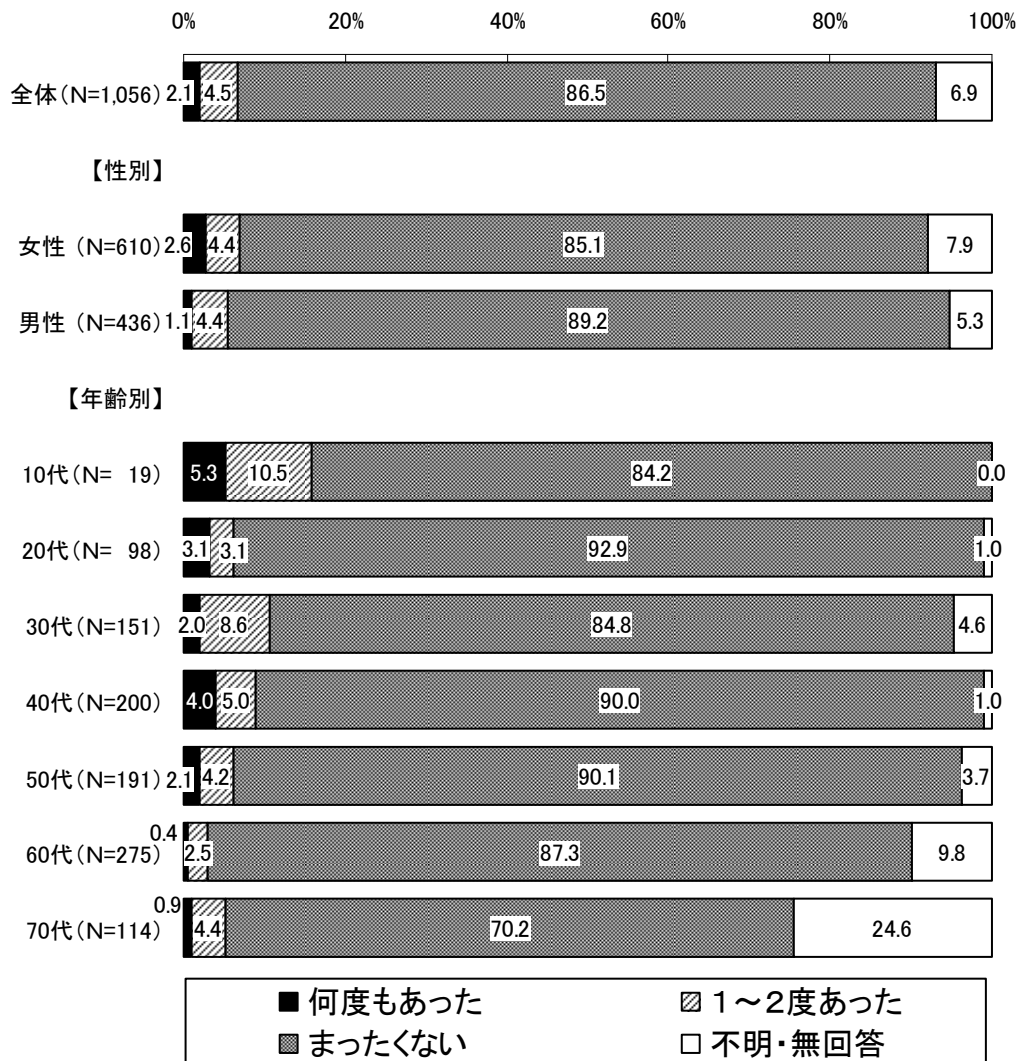
## D 経済的暴力(単数回答)

全体では「何度もあった」が1.9%、「1～2度あった」が4.2%となっています。「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた『被害経験があった』割合は6.1%となっています。



## E 社会的暴力(単数回答)

全体では「何度もあった」が2.1%、「1～2度あった」が4.5%となっています。「何どもあった」「1～2度あった」を合わせた『被害経験があった』割合は6.6%となっています。



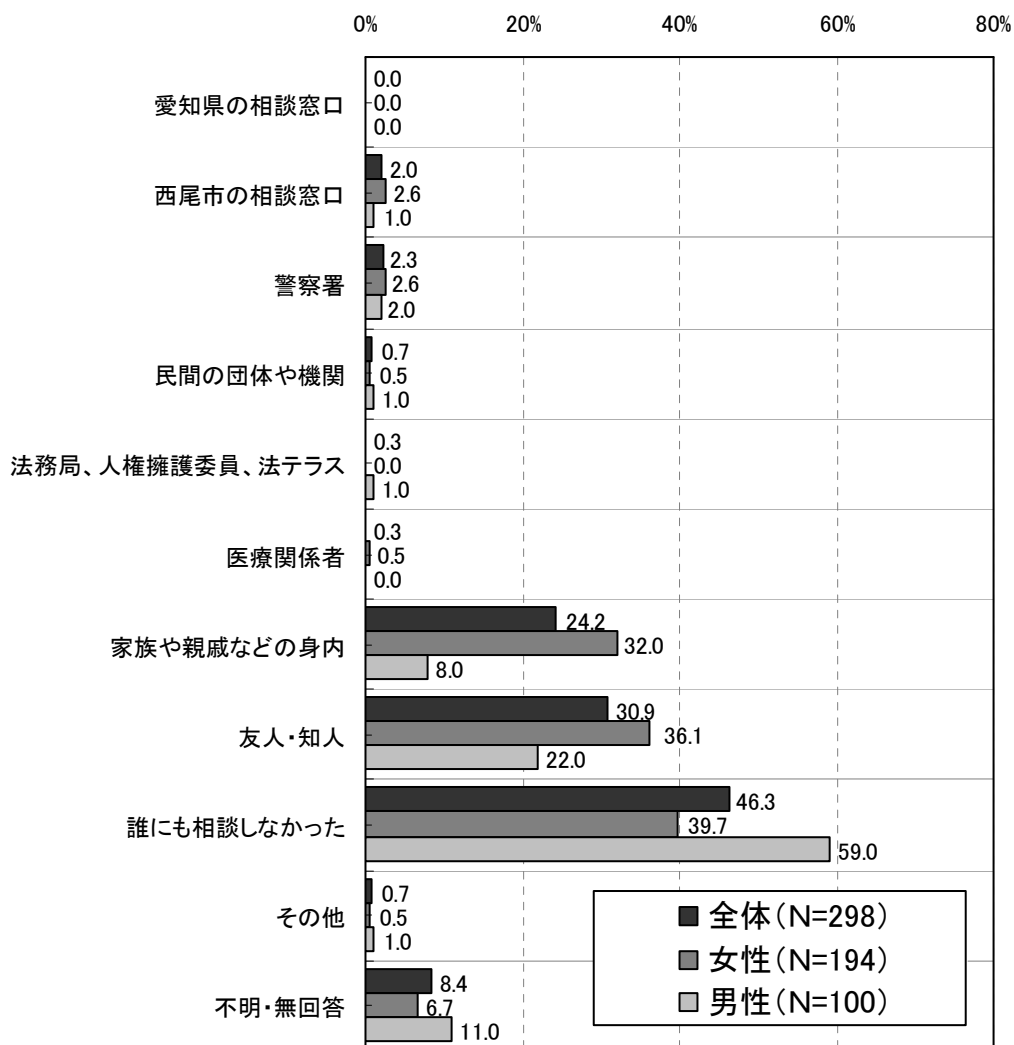
### (3) 配偶者や恋人からの暴力を受けた際の相談の状況

#### ① 配偶者や恋人から暴力を受けた際にどこに(誰に)相談したか(複数回答)

<問 23 で「何度もあった」「1～2度あった」に1つでも○をつけた方におたずねします>

問 23-1 そのような行為を受けた後、誰か(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

全体では「誰にも相談しなかった」が46.3%と最も高く、次いで「友人・知人」が30.9%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表 (配偶者や恋人から暴力を受けた際にどこに相談したか)

単位: %

	愛知県の相談窓口	西尾市の相談窓口	警察署	民間の団体や機関	法務局、人権擁護委員、法テラス	医療関係者	家族や親戚などの身内	友人・知人	誰にも相談しなかった	その他	不明・無回答
<b>【年齢別】</b>											
10代 (N=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>25.0</b>	<b>50.0</b>	<b>25.0</b>	0.0
20代 (N=17)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	<b>35.3</b>	<b>64.7</b>	23.5	0.0	0.0
30代 (N=42)	0.0	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	<b>19.0</b>	<b>45.2</b>	<b>45.2</b>	0.0	2.4
40代 (N=69)	0.0	4.3	2.9	1.4	1.4	0.0	29.0	<b>33.3</b>	<b>46.4</b>	1.4	1.4
50代 (N=59)	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	25.4	<b>30.5</b>	<b>45.8</b>	0.0	11.9
60代 (N=78)	0.0	2.6	3.8	0.0	0.0	0.0	<b>23.1</b>	17.9	<b>51.3</b>	0.0	12.8
70代 (N=28)	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	17.9	<b>21.4</b>	<b>50.0</b>	0.0	17.9

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

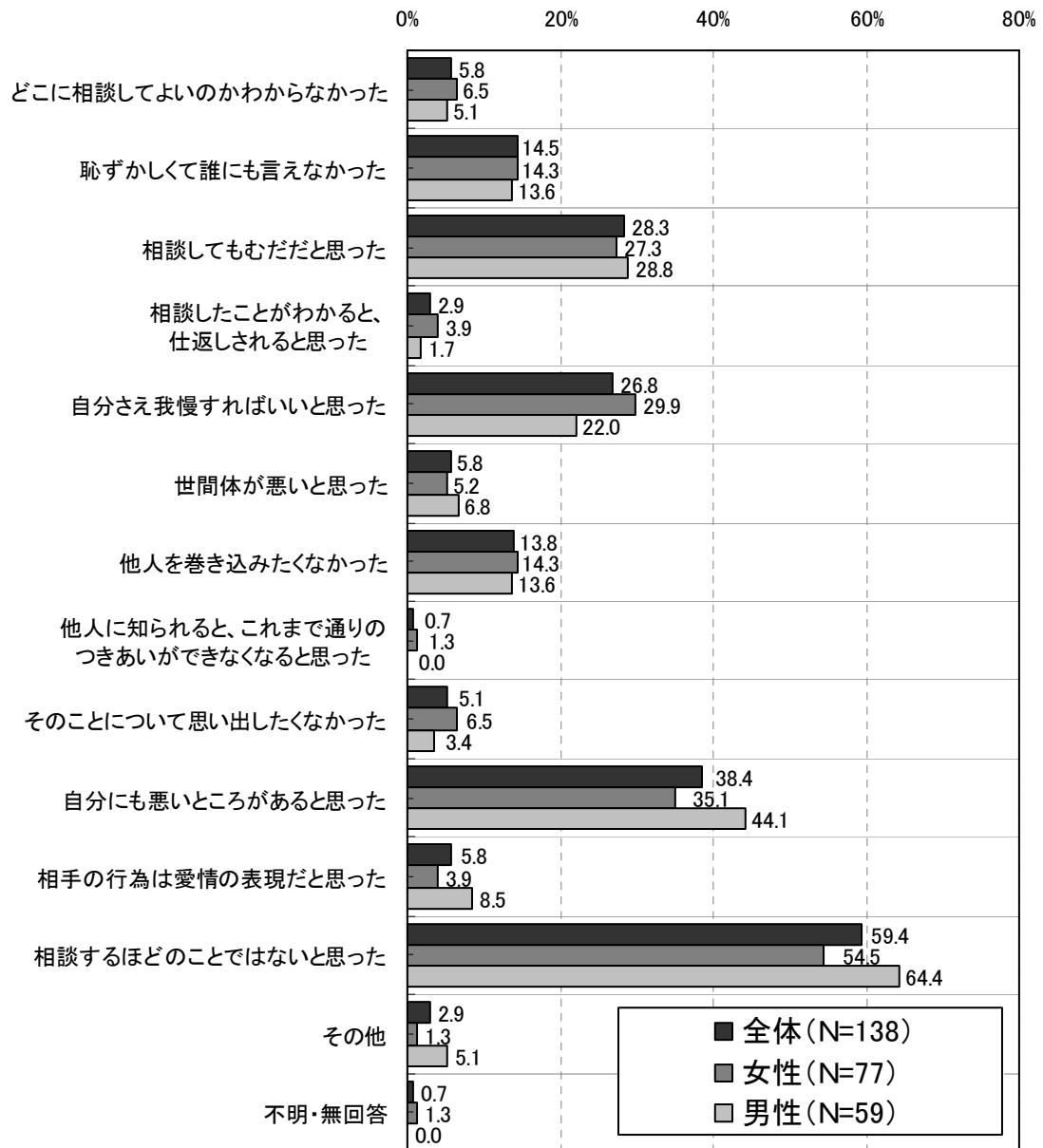


② 配偶者や恋人から暴力を受けた際に誰にも相談しなかった理由(複数回答)

<問 23-1で「9 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします>

問 23-2 誰にも相談しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全体では「相談するほどのことではないと思った」が59.4%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が38.4%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表（配偶者や恋人から暴力を受けた際に誰にも相談しなかった理由）

単位：%

	どこに相談してよいかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談してもむだだと思った	相談したことがわかると、仕返しされると思った	自分さえ我慢すればいいと思った	世間体が悪いと思った	他人を巻き込みたくなかった	他人に知られると、これまで通りのつきあいができなくなると思った	そのことについて思い出しなくなかった	自分にも悪いところがあると思った	相手の行為は愛情の表現だと思った	相談するほどのことではないと思った	その他	不明・無回答
【年齢別】														
10代(N=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
20代(N=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0
30代(N=19)	0.0	21.1	21.1	0.0	21.1	0.0	21.1	0.0	5.3	42.1	15.8	52.6	5.3	0.0
40代(N=32)	9.4	15.6	46.9	3.1	28.1	9.4	9.4	3.1	6.3	37.5	0.0	59.4	6.3	0.0
50代(N=27)	3.7	0.0	22.2	3.7	14.8	7.4	11.1	0.0	0.0	37.0	3.7	70.4	0.0	3.7
60代(N=40)	5.0	12.5	30.0	5.0	32.5	2.5	15.0	0.0	7.5	37.5	7.5	52.5	0.0	0.0
70代(N=14)	7.1	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	7.1	42.9	0.0	71.4	0.0	0.0

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

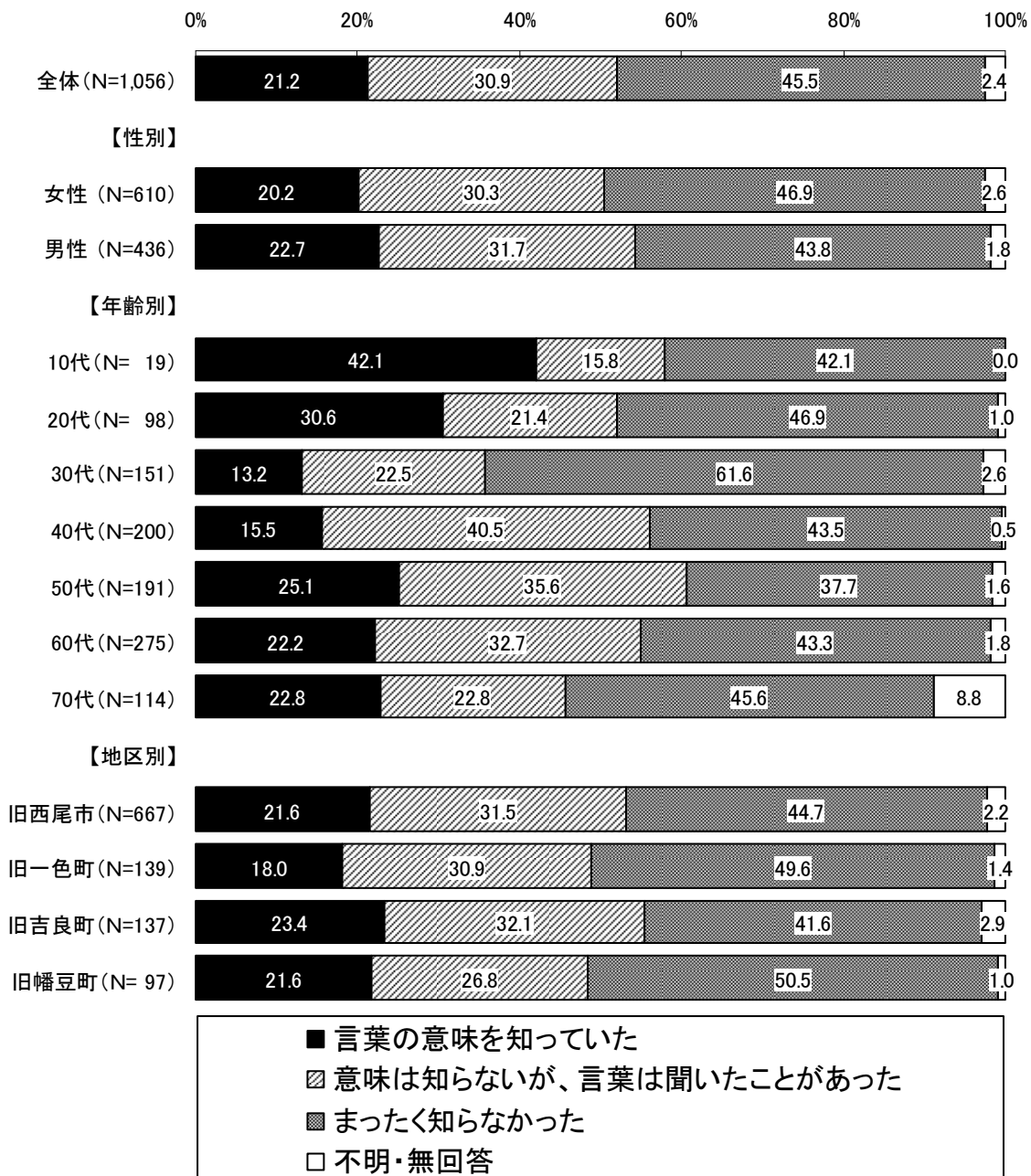
## 6 男女共同参画全般について

### (1)「男女共同参画」という言葉を知っていたか

#### ① 男女共同参画という言葉を知っていたか(単数回答)

問 24 あなたは男女共同参画という言葉を知っていましたか。(〇は1つだけ)

全体では「まったく知らなかった」が45.5%と最も高く、次いで「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が30.9%、「言葉の意味を知っていた」が21.2%となっています。



## (2) 男女共同参画の推進状況

※選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

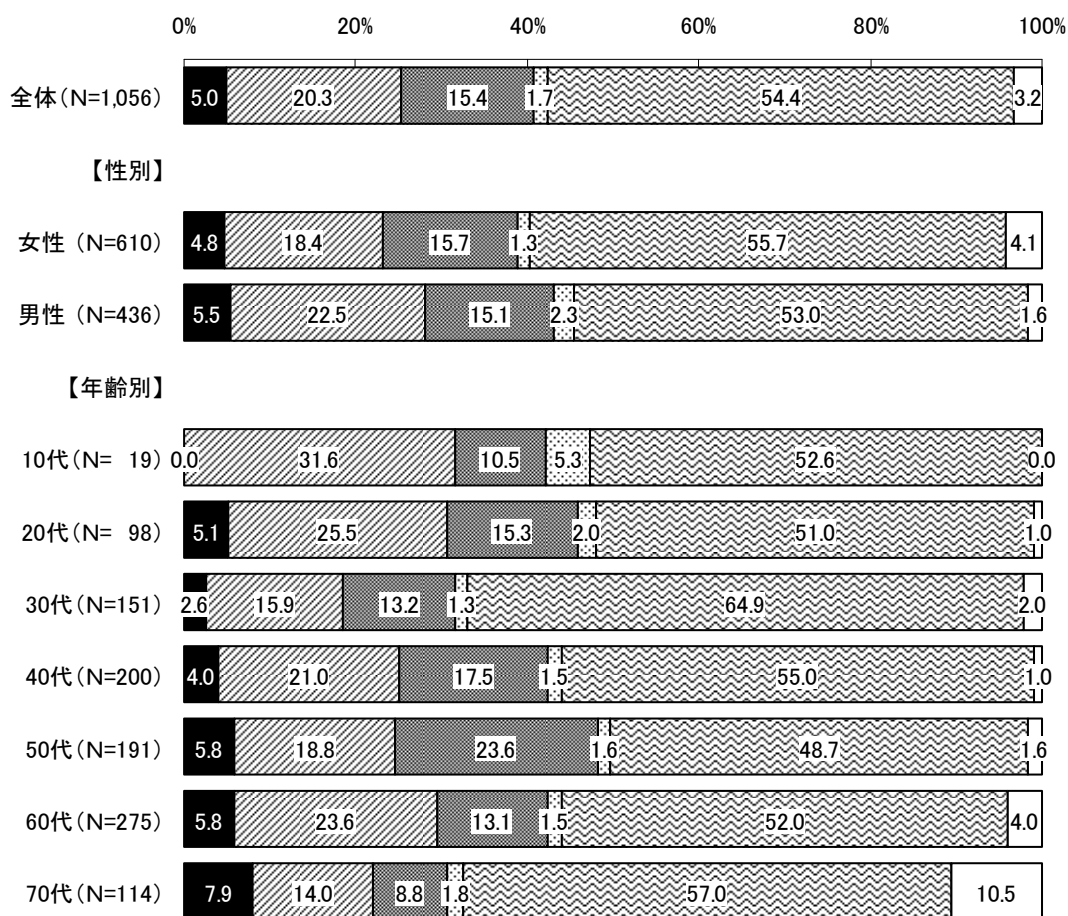
○『進んだ』 …「かなり進んだと思う」と「やや進んだと思う」を合わせたもの

○『進んでいない』…「あまり進んでいないと思う」と「まったく進んでいないと思う」を合わせたもの

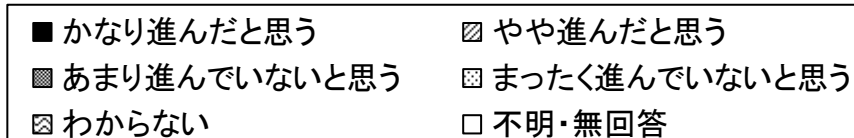
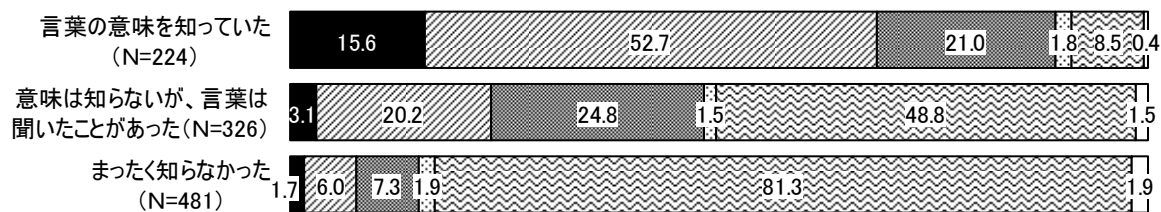
### ① この10年くらいの間に、男女共同参画は進んだと思うか(単数回答)

問25 あなたはこの10年くらいの間に、男女共同参画は進んだと思いますか。(○は1つだけ)

全体では「わからない」が最も高くなっており、『進んだ』が25.3%、『進んでいない』が17.1%となっています。



### 【男女共同参画の認知度別】

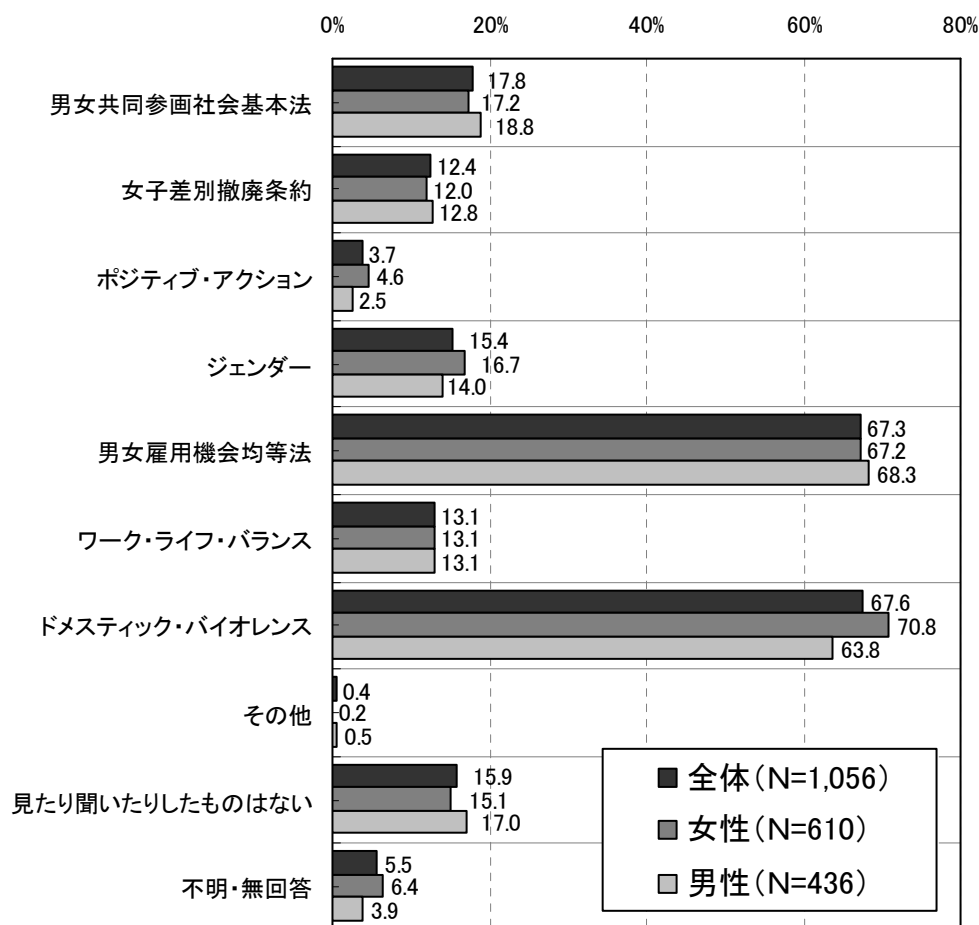


### (3) 男女共同参画社会に関する言葉で見たり聞いたりしたことがあるもの

#### ① 男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるもの(複数回答)

問 26 次にあげる男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。(〇はいくつでも)

全体では「ドメスティック・バイオレンス」が67.6%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」が67.3%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表(男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるもの)

単位: %

	男女共同参画社会基本法	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション	ジェンダー	男女雇用機会均等法	ワーク・ライフ・バランス	ドメスティック・バイオレンス	その他	見たり聞いたりしたものはなし	不明・無回答
【年齢別】										
10代 (N=19)	52.6	26.3	10.5	36.8	<b>57.9</b>	5.3	<b>68.4</b>	0.0	26.3	0.0
20代 (N=98)	37.8	22.4	9.2	41.8	<b>72.4</b>	25.5	<b>78.6</b>	2.0	13.3	1.0
30代 (N=151)	8.6	14.6	2.0	19.9	<b>74.8</b>	14.6	<b>82.8</b>	0.0	9.3	3.3
40代 (N=200)	16.0	10.0	3.0	22.0	<b>77.0</b>	14.5	<b>85.5</b>	0.0	9.0	1.5
50代 (N=191)	17.8	9.9	2.6	12.6	<b>73.3</b>	13.6	<b>75.9</b>	0.0	10.5	3.1
60代 (N=275)	16.7	11.6	4.0	5.1	<b>62.2</b>	9.8	<b>52.7</b>	0.4	22.2	7.6
70代 (N=114)	14.0	9.6	2.6	2.6	<b>43.9</b>	6.1	<b>33.3</b>	0.0	30.7	16.7

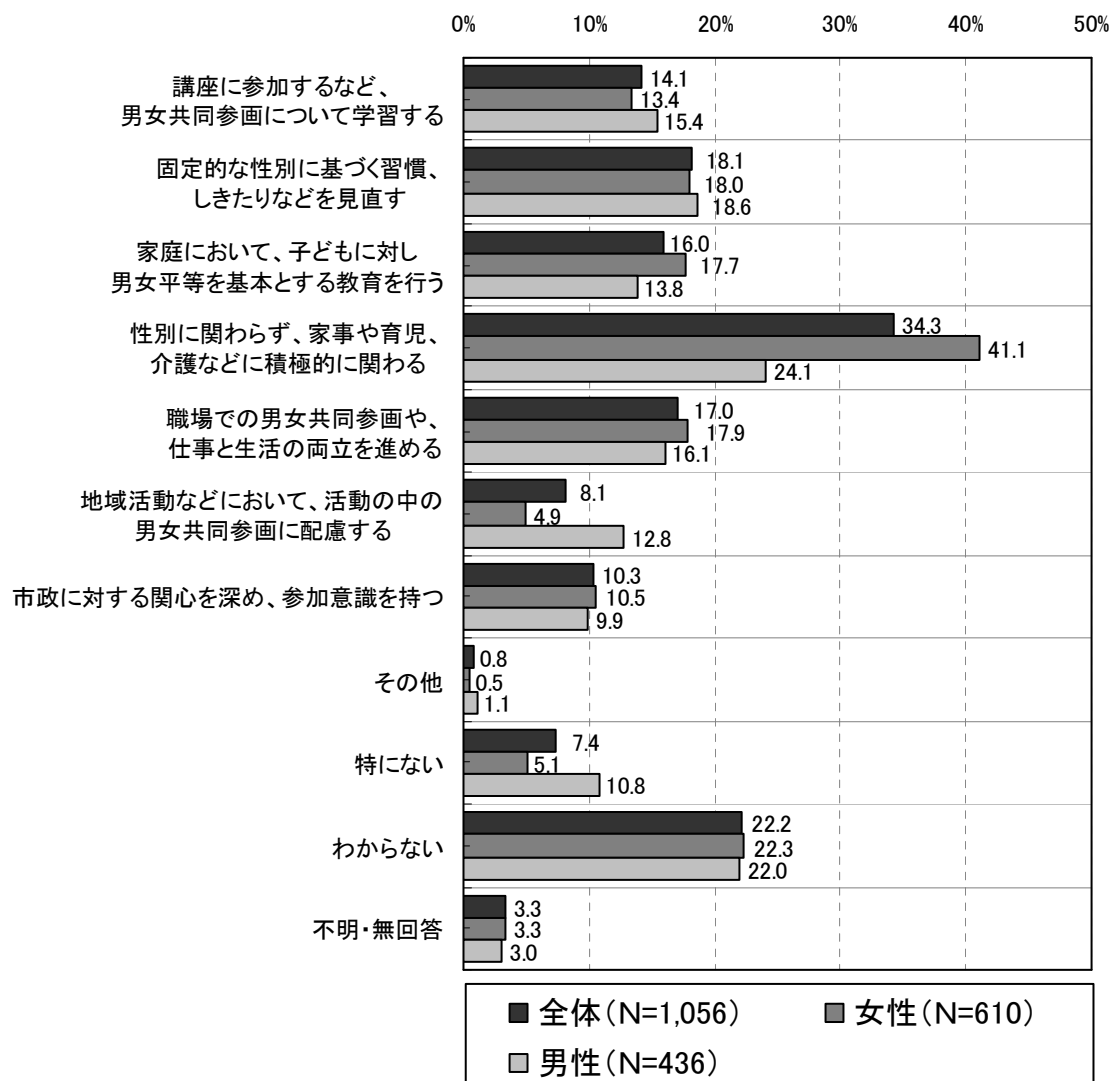
※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

#### (4) 男女共同参画社会実現のために必要な取組み

##### ① 男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思うか(複数回答)

問 27 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思いますか。(○は2つまで)

全体では「性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる」が34.3%と最も高くなっています。



■ 年齢別のクロス集計表(男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思うか)

単位:%

	講座に参加するなど、男女共同参画について学習する	固定的な性別に基づく習慣、しきたりなどを見直す	家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う	性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる	職場での男女共同参画や、仕事と生活の両立を進める	地域活動などにおいて、活動の中の男女共同参画に配慮する	市政に対する関心を深め、参加意識を持つ	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【年齢別】											
10代 (N=19)	15.8	10.5	15.8	<b>26.3</b>	15.8	0.0	5.3	5.3	15.8	<b>31.6</b>	0.0
20代 (N=98)	7.1	<b>24.5</b>	13.3	<b>40.8</b>	21.4	6.1	12.2	0.0	8.2	22.4	1.0
30代 (N=151)	8.6	17.2	19.9	<b>47.0</b>	18.5	2.6	6.6	1.3	6.0	<b>21.2</b>	2.0
40代 (N=200)	10.0	19.5	17.0	<b>37.0</b>	19.0	9.5	9.0	1.0	5.5	<b>21.0</b>	0.0
50代 (N=191)	15.2	18.3	18.8	<b>36.6</b>	<b>24.6</b>	8.4	10.5	1.0	3.1	20.9	2.1
60代 (N=275)	18.9	17.8	14.5	<b>28.0</b>	12.4	10.9	12.7	0.0	9.1	<b>23.6</b>	4.4
70代 (N=114)	<b>21.9</b>	14.0	11.4	<b>21.1</b>	7.9	8.8	11.4	0.9	11.4	<b>21.9</b>	11.4

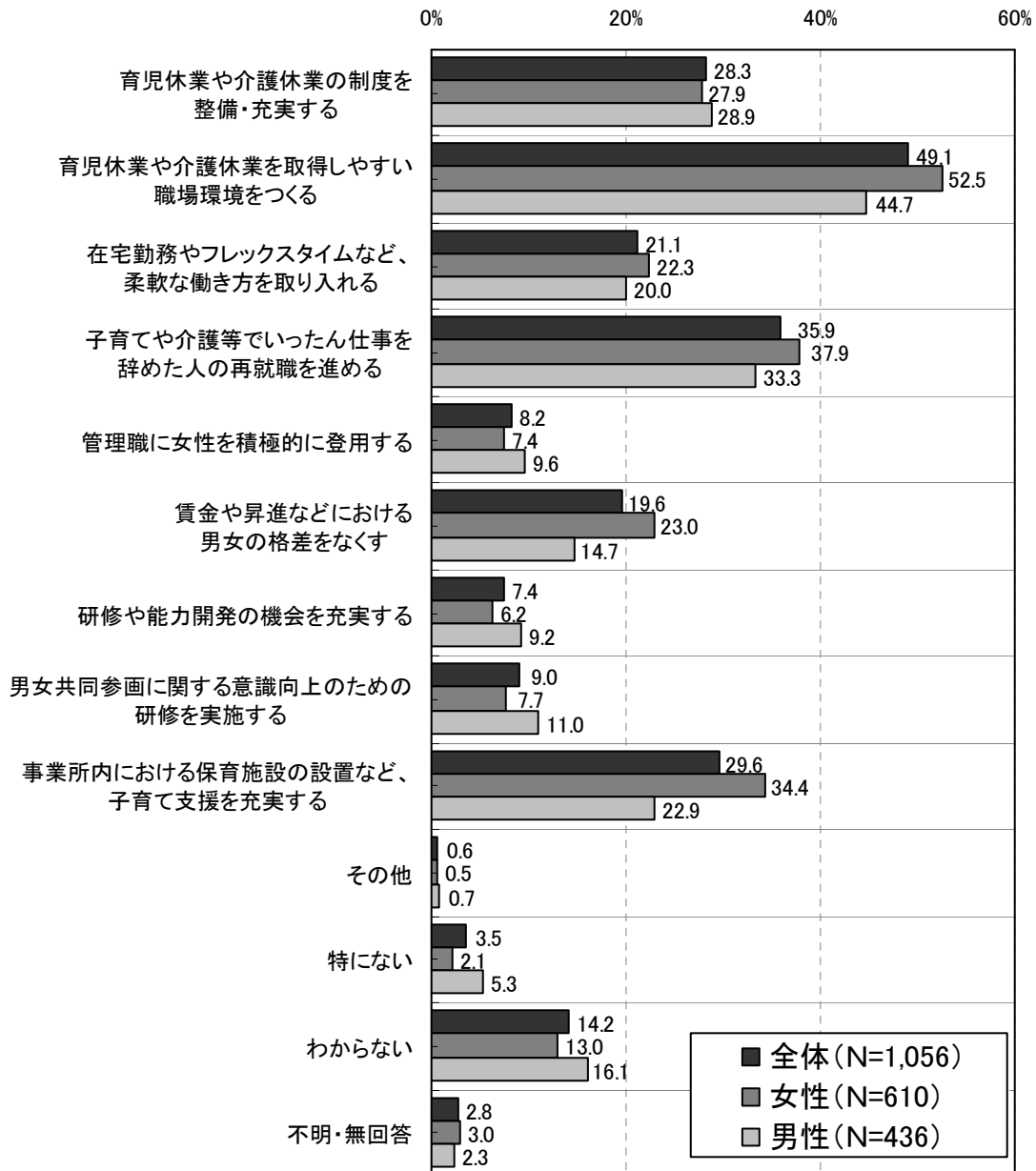
※不明・無回答を除き、回答の高いものの第1位と第2位に網掛けをしています。



② 男女共同参画社会を実現するために、企業は何をすべきだと思うか(複数回答)

問 28 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

全体では「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」が49.1%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」が35.9%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表(男女共同参画社会を実現するために、企業は何をすべきだと思うか)

単位：%

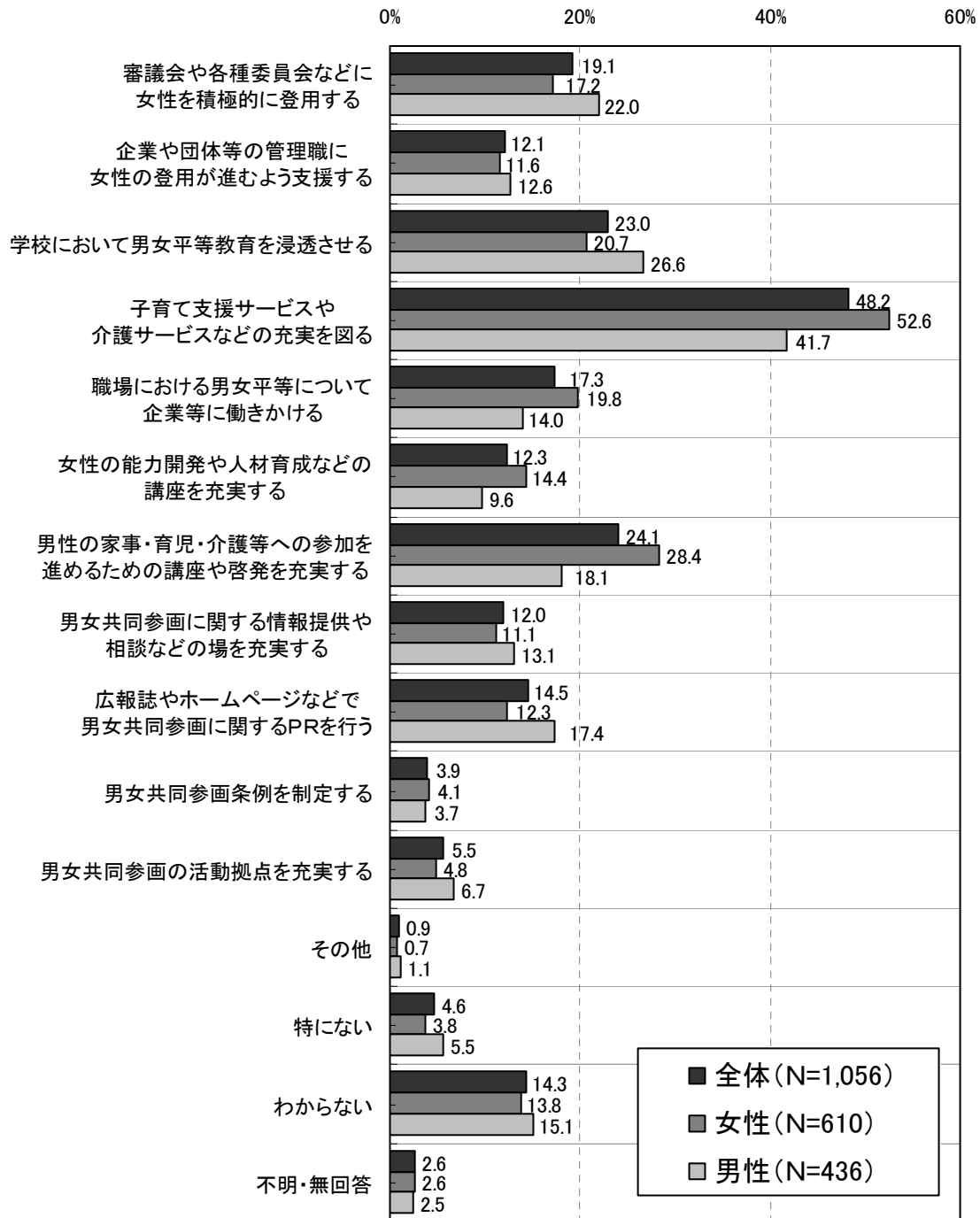
	育児休業や介護休業の制度を整備・充実する	育児休業や介護休業を取り入れる環境をつくる	在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める	管理職に女性を積極的に登用する	賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす	研修や能力開発の機会を充実する	男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する	事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【年齢別】													
10代 (N=19)	26.3	<b>47.4</b>	15.8	<b>42.1</b>	5.3	26.3	5.3	10.5	26.3	5.3	0.0	26.3	0.0
20代 (N=98)	<b>33.7</b>	<b>55.1</b>	<b>33.7</b>	28.6	13.3	21.4	6.1	5.1	29.6	0.0	1.0	16.3	1.0
30代 (N=151)	33.8	<b>55.6</b>	26.5	<b>35.1</b>	11.9	21.9	7.3	3.3	34.4	0.7	2.6	9.9	2.0
40代 (N=200)	25.5	<b>52.5</b>	27.5	34.0	7.5	18.0	7.5	9.5	<b>35.0</b>	1.0	3.5	12.5	0.0
50代 (N=191)	28.3	<b>52.9</b>	20.4	<b>36.1</b>	3.7	23.0	6.8	9.4	29.3	1.0	1.6	15.2	2.1
60代 (N=275)	28.0	<b>43.3</b>	15.6	<b>43.6</b>	8.0	18.2	8.4	12.4	26.9	0.0	4.4	13.5	3.3
70代 (N=114)	24.6	<b>38.6</b>	7.9	<b>28.1</b>	9.6	14.9	7.9	10.5	21.9	0.0	7.9	18.4	9.6

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

③ 男女共同参画社会を実現するために、西尾市は何をすべきだと思うか(複数回答)

問 29 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、西尾市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

全体では「子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る」が48.2%と最も高く、次いで「男性の家事・育児・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実する」が24.1%となっています。



■ 年齢別のクロス集計表(男女共同参画社会を実現するために、西尾市は何をすべきだと思うか)

単位：%

	審議会や各種委員会などに女性を積極的に登用する	企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	学校において男女平等教育を浸透させる	子育て支援サービスや介護サービスなどの充実を図る	職場における男女平等について企業等に働きかける	女性の能力開発や人材育成などの講座を充実する	男性の家事・育児・介護等への参加を進めるための講座や啓発を充実する	男女共同参画に関する情報提供や相談などの場を充実する	男女共同参画に関するPRを行う	広報誌やホームページなどで男女共同参画に関するPRを行う	男女共同参画条例を制定する	男女共同参画の活動拠点を充実する	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【年齢別】																
10代(N=19)	15.8	5.3	<b>31.6</b>	<b>42.1</b>	21.1	5.3	26.3	0.0	5.3	5.3	5.3	0.0	10.5	<b>31.6</b>	0.0	
20代(N=98)	16.3	13.3	23.5	<b>49.0</b>	<b>30.6</b>	15.3	25.5	6.1	8.2	7.1	3.1	1.0	5.1	16.3	0.0	
30代(N=151)	17.9	13.2	21.9	<b>49.7</b>	17.9	14.6	<b>33.1</b>	7.3	13.2	5.3	1.3	1.3	3.3	13.9	2.0	
40代(N=200)	16.0	11.5	22.5	<b>49.0</b>	22.0	11.5	<b>26.5</b>	13.0	16.5	5.0	3.0	0.5	4.5	12.0	0.5	
50代(N=191)	22.5	11.0	<b>27.2</b>	<b>52.9</b>	12.0	13.1	24.6	14.7	9.4	3.7	7.9	1.0	3.1	13.6	0.5	
60代(N=275)	21.8	13.5	<b>22.2</b>	<b>48.0</b>	15.3	9.8	20.0	15.3	19.6	1.5	6.9	1.1	4.7	13.8	3.6	
70代(N=114)	18.4	11.4	<b>20.2</b>	<b>36.0</b>	10.5	14.9	14.9	12.3	15.8	3.5	9.6	0.0	7.9	16.7	9.6	

※不明・無回答を除き、回答の高いもの第1位と第2位に網掛けをしています。

## IV その他・自由回答

選択肢の「その他」に記述があったもの、自由回答欄に記述があったものについて、男女共同参画に関連のある意見を抜粋して掲載しています。

# 1 その他回答

## (1) 女性の参画について

問 10 女性が增える方がよいと思う職業や役職は何ですか。			
性	年齢	内容	件数
女性	40代	全ての職業	1
女性	60代		1
男性	70代		1
女性	10代	ドライバー（電車やタクシー等）	1
男性	60代		1
女性	60代	看護師	1
男性	60代		1
男性	20代	飲食店員	1
女性	40代	専業主婦、子育て	1
男性	60代	保育士	1
男性	60代	起業家	1
男性	70代	建設の仕事	1

## (2) 女性の働き方について

問 11 あなたは女性が職業を持つことについて、どう思いますか。				
性	年齢	内容	件数	
(どちらでもよい・どちらとも言えない)				
女性	10代	個々の事情による、どちらでもよい、本人の希望でよい。	1	
男性	10代		1	
女性	20代		2	
男性	20代		1	
女性	30代		6	
男性	30代		5	
女性	40代		2	
男性	40代		2	
女性	50代		1	
女性	60代		2	
男性	60代		1	
女性	20代		働く意欲がある人が働けていられればよい。	1
女性	30代		質問自体がよくわからない（必要なら働く、お金がほしいなら働く）。	1
女性	30代		結婚したら仕事を辞め、子どもが成長してから再び職業を持つほうがよい。	1
女性	30代	期間を問わず意欲があれば、いつでも職業を持つほうがよい。	1	
女性	30代	やる気がある人は働けばよい。やる気がある人にはある程度の優遇があつてよい。	1	
男性	30代	人それぞれの状況により基本職業を持つことに賛成である。子育てに影響があつてもよい。	1	

性	年齢	内容	件数
女性	40代	子どもが、母親が働いていることによって寂しく思ったり、嫌な思いをしたりするなら続けないほうがよい。	1
女性	40代	女性も職業を持った方がよいが、いつまでかは各個人、各家庭の問題。	1
女性	40代	できる範囲で仕事を続けられればよい。	1
女性	40代	職業を持てる環境が整っていれば持ったほうがよい（例えば子どものいる場合、預かってもらえる施設や子どもをみる祖母がいる等）。	1
男性	40代	職業を持ちたくない人以外は持てばよい。	1
男性	40代	家庭環境や経済状況がそれぞれ異なるため、この選択肢の中から1つを選ぶことは難しく、断定的な考えに偏向するような気がする。	1
女性	50代	結婚後は経済的な問題で決める。それまでは職業を持つ。	1
女性	50代	結婚、育児、介護等に直面したときに考える。	1
女性	50代	子どもの世話をしている人は仕事を続けるが、そうでなければ仕事をやめ大きくなってから再び職業を持つ。	1
女性	50代	結婚し子どもが生まれて職を持つことは、夫の理解が不可欠である。	1
女性	50代	本人の希望を尊重する。そのための環境を整備する。	1
男性	50代	本人が働きたいときに働ける社会環境がよい。	1
女性	60代	義務教育修了までは、母親が家庭にいるのが望ましい。	1
男性	60代	長期産休制度が必要である。	1
男性	60代	職業に応じて、選択肢「3 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」か「4 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」。	1

### (3) 仕事と家庭生活を両立するための制度の利用状況

<育児休業等を「取りたかったが、取ったことはない」と答えた方におたずねします>

問 13-1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。

性	年齢	内容	件数
(制度の認知によるもの)			
男性	30代	制度の内容をよく知らなかった。	1
(職場の環境によるもの)			
女性	30代	正社員でない（アルバイトなど）ため、制度が使えなかった。	1
女性	40代		2
女性	30代	人が一度に何人かやめる時期だった。	1
男性	40代	上司及び当時の総務担当者に理解がなかった。	1
女性	50代	同じ職場の人は自分の仕事で精一杯である。よい制度ではあるが、使う人がいない。	1
(家庭の環境によるもの)			
女性	50代	自営業のため休めない。	1
女性	60代		1
女性	60代	自営業なので家族みんなで協力しあって育児をこなした。	1
男性	不明	自分は建築大工で、妻は専業主婦である。	1
(その他)			
女性	30代	仕事を辞めたから。	1

性	年齢	内容	件数
男性	40代	休めるのは公務員か大手企業ぐらいでは？小零細会社は休まれたらつぶれてしまう。	1

#### (4) 職場における男女不平等の状況

<現在働いている方におたずねします>

問 14 あなたの職場では、性別によって不平等な取り扱いがありますか。

性	年齢	内容	件数
女性	30代	男性がいない。	1
女性	40代		1
女性	50代		2
男性	20代	危険な作業は男性。	1
男性	30代	自営業のためわからない。	1
男性	30代	男性だからといって、サービス残業が許容される雰囲気があり、女性は、ほぼありえない。	1
女性	40代	女性事務員や職員は、パートと同様の仕事をしていても、賃金が高い人もいる。	1
女性	40代	自営業のため、女性は雑用が多い。	1
男性	40代	ほぼ単一性の職場のため、わからない。	1
女性	50代	男性には残業をしても残業と扱わない風潮があり、同じことを求められても困る女性は多いと思う。	1
男性	70代	アルバイトのため、会社の内容までわからない。	1
男性	70代	農・漁業のため、あまり関係ない。	1

#### (5) 配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口を知っているか

<配偶者や恋人からの暴力について相談できる窓口を「知っている」と答えた方におたずねします>

問 22-1 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。

性	年齢	内容	件数
男性	30代	新聞、ラジオ、テレビなどの報道機関	1
男性	40代	会社内、労働組合	1
男性	50代	心のクリニック	1

#### (6) 配偶者や恋人からの暴力を受けた際の相談の状況

<暴力の経験が「何度もあった」「1～2度あった」に1つでも○をつけた方におたずねします>

問 23-1 そのような行為を受けた後、誰か（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。

性	年齢	内容	件数
女性	10代	中学の時、担任の先生、部活の先生	1
男性	40代	会社の同僚	1



<配偶者や恋人から暴力を受けた際に「9 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします>

問 23-2 誰にも相談しなかった理由は何ですか。

性	年齢	内容	件数
男性	10代	社会的暴力にあてはまるのか？度合いのランク付けがあれば理解できるかもしれない。	1
男性	30代	その日限りの喧嘩だった。	1
男性	40代	離別を視野に入れていたため、どうでもよかった。	1

## (7)男女共同参画社会実現のために必要な取組み

問 27 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思いますか。

性	年齢	内容	件数
女性	30代	学校教育で小さいうちから教える。	1
男性	30代	各個人の精神性の向上が大事。	1
男性	40代	家庭内の役割については各家庭できめればよい。現状の男性中心社会に女性を投入すると、女性の男性化となってしまうので社会制度全体でバランスをとる。	1
男性	50代	非常に偏った考えの人間の意見を排除すること。	1
男性	50代	地域活動において女性の参加が多くなればよい。	1
男性	60代	町内会のしきたりの良し悪しを見直すこと。	1

問 28 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

性	年齢	内容	件数
女性	30代	選択肢の項目全てを実現させてほしい。	1
女性	40代	病児保育の充実。	1
男性	50代	企業は関係ない。	1

問 29 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、西尾市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

性	年齢	内容	件数
女性	20代	市民に市政に対する興味を持たせる努力をする。興味を簡単に持てるならこんなアンケートはなくてもうまくまわっていく。	1
女性	30代	言葉は知っていても、内容を知らずに受けない人がいると思うため、子育て支援や介護サービスを受けやすいよう、サービスそのものや相談窓口のPRをする。	1
男性	30代	男女の置かれる立場、環境が異なるため、心のケアを担う相談所を充実させてほしい。	1
女性	40代	時代がどのように変化しても、お互いを思いやり、あたたかく暮らす。	1
女性	50代	性別による仕事能力の差を考慮すべきと考える。	1

性	年齢	内容	件数
男性	50代	まともな考えの人の意見に従い行政を行うべきである。	1
男性	50代	無理に何かをする必要はありません、差別があるなら正すべき。	1
男性	60代	道徳教育の充実。	1

## 2 自由回答

### ①仕事・職場環境について

性	年齢	内容	件数
女性	20代	女性が管理職に就くのはいかがなものかと思う。補佐的な立場でよい。	1
女性	20代	介護の業界では低賃金で男性の転職が多いが、男性にこそ介護職を続けてほしいため、介護職員の給与を見直すべきである。	1
女性	30代	子どもの病気で休むことを嫌がる企業がある。市が改善しても企業主の考えが変わらないと無理である。病児保育の充実もほしい。働いているのに保育園幼稚園の平日のPTA行事があり子育て支援になっていない。先生方の考えを変えていただきたい。	1
女性	30代	「男女平等」は本当に難しい問題。市だけではなく企業が動かないと進歩はできない。結局女性は家庭に入り、男性は仕事をするという形は変わらない。仕事をしたいと言う女性に対して壁のない社会にしてあげたい。	1
男性	30代	女性だからといって、賃金や等級制を低くするのはダメだと思う。	1
男性	30代	自分が働いている会社には、数年前まで「結婚しないと、ある一定以上の役職になれない」という内部規定があり、また、男尊女卑の傾向が強く、男性だからといって同じ賃金なのに仕事量が多くサービス残業も厭わない風潮がある。行政として、市内の会社に男女平等の働きかけを強めてほしいと願っている。	1
女性	40代	女性の登用はよいと思いますが、考え方に偏りがある人もいます。	1
女性	40代	女性が伸び伸びと働けるよう環境を整備することは、大変よいことと思う。子どもの養育や家庭や心身に負担がかかりすぎてもなお、社会的立場の向上を望むことが理解できない。仕事を持ち、趣味も充実させる女性が一番と思う。	1
女性	40代	会社が小さくなるほど、育児や介護の理由では休みが取りにくく、もっと企業に知ってもらいたい。	1
女性	40代	企業は、育休や介護休業などの制度はあるものの、実際に使うには上司の認識によってだいぶ開きがあるように思われ、もっと企業の実態を調査すべきだと思う。	1
男性	40代	女性を積極的に登用することが、即平等とは思えない。能力があれば男女差なく、登用すればよいと考える。男女向き不向きがあり、助け合うことがよいと思う。	1
男性	40代	企業内では仕事にやる気がある女性は管理職になることは可能。それは男性、女性に関わらず意識の差だが、男性との差がまったくないということではない。何をもちて男女平等と言えるのか良く分からない。	1
女性	50代	社会に女性が働き続けるための配慮が足りない。大人社会にもいじめがある。	1

性	年齢	内容	件数
男性	50代	女性が男性と平等に働けることが一番。女性を「家事、子育て、介護等」から解放し、女性本来の能力を伸ばせるような環境を、国、地方がつくること。女性の能力を生かさないのは社会の損失である。	1
男性	50代	休暇、有給休暇が取れないと無理。役所側から企業側に、休暇、有給休暇を消化するよう依頼してほしい。	1
男性	50代	男女共同参画、社会を実現する主旨、考えはよいと思うが、公務員、非営利団体なら可能だが、利益追求する一般企業では出張、転勤、24時間拘束され、結果優先で、現実的でない。	1
女性	60代	女性の職業が広がってよいことだとは思いますが、結婚が遅くなったり、結婚しない人がいたりして心配である。	1
男性	60代	女性登用は必要だが、自ら努力されることを期待する。	1

## ②子育てについて

性	年齢	内容	件数
女性	30代	女性は子どもを産み育てるという能力を発揮できるように医療面でのサポートが必要である。母になることは立派な仕事である。不妊治療に市は協力的になってはどうか。	1
女性	30代	幼稚園でも延長保育があれば、女性も働けるようになると思う。	1
男性	40代	男女平等はあり得ないと思う。男性女性の特性を理解し、生かすことが肝要と思う。賃金をもらうことだけが仕事ではなく、育児も立派な人材教育、育成の大仕事であることを認めていただきたい。	1
女性	50代	子どもがいる働く女性は本当に大変である。電話したらすぐに子どもを預かりに来てくれる人がいたらよい。	1
女性	50代	女性が社会的に活動するにあたり、障がいとなるのは社会通念もあるが、一番は子育てだと思う。	1
女性	50代	男性の意識が少しずつ現代風に歩み寄れたらよい。若い人は2人で共有するという時代が根付いている部分があるが、社会的に制度とか利用できる環境づくりが定着するとよい。あたたかく見守ることができると出生率も上がる。2人目を宿している妊婦に、保育園に入ることが難しいという不安を与えないでほしい。出産、子育て中に夫の理解があるかないかにより夫婦の幸福が関係する。	1
女性	50代	女性が安心して働けるよう、休日も預けられる子どもの保育の充実をしてほしい。	1
男性	50代	特に幼児等の育児は女性が行っていかなければ大切に育てられなかった。子どもが育ち育児放棄につながる。大切なのは教育と社会における働く場の理解である。	1

## ③地域活動について

性	年齢	内容	件数
女性	50代	退職後の男性が地域や個人的なことで活動できる場所や活動内容を多くしてほしい。	1
女性	60代	町内会、老人会は男性の役員が多く、半分ボケがきている人達では何もできない。女性もボランティアもしていたが駄目になり、女性の会も駄目になった。一色町はすごく遅れている。	1

#### ④男女共同参画の啓発や情報について

性	年齢	内容	件数
男性	10代	男性個人の意識が大切で、まずは家庭から、そして市政、企業に浸透させることが望ましい。	1
女性	20代	男女共同参画はどのような制度なのか知る機会がない。広報で知る機会を増やしたほうがよい。西尾市の女性が活躍できることを期待している。	1
男性	20代	義務教育期間にしっかりとたたきこんでおくことが重要である。	1
男性	20代	もっと国や企業などが男女共同参画についてPRすべきである。	1
女性	30代	そもそも意識がまだまだ低く、急に進めるのは難しいと思うため、教育現場だけでなく、家庭や職場レベルで意識が変わるような働きかけを希望している。	1
男性	30代	男女でトイレを同じにすることが好ましくないように、男女共同参画の範囲、定義を一般に広めることが望まれるべきである。	1
男性	30代	高齢者の方（特に男性）の男尊女卑の考えが強いように思うため、男女平等の意味を強く浸透させるべきであると考え。強制参加でも高齢者向けセミナー等の開催を同居世帯者優先で行ってほしい。	1
女性	40代	学校において、男女平等教育の授業や企業見学をし、見識を高め、社会、家庭、地域、職場に積極的に女性が活躍できるようにすれば、西尾市全体も活力ある市になると思う。	1
女性	40代	キャッチなどシミュレーションをすれば広く知られることになる。30代までの男性は家事、育児に積極的に関わることに抵抗はないようだが、40代以上の男性には男女の差別意識がある。若い人達にPRが大事。	1
女性	50代	情報が少ない。	1
女性	50代	学校において男女平等教育を浸透させるという言葉がでてきていたが、「実際の社会に出ると学生時代の男女平等とは違う」ということを学校でもっと教えてほしい。子どもたちにこそ男女共同参画社会を実現するためにはどうしたらいいのか、もっと考えさせる機会を与えてほしい。	1
男性	50代	男女共同参画の必要性、歴史（推移）、今後の展望についてPR活動を希望する。	1
女性	60代	知らない人が多いと思うため、もう少し市民にわかるように説明してほしい。	1
男性	60代	よいことなので積極的に進めてほしい。	1
男性	60代	男女差はあってもよい。「男女共同参画」は市単位ではなく、日本が子どもの教育をどう考え教育するかだと思う。	1

#### ⑤「男女共同参画」に関する思いや考えについて

性	年齢	内容	件数
女性	20代	男女平等でなければと心はわかっているが、「私は女だから…」「男のくせに…」などの気持ちが出ることもあり、だが、男女の壁や差別がなくなるといいと思うし、お互いがいつも思いやり過ごせたらよい。	1
女性	20代	男性がもっと育児、介護、家事に意識を向けてもらえるような取り組みが必要。今の若い人達は「男だから女だから」と言う意識が薄くなってきているのもっと世の中に若い人の力を取り入れていくべきである。	1
男性	20代	社会が男女平等であれば特別な組織や活動は必要なく、目標の達成と同時に解散・廃止する組織活動によって男女共同参画を進めるべきである。	1
男性	20代	男女差別はあるべきではないが、区別は必然であり、男女を混同する活動は控え、何でもかんでも平等を目指す必要はない。	1

性	年齢	内容	件数
女性	30代	昔からの慣習から、地域、職場、家庭で男女による区別（差別）をずっと感じている。	1
男性	30代	都合のよい時だけ男だから、女だからと言う者がいる限り、差別はなくても区別はなくなる。	1
男性	30代	男女は区別すべきである。	1
男性	30代	人権は平等であるが男女は役割が違う。男女共同参画よりも男女共生参画であったほうがよい。	1
女性	40代	地方ならでは、また、昔ながらの難しさもある。女性が社会と繋がり、進出しやすくなるように、男性も育児、介護等に参加しやすいような社会に少しずつなってほしい。	1
女性	40代	男性らしさ、女性らしさは大切であり、平等になることはないと思うが、子育てや介護は女性がすべきであるという考えに偏らず、協力していける家族や社会になるとよい。	1
女性	40代	男女が必ずしも平等である必要はなく、男性の方が社会的経験が豊かなため、男性中心が良いと思う。	1
女性	40代	お互いに思いやりを持って「できることはやってあげよう」という気持ちになってほしい。	1
女性	40代	それぞれの能力を正當に受け入れ評価すればよく、学校教育や企業の考え、社会の考えが変化しなければ、市が力を入れても何もならない。	1
男性	40代	何でも平等にすれば問題が解決するかのような妄想に捕われている。重要なポストを与えても逃げ出す女性が多い。非婚、少子化は当然である。権利ばかり主張し義務を果たさないクズが増えている。	1
男性	40代	男女共同参画は無駄である。	1
男性	40代	現状の社会制度での「男女共同参画」には反対である。男女それぞれによいところ悪いところがあり、それを互いに補うことのできる社会があって初めて実現できる。また、行政は、制度をつくるだけで、各自が自由に選択できる必要がある。	1
男性	40代	チャンスが平等で、分配も平等なのは難しいと思う。	1
男性	40代	男女共同参画という言葉が知らなかったが、これから勉強しようと思う。	1
女性	50代	女性の意見を丁寧に取り上げてほしい。	1
女性	50代	男性も女性も根拠のない、性別の既得権に固執せず、柔軟にかつ責任を持った対応のできるお手本となるような方々が活躍されるようになると社会が変わっていく。	1
女性	50代	姑の面倒を誰が見るのかということになった時、嫁が見るのは当然だと言われ、男女はまだまだ平等ではないと感じた。	1
男性	50代	男女共同参画にすることが本当に必要なのか、男女平等には全てのことにおいては無理である。	1
男性	50代	表面的なことではなくそれぞれの特性が発揮できる社会のことである。	1
男性	50代	男が仕事をし、女が家庭を守ることも男女共同参画である。その上で女性もイデオロギーに影響されずに積極的に発言すべきである。	1
女性	60代	女性も能力で登用されるべきである。子どもを持ったとき不利になるので制度を確立し利用しやすいものにしていく。次世代を担う子どもたちにこそそういった教育をしていくべきである。	1
女性	60代	今は時代が変わり、女性が受けてきた、不平等、偏見、差別は幾分減ってきたと思う。	1
女性	60代	男女ではなく、人として互いを大切に思いやる心の教育が必要で、男性と女性は構造が異なるように、職場や家庭において、それぞれの役割があり、それを何でも平等という考えは反対である。	1

性	年齢	内容	件数
女性	60代	男女それぞれに役割があり、その役割を完遂することがまずは重要である。	1
女性	60代	男性、女性それぞれの特性に合わせた役割が十分果たすことができるよう家庭、学校、社会で共同参画を進めていくことが必要である。女性自身も甘えを捨てなければ共同参画が進まない。	1
女性	60代	男女共同参画は反対ではないが、生まれながらに与えられた男女の能力というものが違うため、それぞれ不足するところを補いながら、女性の意見を男性が聞きリードしていく形で進んでいけばよいと思う。	1
男性	60代	女性が地域社会や職場で、もっと能力を発揮することが必要だが、女性自身の意識啓発も必要。	1
男性	60代	受け入れ側の意識は改善されつつあるが、女性が参画できる環境を整えることが大切と思う。	1
男性	60代	女性も「女上位」社会ではないことを承知してほしい。	1
男性	60代	女性の社会進出を拒む要因には、世間のしきたり、男性尊重がある。	1
女性	70代	男女共同参画の言葉を始めて知った。相談窓口、介護など自身のことを考える機会となった。感謝する。	1
女性	70代	若い人達は、かなり進んだと思う。	1
男性	70代	女性らしさの育成は家庭生活や学校生活の中で育てていくことを忘れないでほしい。	1
男性	70代	活動拠点の設置を望む。それぞれ身体的特徴や役割があり性別を無視した男女平等はナンセンス。	1
男性	70代	女性の能力を活用すべきで、女性も歳（50歳）をとれば、男性と同じ考えで男性と同じように参画し働いてほしい。	1
男性	70代	女性は弱いものとの考えは間違い。男女平等のところから目を向けよう。	1
男性	70代	男女平等の社会は上から言うべきではない。日本国憲法の勉強を学校教育に取り入れたら差別はなくなる。強い方に弱い者が負けることは歴史が物語っている。弱い者は損をするのが自然の掟。	1
不明	70代	細かいところまで気がつく女性の意見は大切と思うが、男性の上に出るのはどうかと思う。	1
男性	不明	男女はそれぞれの能力があり、それにあった適職に就くべきである。	1

## ⑥アンケートについて

性	年齢	内容	件数
女性	20代	このようなアンケートを取ったところで何もしなければやる意味がなく、アンケートを取ったからよしとするに違いないと思う。	1
女性	30代	アンケート費用は市民の税金だから、そのことをしっかり念頭において、アンケートの有効活用をしてほしい。	1
男性	30代	このアンケートが送られて来るまで「男女共同参画」について考える機会や情報がなかった。いろんな人に理解を深めてもらう施策が必要。	1
男性	30代	質問内容に女性を家庭に入れておこうという内容が見え隠れしているアンケートは問題を見つけようとするのではなく、お決まりの仕事をこなしているだけと感じた。	1
男性	30代	質問の内容が理解できない。	1
男性	50代	市民のDVについて調べているのではないか。	1
女性	60代	60代の自分にアンケートが来たが、既に済んでしまっていることが多すぎてよくわからなかったため、もう少し若い人達に絞ったほうがよかったのではないかと思う。	1

性	年齢	内容	件数
男性	60代	何が知りたいのか理解できず、これでは西尾市はダメであると思うし、印刷代がもったいないし、無駄なお金は使わないでほしい。	1

## ⑦行政について

性	年齢	内容	件数
女性	30代	夫の扶養から外れて働くと、負担が大きくなる国民年金などの仕組みはどうかと思う。	1
男性	30代	西尾市にできることはなし。他地域から新しい価値を呼びつুক্তってもら。西尾の市民に平和な政治が受け入れられることはない。	1
男性	40代	企業も公共団体も、男女の人員からして数字的に違い、平等とは表面的な部分で、内容的には昔から変わっておらず、都市部では男女共同参画の意識が高いかもしれないが、西尾市ではまだとても意識が低く、市長や議員を見ても、その意識の低さにびっくりする。	1
女性	50代	行政の縦割りのように、男女共同参画に関してもいろんな活動団体があるのに、縦割りに近い状態で情報交換もままならず、各々の団体が活発に活動していても認め合えない状況が伺えるため、今後は新たな場所をつくるのではなく、公共施設のスリム化を図り耐震基準を満たした使用可能な施設を利用し、活動拠点を1か所に定め、そこへ行けば各々の活動状況がわかり、情報交換も可能になるような拠点づくりが必須である。	1
男性	60代	女性の地位向上を支援する主旨を感じた。定年を迎え再雇用にて現職場で仕事をしている。評価も下がり経済面で苦しくなった。高齢者への支援にも力を入れてほしい。	1
男性	60代	まず役所から範を示すこと。	1
女性	70代	優秀な女性市長が西尾市から誕生すればよい。女性のほうがはっきり物を言う。	1

## ⑧その他

性	年齢	内容	件数
女性	30代	①女性の家事育児の現状をどう回避するか。 ②小学校時代に料理などを教育すべきである。 ③仕事ができる環境を整えてほしい。学童保育の充実など。 ④女性に優しい制度の導入をのぞむ。	1
女性	30代	①学校行事は父親が出やすい行事にしてほしい。 ②小学校行事が多く仕事が休みにくい。	1
男性	30代	今流行りの婚活パーティーなどで男女に金額の差があるのはおかしい。	1
女性	40代	男女共同参画という言葉は初めて聞いた。その内容を説明してほしい。	1
男性	40代	男女平等の意味が理解できない。	1
男性	40代	平等意識は必要なのか、よくわからない。	1
女性	60代	現在の若い男性（20代から30代）は家事、育児によく協力するが、50代以上の男性はあまり協力しない。	1
女性	60代	もうすぐ70歳になるが、男女共同参画社会と言われてもよく分からない。	1
男性	70代	男女共同参画がどういうことなのか分からない。	1





# V 調査票

# 西尾市 男女共同参画に関する市民意識調査

## ご協力をお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在、本市では、合併により誕生した新・西尾市のさらなる男女共同参画の推進を図るため、「第2次西尾市男女共同参画プラン」の策定を進めています。

今回の調査は、市民の皆さまの男女共同参画に関する考えや実態などをお聞かせいただき、プランに反映させることを目的として実施するものです。

回答は、すべて無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、回答された方にご迷惑をおかけするようなことはありません。また、この調査資料の利用にあたっては、西尾市個人情報保護条例に基づき、適正に行います。

お忙しいところお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成24年10月

西尾市長 榊原 康正

## 記入にあたってのお願い

1. 回答は、封筒のあて名のご本人のお考えでご記入ください。何らかのご事情によりご本人が記入できない場合には、家族の方などが代筆してください。
2. 平成24年10月1日現在の内容でご記入ください。
3. 記入は黒のボールペンまたは濃い鉛筆をお願いいたします。
4. 回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。また、記述を必要とする箇所は、ご記入ください。
5. 記入後は、同封の返信用封筒に入れ**10月15日(月)まで**に、ご返送ください。(切手は不要です)

### <お問い合わせ>

西尾市 地域振興部 市民協働課  
電 話 : 0563 (65) 2178 (ダイヤルイン)  
FAX : 0563 (57) 1317  
電子メール : kyoudou@city.nishio.lg.jp

### 男女共同参画社会とは・・・

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」(男女共同参画社会基本法 第二条) のことです。

# 1 あなた(回答者)ご自身のことについておたずねします。

問1 性別 (○は1つだけ)	1 女性	2 男性	
問2 年齢 (○は1つだけ)	1 10代 2 20代 3 30代	4 40代 5 50代 6 60代	7 70代
問3 職業 (○は1つだけ)	1 会社員・公務員 (会社役員等を含む) 2 派遣、契約社員 3 パート・アルバイト 4 自営業・農漁業 (家族従業者を含む) 5 自由業 (医師・弁護士・会計士・作家・芸術家など) 6 家事専業 (主婦・主夫など) 7 無職 8 学生 9 その他 ( )		
問4 お住まいの中学校区 (○は1つだけ) ※中学校区がわからない方は、( )に町字名を書いてください。	1 西尾 2 鶴城 3 平坂 4 寺津	5 福地 6 東部 7 一色 8 佐久島	9 吉良 10 幡豆 11 不明 (町字名 )
問5 婚姻状況 (○は1つだけ)	1 既婚 (事実婚を含む) 2 離別・死別 3 未婚		
※問5で「1既婚(事実婚を含む)」と回答した方のみ 問6 配偶者・パートナーの職業 (○は1つだけ)	1 会社員・公務員 (会社役員等を含む) 2 派遣、契約社員 3 パート・アルバイト 4 自営業・農漁業 (家族従業者を含む) 5 自由業 (医師・弁護士・会計士・作家・芸術家など) 6 家事専業 (主婦・主夫など) 7 無職 8 学生 9 その他 ( )		
問7 子どもの有無 (○は1つだけ)	1 同居している子どもがいる 2 子どもはいるが同居していない 3 子どもはいない		
問8 家族構成 (○は1つだけ)	1 単身世帯 (1人) 2 1世代世帯 (夫婦のみ) 3 2世代世帯 (親と子) 4 3世代世帯 (親と子と孫) 5 その他 ( )		

## 2 男女の地位に関する意識についておたずねします。

問9 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(A～Hのそれぞれについて、○は1つずつ)

	優遇されている 男性の方が	優遇されている ば男性の方が どちらかといえ	平等である	優遇されている ば女性の方が どちらかといえ	優遇されている 女性の方が	わからない
A 家庭生活	1	2	3	4	5	6
B 職場	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
E 政治の場	1	2	3	4	5	6
F 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
G 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
H 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問10 女性が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。(○はいくつでも)

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 1 企業の管理職           | 7 都道府県、市町村の首長           |
| 2 国家公務員、地方公務員の管理職  | 8 国会議員、都道府県議会議員、市町村議会議員 |
| 3 小学校、中学校、高等学校の管理職 | 9 その他(具体的に )            |
| 4 弁護士、医師などの専門職     | 10 特になし                 |
| 5 大学、企業などの研究者      | 11 わからない                |
| 6 自治会、PTAなどの役員     |                         |

## 3 職業・職場環境についておたずねします。

問11 あなたは女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

- 1 女性は職業を持たないほうがよい
- 2 結婚するまでは職業を持つほうがよい
- 3 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- 5 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- 6 その他(具体的に )
- 7 わからない

問 12 次にあげる、仕事と家庭生活を両立するための制度を知っていますか。(A～Dのそれぞれについて、○は1つずつ)

	内容を 知っている	内容は知らない が制度名は聞いたことがある	知らない
A 育児休業制度	1	2	3
B 子の看護休暇制度	1	2	3
C 介護休業制度	1	2	3
D 介護休暇制度	1	2	3

<問3で「1」～「5」と答えた方(現在働いている方)におたずねします>

問 13 あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。  
(A～Dのそれぞれについて、○は1つずつ)

	取 っ た こ と が あ る	取 り た か つ た が、 取 っ た こ と は な い	取 る 希 望 が な く、 取 っ た こ と は な い	今 ま で 必 要 と な っ た こ と が な い
A 育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4
B 子の看護休暇 (病気等の子どもを看護するための年5日程度の休暇)	1	2	3	4
C 介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4
D 介護休暇 (短期の介護のための年5日程度の休暇)	1	2	3	4

<問 13 でA～Dのいずれかで「取りたかったが、取ったことはない」と答えた方におたずねします>

問 13-1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。(○はいくつでも)

- 1 経済的に苦しくなるから
- 2 職場に休める雰囲気がないから
- 3 仕事の評価や昇進に影響するから
- 4 自分の仕事には代わり的人がいらないから
- 5 一度休むと元の職場には戻れないから
- 6 法制度が整っていなかったから
- 7 その他 (具体的に )

<問3で「1」～「5」と答えた方(現在働いている方)におたずねします>

問 14 あなたの職場では、性別によって不平等な取り扱いがありますか。(〇はいくつでも)

- 1 募集や採用に差がある
- 2 性別によって配置されない職種がある
- 3 同等の能力であっても昇進・昇格に差がある
- 4 賃金・昇給に差がある
- 5 研修や訓練を受ける機会に差がある
- 6 結婚、出産を機に退職する雰囲気がある
- 7 残業の時間に差がある
- 8 仕事と家庭が両立できる制度(育児休業など)の取得のしやすさに差がある
- 9 お茶くみなどの雑用を行う社員の性別に偏りがある
- 10 その他(具体的に )
- 11 特に男女で不平等な取り扱いはない

**4 家庭・地域生活についておたずねします。**

問 15 あなたは、以下のような結婚、離婚などに関する考え方についてどう思いますか。(A～Dのそれぞれについて、〇は1つずつ)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	どちらともいえない わからない
A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
B 結婚は個人の自由であるから 結婚してもしなくてもよい	1	2	3	4	5
C 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
D 結婚しても相手に満足できないときは 離婚すればよい	1	2	3	4	5

問 16 あなたが、平日に家事・育児・介護などに携わる平均的な時間はどのくらいですか。(○は1つだけ)

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1 まったく関わっていない | 4 1時間～3時間未満 |
| 2 30分未満       | 5 3時間～5時間未満 |
| 3 30分～1時間未満   | 6 5時間以上     |

問 17 あなたの生活の中で、実際に優先しているものは次のどれですか。(○はいくつでも)

- 1 仕事 (※1)
- 2 家庭生活 (※2)
- 3 地域の生活 (※3)
- 4 個人の生活 (※4)
- 5 その他 (具体的に )
- 6 わからない

問 18 あなたの生活の中で、理想として優先したいものは次のどれですか。(○はいくつでも)

- 1 仕事
- 2 家庭生活
- 3 地域の生活
- 4 個人の生活
- 5 その他 (具体的に )
- 6 わからない

※1 「仕事」

自営業主(農林漁業を含む)、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤(フルタイム)、パート・アルバイト、嘱託などは問いません。

※2 「家庭生活」

家族と過ごすこと、家事(食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物など)、育児、介護・看護など。

※3 「地域の生活」

地域・社会活動(自治会や町内会の活動、近所との交際・つきあい)など。

※4 「個人の生活」

趣味・娯楽、スポーツなどの余暇活動、学習・研究、自主的に行うボランティア活動など。

問 19 あなたがもし介護が必要な状態になった場合、主に誰に（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいと思いますか。（○は1つだけ）

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1 介護施設などで           | 6 家庭で、息子の妻に       |
| 2 家庭で、公共や民間のヘルパーなどに | 7 家庭で、娘の夫に        |
| 3 家庭で、配偶者・パートナーに    | 8 誰にも世話をしてもらいたくない |
| 4 家庭で、息子に           | 9 その他（具体的に）       |
| 5 家庭で、娘に            | 10 わからない          |

問 20 あなたは、何か地域の活動に参加した経験はありますか。（○は1つだけ）

- 1 現在参加している
- 2 かつて参加していたが現在はしていない
- 3 参加したことはない

**<問 20 で「1 現在参加している」「2 かつて参加していたが現在はしていない」と答えられた方におたずねします>**

問 20-1 現在（今までに）どのような活動に参加していますか（した経験がありますか）。また、今後または引き続き、あなたが参加したい活動はありますか。（A、Bのそれぞれについて、○はいくつでも）

	P T A や 子 ど も 会	男 性 の 会 や 地 域 男 性 団 体  女 性 の 会 や 地 域 女 性 団 体  ま た は	町 内 会 や 自 治 会	老 人 ク ラ ブ や 高 齢 者 の 会	民 間 の 非 営 利 活 動 団 体	N P O や ボ ラ ン テ ィ ア 団 体 な ど	教 養 ・ 趣 味 ・ ス ポ ー ツ の サ ー ク ル	そ の 他
A 参加している（参加していた）活動	1	2	3	4	5	6	7	
B 今後（または引き続き）参加したい活動	1	2	3	4	5	6	7	





問 23 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人から次のようなことをされたことがありますか。(A～Eのそれぞれについて、○は1つずつ)

	何度もあった	1～2度あった	まったくない
A 身体的暴力 (なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど)	1	2	3
B 精神的暴力 (大声で怒鳴る、長期間無視する、ののしる、脅迫するなど)	1	2	3
C 性的暴力 (性行為を強要する、嫌がっているのにポルノ雑誌やビデオを見せる、避妊に協力しない、中絶を強要するなど)	1	2	3
D 経済的暴力 (生活費を渡さない、仕事をして収入を得ることを制限する、相談なく無計画な借金を重ねるなど)	1	2	3
E 社会的暴力 (外出や親族・友人との付き合いを制限する、電話やメールを細かくチェックするなど)	1	2	3

＜問 23 で「何度もあった」「1～2度あった」に1つでも○をつけた方におたずねします＞

問 23-1 そのような行為を受けた後、誰か（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。（○はいくつでも）

- 1 愛知県の相談窓口（配偶者暴力相談支援センターやウィルあいちなど）
- 2 西尾市の相談窓口
- 3 警察署
- 4 民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）
- 5 法務局、人権擁護委員、法テラス
- 6 医療関係者（医師、看護師など）
- 7 家族や親戚などの身内
- 8 友人・知人
- 9 誰にも相談しなかった
- 10 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

→ 「9 誰にも相談しなかった」と答えた方は、次のページの間 23-2にお進みください。

<問 23-1で「9 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします>

問 23-2 誰にも相談しなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 どこ（誰）に相談してよいのかわからなかった
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 3 相談してもむだだと思った
- 4 相談したことがわかると、仕返しされると思った
- 5 自分さえ我慢すればいいと思った
- 6 世間体が悪いと思った
- 7 他人を巻き込みたくなかった
- 8 他人に知られると、これまで通りのつきあいができなくなると思った
- 9 そのことについて思い出したくなかった
- 10 自分にも悪いところがあると思った
- 11 相手の行為は愛情の表現だと思った
- 12 相談するほどのことではないと思った
- 13 その他（具体的に )

## 6 男女共同参画全般についておたずねします。

問 24 あなたは男女共同参画という言葉を知っていましたか。(○は1つだけ)

- 1 言葉の意味を知っていた
- 2 意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった
- 3 まったく知らなかった

問 25 あなたはこの10年くらいの間に、男女共同参画は進んだと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 かなり進んだと思う
- 2 やや進んだと思う
- 3 あまり進んでいないと思う
- 4 まったく進んでいないと思う
- 5 わからない

問 26 次にあげる男女共同参画社会に関する言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。(○はいくつでも)

- 1 男女共同参画社会基本法
- 2 女子差別撤廃条約
- 3 ポジティブ・アクション (積極的改善措置)
- 4 ジェンダー (社会的性別)
- 5 男女雇用機会均等法
- 6 ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)
- 7 ドメスティック・バイオレンス (配偶者からの暴力)
- 8 その他 (具体的に )
- 9 見たり聞いたりしたものはない

問 27 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市民として何をすべきだと思いますか。(○は2つまで)

- 1 講座に参加するなど、男女共同参画について学習する
- 2 固定的な性別に基づく習慣、しきたりなどを見直す
- 3 家庭において、子どもに対し男女平等を基本とする教育を行う
- 4 性別に関わらず、家事や育児、介護などに積極的に関わる
- 5 職場での男女共同参画や、仕事と生活の両立を進める
- 6 地域活動などにおいて、活動の中の男女共同参画に配慮する
- 7 市政に対する関心を深め、参加意識を持つ
- 8 その他 (具体的に )
- 9 特にない
- 10 わからない

問 28 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○は3つまで)

- 1 育児休業や介護休業の制度を整備・充実する
- 2 育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる
- 3 在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる
- 4 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める
- 5 管理職に女性を積極的に登用する
- 6 賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす
- 7 研修や能力開発の機会を充実する
- 8 男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する
- 9 事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する
- 10 その他 (具体的に )
- 11 特にない
- 12 わからない



西尾市男女共同参画に関する市民意識調査【調査結果報告書】

発行年月 平成 25 年 3 月

発行 西尾市

編集 西尾市地域振興部市民協働課

〒445-8501

愛知県西尾市寄住町下田 22 番地

TEL : 0563-65-2178 (ダイヤルイン)

FAX : 0563-57-1317